



第71回

岩手芸術祭

2018

記録集



ごあいさつ



第71回岩手芸術祭実行委員会
会長 柴田 和子

県民の芸術文化活動の祭典として定着しております岩手芸術祭も、多くの皆様に親しまれながらこれまで回を重ね、第71回を迎えることとなりました。

岩手芸術祭は、戦後の混乱期に芸術文化活動の振興により人々の心に潤いを与えようとする先人の努力により昭和22年に始まって以来、途絶えることなく毎年開催されてまいりました。さまざまな時代を経て長い歴史を刻んできたことを思いますと、誠に感慨深いものがございます。

様々な団体がコラボレーションして作り上げる舞台として毎年好評を博している「総合フェスティバル」は、10月に岩手県民会館で、翌1月には宮古市民文化会館で開催されました。岩手の文化芸術の魅力を総合的に発信する場が増えることで、県民の皆さまの鑑賞の機会も増え、岩手芸術祭の一層の盛り上がりにつながるものと期待し、今後更なる内容の充実を図りながら継続して参りたいと考えております。

今年の総合テーマには「この手から 広がる世界 繋がる文化」が選ばれました。この言葉のとおり、今後の芸術祭の更なる発展のため、創造の輪を広げ、次世代へと確実に継承していききたいものです。

ここに第71回岩手芸術祭の記録をまとめました。本記録を芸術文化活動の参考資料として御活用いただければ幸いに存じます。

終わりに岩手芸術祭の開催に当たりまして、御支援、御協力いただきました岩手県をはじめとする各主催者団体並びに各市町村、関係団体、関係各位に感謝を申し上げます、ごあいさついたします。

ごあいさつ

第71回岩手芸術祭実行委員会会長 柴田和子

第71回岩手芸術祭の概要

開幕式典・フェスティバル

美術展

日本画 洋画 版画 彫刻 工芸 書道 写真 デザイン 現代美術 水墨画

三賞受賞作品

巡回美術展

小・中学校美術展

芸術祭受賞作品

巡回小・中学校美術展

演劇

伝統芸能

能楽 邦楽 茶道 華道 吟詠剣詩舞道

音楽

合唱 声楽 弦楽 三曲 吹奏楽 ピアノ ギター 管弦楽

舞踊

洋舞 日舞

演芸

民謡 新舞踊

県民文芸作品集

文芸祭

小説大会 戯曲大会 文芸評論大会 随筆大会 児童文学大会 詩の大会

短歌大会 俳句大会 川柳大会

アートフェスタいわて2018―岩手芸術祭受賞作品・推薦作家展

テーマ募集

実行委員会名簿

収支予算書

事務局日誌抄

ポスターデザイン

編集後記

第71回岩手芸術祭市町村別応募状況一覧

第71回岩手芸術祭開催状況一覧

表紙デザイン 小屋畑 勝夫

4 6 7 21 30 31 40 42 43 50 69 90 95 115 116 117 119 120 122 123 104 101

第71回岩手芸術祭 実施状況の概要

	実 施 内 容 等
実行委員会	開幕式典／表彰式／テーマ募集／記録集作成／実行委員会（3回）
総合フェスティバル	盛岡開催（鑑賞者2,000名）／地域（宮古市）開催（鑑賞者1,000名）
美 術 展	公募展 日本画／洋画／版画／彫刻／工芸／書道／写真／デザイン／現代美術／水墨画（応募828点、鑑賞者3,973名）
巡回美術展	美術展上位入賞者作品77点県内7会場で巡回展示（鑑賞者1,277名）
小・中学校美術展	児童・生徒の書写・美術作品の公募展 小学校絵画・書写／中学校美術・書写（応募6,160点、鑑賞者2,562名）
巡回小・中学校美術展	小・中学校美術展全入賞作品及び入選作品の一部、合わせて350点を県内4会場で巡回展示（鑑賞者503名）
演 劇	6会場で6団体が公演（鑑賞者2,055名）
伝 統 芸 能	茶会／吟詠剣詩舞道／謡と仕舞の会／華道展／邦楽のつどい（鑑賞者4,365名）
音 楽	ソロと室内楽の調べ／ピアノ演奏会／三曲演奏会／声楽部門演奏会／ギター音楽の夕べ／吹奏楽演奏会／合唱祭／管弦楽フェス（鑑賞者4,031名）
舞 踊	洋舞発表会／日本舞踊発表会（鑑賞者2,803名）
演 芸	新舞踊発表会／岩手民謡まつり（鑑賞者1,920名）
移 動 公 演	新舞踊〔奥州市〕／民謡〔岩泉町〕／新舞踊〔一戸町〕（鑑賞者598名）
県民文芸作品集	公募による作品集の刊行 小説／戯曲・シナリオ／文芸評論／随筆／児童文学／詩／短歌／俳句／川柳（応募487点）
文 芸 祭	小説大会／戯曲大会／文芸評論大会／随筆大会／児童文学大会／詩の大会／短歌大会／俳句大会／川柳大会（参加者419名）

公募事業応募点(者)数一覧（第71回／第70回）

種 目	応募点数	種 目	応募点数	種 目	応募点数
日 本 画	39/28	小 説	17/15	小・絵画	3,180/3,864
洋 画	179/182	戯曲・シナリオ	7/6	小・書写	1,710/2,776
版 画	39/43	文芸評論	5/7	中・美術	357/434
彫 刻	24/24	随 筆	46/58	中・書写	913/1,010
工 芸	48/59	児童文学	11/10	合 計	6,160/8,084
書 道	172/174	詩	81/82		
写 真	136/140	短 歌	74/67		
デザイン	57/42	俳 句	185/187		
現代美術	34/35	川 柳	61/78		
水墨画	100/104			ピ ア ノ	17/18
合 計	828/831	合 計	487/510	声 楽	4/1



第71回岩手芸術祭の概要

71回目となる平成30年度の岩手芸術祭は、県民の優れた芸術文化活動の成果発表と鑑賞の機会を提供するため、盛岡市をはじめ県内各地で美術展、小・中学校美術展、演劇、伝統芸能、音楽、舞踊などの舞台公演等、さらには県民文芸作品集の刊行や文芸祭など多彩な事業を展開した。

また、全体で取り組んだ事業としては、開幕に合わせて行う恒例の「総合フェスティバル」（岩手県民会館）、フェスティバルと同時開催の「芸術体験イベント」、更には地域開催として「総合フェスティバル in 宮古・下閉伊」（宮古市民文化会館）が実施された。県内の小中高生、大学生、専門学校生など次代を担う世代の参加や、郷土芸能団体との共演など、幅広い舞台構成は、いずれも好評を博し、県内の芸術文化団体との融合と活性化にひと役買った。

一方、作品の応募状況は減少傾向にはあるものの、新しい試みや若い方々の参加など明るい話題もある。舞台公演なども集客に苦心している部門が多く、各事業の入場者数は三万人弱で推移しているが、事業の際のアンケートでは8割近くの方が満足と回答しているので、それを励みに更に多くの県民にご参加いただけるよう、運営したい。

開幕式典・フェスティバル

岩手芸術祭総合フェスティバルは平成30年10月6日(土)、岩手県民会館大ホールに満席となる約2000人の観客を迎え、盛大に開催された。今回は、県芸術文化協会専門団体のコラボレーションなど多様なジャンルの演目のほか「つなぐ」をテーマに郷土芸能「中野七頭舞」、盛岡市立黒石野中学校の合唱、岩手女子高等学校の書道パフォーマンスなど、地域で活動している団体の舞台発表などが盛り込まれた内容で、充実したフェスティバルとなった。

特別出演としては、秋田県の「国指定重要無形民俗文化財・西馬音内盆踊り」を招聘した。全国的にも人気の高い盆踊りであり、当初より県内外からの問い合わせも多く、鑑賞した方々からは満足の声がかれた。

第1部「人と人をつなぐ」は、国指定重要無形民俗文化財・ユネスコ無形文化遺産登録早池峰神楽「大償神楽」(大償神楽保存会)の権現舞で幕を開け、岩手を代表する文化団体、個人の舞台が会場を魅了した。第2部「思いをつなぐ」では、岩手芸術祭功労者への感謝状の贈呈、岩手芸術祭テーマ優秀作者の表彰を行った。第3部「次の世代へつなぐ」では若い世代の書道パフォーマンスや出演者全員による大合唱など、文化芸術のバトンは確実に次の世代へ

つながった。

また、地域開催としては、平成31年1月20日(日)に宮古市民文化会館を会場に「第71回岩手芸術祭総合フェスティバルin宮古・下閉伊」を開催した。

第1部「世代をつなぐ」、第2部「ジャンルをつなぐ」、地域をつなぐ、第3部「道をつなぐ」とこちらも宮古水産高校太鼓部を皮切りに「つなぐ」をテーマとしたパフォーマンスを次々披露した。終盤には1月6日に公演を行ったばかりのみやこ市民劇「拓け、いのちの道を」劇中歌をメドレーで披露するなど、会場を沸かせる熱演に観客が魅了された。観客は1000人だった。

○功労者表彰(12名)

美術部門／菅田美世子(日本画)・渡辺鉦悦(洋画)・佐々木幸子(工芸)・斎藤溪石(書道)・井上美知子(デザイン)

舞台等部门／館林克典(演劇)・菊谷愛秋(茶道)・

水木歌董(日舞)・小笠原太吉(民謡)

文芸部門／久保田久恵(短歌)・川原道程(俳句)・

望月善次(文芸評論)

美術展

県民の優れた芸術文化活動の成果発表と鑑賞の機会を広く県民に提供し、芸術文化の創造と発展に寄与することを目的として開催しているものである。

美術部門実行委員会の運営

5月10日 第1回実行委員会

(部門役員の選出、開催計画、公募要項等について協議)

5月31日 事務局員会議

(展示日程、印刷物の配布計画等について協議)

8月24日 第2回実行委員会

(開催日程、作品搬入・審査等について協議)

2月26日 第3回実行委員会

(実施状況の報告、次回の開催計画、公募要項等について協議)

作品搬入・受付

9月8日(土)、県民会館及び公会堂において行われた。

応募点数は10種目で828点であった。(昨年は831点)

作品審査

9月9日(日)、各搬入・受付会場において種目別に行われた。種目別の入賞・入選作品数は次のとおり。

○日本画	39	(39)	○洋画	179	(179)
○版画	39	(39)	○彫刻	24	(24)
○工芸	47	(48)	○書道	149	(172)
○写真	136	(136)	○デザイン	48	(57)
○現代美術	34	(34)	○水墨画	92	(100)

※()内は応募点数

展示会場及び会期

会場・岩手県民会館展示室

第1期 10月11日(木)～14日(日) (工芸・書道)
第2期 10月18日(木)～21日(日) (日本画・版画・水墨画)
第3期 10月25日(木)～28日(日) (写真・デザイン・現代美術)
第4期 11月1日(木)～4日(日) (洋画・彫刻)

表彰

芸術祭賞、優秀賞、奨励賞及び部門賞受賞者の表彰式を11月23日に行った。(会場・サンセール盛岡)

美術部門実行委員会委員

〔日本画〕西川善有・片山道子〔洋画〕石川西三・岩渕毅弘〔版画〕日山登啓・鈴木和雄〔彫刻〕清武英司・曾根達也〔工芸〕阿部裕之・竹田康夫〔書道〕吉田晨風・佐々木飛鴻〔写真〕藤村政憲・菊池克美〔デザイン〕竹村育貴・吉田康則〔現代美術〕小笠原卓雄・浅倉 伸〔水墨画〕鈴木孝男・北村義美

種目別の記録

日本画

芸術祭賞Ⅱ「ある日の記憶」花立ゆかり（矢巾町）
 優秀賞Ⅱ「コスモス」松田津多子（盛岡市）
 奨励賞Ⅱ「ジロちゃんの散歩道」藤原妙子（矢巾町）／「秋宵」関 尚子（山田町）
 部門賞Ⅱ「秀峰岩鷲山」濱田雄司（宮古市）／「牡丹花」平松比紹（盛岡市）／「庭の黄牡丹」箱石恵子（山田町）

講評

本年度は、新しい人が参加しやすいように公募作品のサイズを小さい作品でも良しとした事で、多くの方々の参加を得ることができ出品作品が増えました。これからも研鑽を重ね、少しずつ大きい作品にも挑戦していつてほしいと思います。小品については、小さな「春」を集めて大きな「春」のアートにしよう。と呼びかけ、「春」という共通のテーマで制作してもらいましたので、日本画の展示会場全体が、暖色の柔らかな雰囲気につつまれました。来年の小品のテーマは「夏」です。今から準備してください。受賞者の作品は、向上心を持って新たな試みにも意欲的に取り組んでいて、大きな成長がみられました。

芸術祭賞Ⅱ「ある日の記憶」花立ゆかりさんは、確かな描写力に加え、空間の使い方が素晴らしく、その余白には

審査員Ⅱ西川善有（岩手県日本画協会会長）

片山道子

〃

副会長

洋画

芸術祭賞Ⅱ「明るい未来」大森隆義（東京都）
 優秀賞Ⅱ「時間の交差点」高橋邦法（紫波町）
 奨励賞Ⅱ「語らい」佐藤栄一（二戸市）／「光射す」安部 隆（花巻市）
 部門賞Ⅱ「コクリコ想い出」前川ゆみ子（宮古市）／「過ぎ去る風景」朝 金井保憲（矢巾町）／「そらをうつす」10 村上絃一（盛岡市）／「地下水」伊藤真理子（盛岡市）／「刻む」平山由紀子（盛岡市）／「隠坊」DJ RIP（盛岡市）／「化身木」山根ノブ子（山田町）／「驟雨の中を」黒澤笑子（奥州市）／「秋を流れる」工藤哲郎（岩泉町）／五月のひかり（Ⅱ）八木毅（盛岡市）／「守護神のいる町」武藤 章（宮古市）／「北国の鹿」川杉雅江（北上市）／「花」飯高幹子（滝沢市）／「クリムト（ブブン）」水上清美（久慈市）／「雨音」藤田もも絵（盛岡市）

講評

昨年度より微減の179点が寄せられた。ここ3年は200点に届かない出品数であり、減少傾向が危惧される。

常連作家の安定感のある作品から、若い作家の新鮮な表現意欲に溢れる作品までバラエティーに富んだ展示となった。

たぐさんの温かい物語が詰まっているのでしよう、鑑賞する者の想像をかき立てます。懐かしい想いに浸る方もおいのではないのでしょうか、大変素晴らしい作品です。

優秀賞Ⅱ「コスモス」松田津多子さんは、暖色を中心に淡い色調につつまれ、豊かな景観を表しています。人物の表現にも工夫が見られます。

奨励賞Ⅱ「ジロちゃんの散歩道」藤原妙子さんは、おらかな温かい作風で猫も花も可愛らしく表現されています。扱いにくい日本画の岩絵の具も大変上手に使いこなしています。

奨励賞Ⅱ「秋宵」関尚子さんは、幻想的な夜の世界を、整理された植物の構成で遠近感を出し、美しい色調をもつて神秘的に表現しています。

（西川善有）

た。時代性の反映であろうか、具象・半具象の作品が増えている。

芸術祭賞、大森隆義さんの『明るい未来』は中心や視線誘導の作用をもたない均一な画面、いわゆるオールオーバーな絵作りを意識し、公団住宅のベランダを描いた。縦横に繰り返される直線のパターンの中に、それぞれの営みが色彩として構成されている。陽射しの中の、その調和のとれた不規則性の中に明るい未来を表現している。

優秀賞の高橋邦法さんの『時の交差点』は、安定感のある描写と巧みな画面構成で様々なイメージを想起させる独特な世界を描いている。一つ一つのモチーフや構成から意味の読み取りは鑑賞者に委ねられているが、確かな技術が画面の説得力を高めている。

奨励賞の佐藤栄一さんの『語らい』は中高齢夫婦の会話を力強い表現で描いている。家族を花で表現し、



◀日本画審査



▶洋画審査

笑顔に包まれた暖かい雰囲気を作り出している。

同じく奨励賞の安部隆さんの『光射す』は、雑木林の中に光が射し込む光景を、震災からの復興への願いを込めながら叙情的に描いている。身近にある心惹かれた一週間の風景を忠実に表現している。

全体としては、小ぶりな作品が多かったが、小作品でも密度が高く見応えのある作品もあった。丁寧に描き込まれた意欲作が多く、芸術祭にかける意気込みが感じられる。自由で斬新な発想、描く対象と自己のテーマの掘り下げの深度が課題であり、今後に期待したい。

(岩淵毅弘)

審査員＝洋画部門理事

版画

芸術祭賞＝「ハジメニ西岩手山アリキ」日山登啓

(盛岡市) 優秀賞＝「田起こし代かき5月5日」中村文子

(盛岡市) 奨励賞＝「キミガキニナル」渡辺万里(盛岡市)

／「悠久」源新和子(盛岡市) 部門賞＝「IN BOU」

BOU2]DJ RIP(盛岡市)／「海峡／Tempest」鈴木和雄(矢

巾町)／「Usinai mono」伊藤真理子(盛岡市)／「Urei」

鷺田剛生(滝沢市)

奨励賞の渡辺万里さん「キミガキニナル」は、銅板の細やかな線と淡い色彩により野の植物に寄せる思いを詩的に捉えた作品。同賞の源新和子さん「悠久」は、木版による直感的な掘りと色の重なりがうまくいった。長い年月を経た巨木に対する感動が伝わってくる。

部門賞の木版では、繰り返しシンプルな形がユーモラスなDJ RIPさんの「IN BOU2」、目だけを大胆に表現した鷺田剛生さんの「Urei」。銅版では荒れた海と空の表現が物語性を感じさせる鈴木和雄さんの「海峡／Tempest」。紙版では、人体の重なりが奇妙な影絵のような伊藤真理子さんの「Usinai mono」が受賞した。

今回は作品の大小にかかわらず自身の版画作品をより高めようとする意気込みが感じられ、魅力のある作品が多かった。来年度の新たな作品との出会いを楽しみにしている。

(田村晴樹)

審査員＝阿部陽子(版画家)

田村晴樹(画家)

彫刻

芸術祭賞＝「spring 2018」八重樫篤(一関市)

優秀賞＝「象徴としての男性 象徴としての女性」山岸

稜(東京都) 奨励賞＝「mnemosyne」半田颯音(新潟県)

《講評》 毎年、新たな作品

との出会いを楽しみに審査に当たっている。初めての方はもちろんだが、続けて出している方々がどのような作品を出品してくるのか、前回とは違う何かをいつも期待している。前年の合評会でお会いした方々のステップアップした作品と出会うのは嬉しいものである。

今年の出品数は木版画18点、銅版画14点、紙版画5点、シルクスクリーン2点の39点と多くはないが学生、社会人、ベテランと出品者24名の年齢構成は幅広い。

芸術祭賞の日山登啓さんの木版画「ハジメニ西岩手山アリキ」は、多色刷りの技術を駆使した重厚な色彩と生き生きとした山肌の表現による風格のある山岳風景である。

優秀賞の中村文子さん「田起こし代かき5月5日」は、不思議な形状の雲の下、水の入った小さな水田と轍の跡を銅版画の陰影によって魅力ある風景に変身させている。

／「遠野コラーージュ物語」佐藤芳宏(盛岡市) 部門賞＝「17歳」菅井孝子(盛岡市)／「揺らぐ」夕向杏奈(矢巾町)

《講評》 彫刻部門への応募は、昨年度と同じ24点であった。人物をテーマとした作品が多かった点は、ここ数年の傾向と変化がなかった。全体評を含め受賞作については、審査員の山内正宣氏の講評を掲載する。

『作品と真摯に向き合う作家の姿勢が、創意に富んだ個性豊かな表現に結びついていたものの、人体を題材とした写実的表現が中心で、挑戦的な試みはほとんど見られなかった。芸術祭賞の八重樫篤さんの作品は、見えない部分を含めて努力の跡が感じられ、独特の造形感覚による魅力的な表現である。優秀賞の山岸稜さんの作品は、独自の人物表現を追求する意図が強くにじみ出た力作である。次の展開にも大いに期待したい。



◀ 版画審査



▶ 彫刻審査

奨励賞の半田颯音さんの作品は、流木を効果的に取り入れ
霧囲気のある内容に仕上がっている。安定感はあるが、動
きを意識した表現にひと工夫ほしい。同じく佐藤芳宏さん
の作品は、遠野物語の世界観を独自の感性で表現している。
部門賞の菅井孝子さんの作品は、造形的な強さと落ち着い
た色合いの着色が調和し、強い存在感がある。同じく夕向
杏奈さんの作品は、粗さはあるものの髪の実現を工夫する
ことで、動きのある表現となっている。今年度も、彫刻部
門を長年支えてくださった方々の充実した作品が数多く出
品された。内容的には申し分なく、どの作品が受賞しても
おかしくない状況であったが、私の審査方針として、あえ
て出品回数のない方の作品を取り上げることとした。昨
年度に続いて審査を担当させていただき、新たな作家が出
品することはこれからの彫刻部門にとって大きな意味を持
つものと考えてのことである。ベテランと新人の相乗効果
による活性化につながることを期待したい。』

1年間の制作の集大成となる作品発表の場として、出品
される方々に魅力を感じていただけるような展覧会を目指
して事務局として一杯運営していきたいと考える。

〔清武英司〕

審査員 山内正宣（彫刻家）

現した。震災によりダメージを受けた三陸海岸への作者の
想いであろうか、海からの帰還として自然がよみがえるこ
とへの願いが感じられると審査員は述べている。優秀賞「儚
幻」漆芸作品、青柳ひで子氏は昨年の入賞に引き続きの入
賞を果たした。薄肉レリーフを施し、朱や金彩により古代
へのロマンを表現したパネル作品。奨励賞「そよぎ」那須
川重廣氏の陶芸作品。四角柱の各面に異なった陶土により
流れるような模様を施し、全体として風をも感じさせる作
品である。同奨励賞には「緑陰に遊ぶ」が選出された。昆
野明栄氏の安定した技術による藍染作品。リズムカルに五
つの大輪を配し藍と白の対比が美しい。やはり、昨年に引
き続きの入賞である。

部門賞は優れた技量の織作品。木工に漆を施した盛器。
伝統技術による酒器等はいずれも小品であるが好感のもて
る佳作品。また異なった金属素材の組み合わせによる彫金
パネル作品。幾何学が美しい陶作品があり、多様な工芸分
野から選考された。審査にあられた先生方より、前に述べ
たような主な概要のご好評をいただいている。次年度の
展覧会にはより多くの出品者による作品展になるように期
待している。

〔阿部裕之〕

工芸 芸術祭賞 Ⅱ「黄昏

に、彼は何を想うのか」齊
藤未来（青森県） 優秀賞

Ⅱ「儚幻」青柳ひで子（一
関市） 奨励賞 Ⅱ「そよぎ」

那須川重廣（奥州市）／「緑
陰に遊ぶ」昆野明栄（遠野
市） 部門賞 Ⅱ「冬にむか

うサンプル」高橋由美（花
巻市）／「樺造盛器」大森
翼（宮古市）／「銚子」白

柚子 澤野諒和（盛岡市）
／「風の盆」鈴木正二（奥
州市）／「16面削り花器」

佐藤鉄男（北上市）



◀ 工芸審査

《講評》 第71回岩手芸術祭工芸部門の総搬入数47点、昨年
より減少傾向の出展数であった。もとより工芸は多様な分
野があり偏りが出る場合があるが、応募総数の減少の原因
は気になるところである。

芸術祭賞は「黄昏に、彼は何を想うのか」が選出された。
齊藤未来氏の鑄造による作品、カメを力強いフォルムで表

審査員 春山文典（日展理事）

菊池房江（岩手工芸美術協会会長）

書道

芸術祭賞 Ⅱ「抄」木馬館 下田海夷（大船渡市）

優秀賞 Ⅱ「戒豆詩」熊谷碓斗（盛岡市） 奨励賞 Ⅱ「謝淞洲詩」
兼平岱夔（軽米町）／「盧綸詩」清水嶺鵬（宮古市） 部

門賞 Ⅱ「身に沁みて」餘目彩佳（盛岡市）／「蘇軾詩」石
井 縁（盛岡市）／「新古今和歌集より」小野茜葉（盛岡市）

／「七言律詩」片方正明（北上市）／「馮夢禎詩」工藤汀
苑（盛岡市）／「月下の一群より」小針寛乃（宮城県）／「韓

昌詩」千葉桂華（紫波町）／「新古今和歌集より」千葉溪
萌（盛岡市）／「權徳興」畠山素園（花巻市）／「白楽天

詩」福井豊亥（盛岡市）／「張問陶詩」堀野裕如（二戸市）
／「季模詩」山口穂乃果（盛岡市）／「山頭火の句」横田

朗子（盛岡市）

《講評》

出品点数172点、入賞入選作品149点、展示
作品は公募、招待、審査員合わせて172点。近年続く高
齢化の影響等で懸念された出品点数もほぼ昨年並みで、公
募作品には丹念に書き込まれた力作が多く、今後も県内各
地区からの応募を大いに期待したい。

芸術祭賞の下田海夷さん（大船渡市）の作は、余白の空

◀書道審査



間を支配しながら、確かな書法で書き上げた清涼感のある熟達の快作。優秀賞の熊谷碓斗さん(盛岡市)は、雄大な運筆で料紙と墨色の相性よろしく多彩な連綿線に強弱の変化を取り入れ安定感のある作に仕上げた。奨励賞・兼平岱夔さん(軽米町)の行草作品は、行の振幅をつけながら絶妙な筆の開閉による運筆で立体感のある力作。同じく奨励賞の清水嶺鵬さん(宮古市)の作品は、余白の美を際立たせ流動感と迫力に満ちた秀作で完成度が高い。

三賞作品に加え、巡回展には福井豊亥さん(盛岡市)と工藤汀苑さん(盛岡市)、堀野裕如さん(二戸市)の漢字作品、小野茜葉さん(盛岡市)の仮名作品の4点が選出された。福井さんは中国明清時代の古典を取り入れた意欲的な単体行草作品。工藤さんは繊細な筆致で多字数横作品を仕上げた。堀野さんの作は、中国周時代の金文を基調とした篆書

作品で、バランス感覚も良く練度の高さが窺える。小野さんは、二段構成で仕上げた細字仮名作品で、リズムカルな強い線質で流れを作り作品全体の盛り上げにも成功している。入賞作品はいずれも力感溢れる作が揃い、墨量豊かで黒と白の対比の美しい作品が目立った。特に、若い世代の奮起が頼もしい。

(佐々木飛鴻)

審査員 吉田晨風 (岩手書道協会会長)

堀内青巒	()	副会長
野田杏苑	()	副会長
佐々木飛鴻	()	理事
佐竹松濤	()	理事
松戸亮濤	()	理事
丸若敬葉	()	理事

写真 芸術祭賞 浄火 菊地珠生(盛岡市) 優秀賞

「snow drop」中屋鋪肇巳(宮古市) 奨励賞 平成最後の夏休み 菊池賢一(釜石市) 「雪の朝」高橋一男(盛岡市) 部門賞 桜の春夏秋冬 後藤靖行(盛岡市) 「夫婦」工藤卓美(盛岡市) 「境界」桑兒 元(盛岡市) 「と

うろうろ ながす 豊田和彦(盛岡市) 「ハレの日」馬コとともに 佐藤智子(盛岡市) 「ばんから応援」平館徹(盛岡市) 「祭りの日」下斗米光円(盛岡市) 「お母さんの愛猫」森田洋子(盛岡市) 「いぶりがっこ」藤村政憲(盛岡市) 「兄弟愛」照井敏男(盛岡市) 「HOT SUMMER」川村 誠(盛岡市) 「おひさまシャワー」齋藤英明(盛岡市) 「遠い海の記憶」武藤 章(宮古市) 「オーイここにいろよ」木村明夫(宮古市) 「地の底の縄文」奈良桐人(滝沢市) 「家路。秋の香りに包まれ」菅原江利子(奥州市) 「森の物語」生田輝夫(釜石市) 「緑園」遠藤泰男(紫波町) 「馬上の絆」赤坂満夫(山田町) 「火神降臨」高澤安男(葛巻町)

《講評》「身近な絶景」という言葉をよく使うが、これは自分の身の回りのシャッターチャンスとか、風景とか、瞬間とかに注目してねと言う事ですが、それ以上に「お約束の被写体をお約束のように撮る」じゃなくて、自分なりの目線とか、自分なりの興味をもって、被写体をとらえていく事が大事だと言う事。今回の作品は、自分の好きな風景、自分の好きな瞬間、そういうものを捉えている人が多くてすごく良かった。

組み写真がもう少し多くても良いかなと思った。組み写

真の延長線上に単写真の作品ができることが多い。組み写真をやってみよう、ストーリーを組んでみよう、1つのドラマを作ってみよう、という処にチャレンジしてほしい。芸術祭賞「浄火」菊地珠生／見てパンチのある絵、瞬間、仁王立ちのフンドシの男、すべての要素がそろっている。写真的に言うところ距離感がちょうど良い。人物に近づいても違うかなと思うし、離れると火の迫力が出ない。絵の力と、その瞬間、おいしい処を、冷静に写真の中におさめた処が評価できる。

優秀賞「snow drop」中屋鋪肇巳／無人駅の中でどんなドラマがあるのだろう。どんなストーリーがあるのだろう。見続けて写真と語りたくなる写真。ストーリー感がある。シンプルにバランスの取れた構図。精巧にできたミニチュアかなにか、そういう世界観。シンプルなくせにドラマティック。

奨励賞「平成最後の夏休



▶写真審査

み「菊池賢一／みずみずしい表情を狙って撮ったと思うが、想像以上に水の躍動感を止めた。面白みのある瞬間、二人の良い表情を撮れた、後ろの空が良い。思い切り寄ったのが良い。水をかぶるくらいの距離で撮った迫力が良い。

奨励賞「雪の朝」高橋一男／背景とのバランスが良い。水面のグラデーションの表情。白鳥をちよつと左に寄せたことで、右の空間がストーリーを持った。絶妙な瞬間をとらえたバランスとシャッターチャンスが良い。

（熊切大輔）

審査員＝熊切大輔（日本写真家協会会員）

「デザイン」

【自由】芸術祭賞＝「サケ・ハラスメント」「イ

ツキ飲み撲滅月間。」佐々木海太郎（盛岡市） 優秀賞＝

「ようこそ釜石」大野晃平（釜石市） 奨励賞＝「HAPPY

BIRTHDAY」(R) 小山田拓司（盛岡市）／「インゴダケ

（毒）」DJ RIP（盛岡市） 部門賞＝「宮沢賢治家族の肖像

」宮沢賢治家族の肖像Ⅱ」吉田康男（盛岡市）／「SNS」

白石幸久（矢巾町）／「ソントクロース」小田島凌一（釜

石市）／「春の遠野」村野充弘（盛岡市）

《講評》 近年、ベテランと若手の拮抗が目立っていたが、今年には若手と新たな作家の活躍が著しい回となった。特に

も、斬新なイラストレーションの秀作が上位に溢れた。また、佐々木海太郎さんは自由部門、課題部門の両部門で最高賞を達成された。

芸術祭賞・佐々木さんの「サケ・ハラスメント」「イッキ飲み撲滅月間。」は、古典的な筆絵で現代のマナーアップを表現した作品。大型ポスターの2連作品の見ごたえも充分だ。優秀賞・大野さんの「ようこそ釜石」は、釜石の魅力をふんだんに盛り込んだSFタッチのイラスト作品。奨励賞・小山田さんの「HAPPY BIRTHDAY」(R)は、宗教画のモチーフを独自の表現でコミカルに仕上げた。奨励賞・DJ RIPさんの「インゴダケ（毒）」は、全て手書きで描ききられている。大野さん、小山田さん、DJ RIPさんの作品は秀逸なイラストレーションで細部まで楽しめる作品。部門賞・吉田さんは、宮澤賢治の代表作を家族の肖像として構成した力作。白石さん



◀デザイン審査

は、現代のコミュニケーションを軽やかなビジュアルで表現。小田島さんはコミカルな言葉遊びで現代日本を風刺、村野さんは春の一場面を爽やかな線画で表現。

課題部門、金賞・佐々木海太郎さんの「吾輩は緑である」

は、紙資源と森林との関係性を大胆なビジュアルで表現。

タイトルの「緑」に対して、赤の配色が危機感の警鐘を感じさせる。銀賞の吉田さんの「それはエサじゃない！」は、

垂直に降下する水鳥のイラストで、水上のゴミを動物がエ

サと勘違いをする現代のゴミ問題を表現。銅賞の佐々木優

子さんの「忍び寄る影響」は、海洋プラスチックゴミが細

かな粒子となり海洋生物の体内に取り込まれ、食卓から私

達の体に取り込まれていく問題だ。まだ認知が浅い問題の

ため静かなる警鐘を感じさせる作品だ。

今後作品制作におけるコンセプトワークを磨き、新たな

ビジュアル表現の開拓を期待したい。

（竹村育貴）

審査員＝長谷川羊介（クリエティブディレクター）

竹村育貴（岩手デザイナー協会会長）

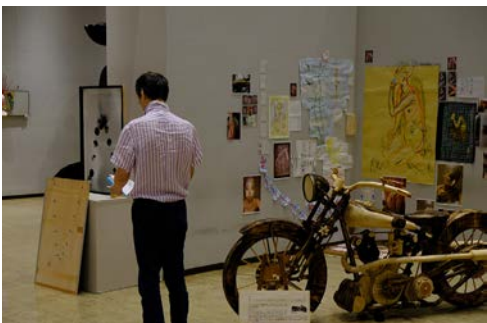
「現代美術」

芸術祭賞＝「かわかないあいならほいつ

かいすて」松田航平（盛岡市） 優秀賞＝「ある日の太陽

（2018.4.14）」鈴木研作（盛岡市） 奨励賞＝「グルングルン」渡邊若子（花巻市）／「SAYONARA」伊藤真理子（盛岡市） 部門賞＝「滅びない生きとし生けるもの（十五）」浅倉 伸（盛岡市）／「極楽浄土」くどうせつこ（盛岡市）／「モナリザ（ペーパーリング）」遠藤昭子（北上市）／「そらをうつすー9」村上紘一（盛岡市）

《講評》 私にとって今回が2度目の審査となった。美術という枠の中にありながら、いずれの作品もまったく違う方向を目指していることがわかった。そういえば今回、募集要項から「前衛的」という言葉が消えた。前衛芸術運動は、過去の束縛を振り払うため今までにない斬新な表現を試みてきた。その束縛がすでに消え、新たな価値の創造へと歩を進めたのだろう。そこで改めて見えてきたのは「異なるものたちの共存」という言



▶現代美術審査

葉だった。

芸術祭賞は松田航平の「かわかないあいならほしいつかいすて」。即興的な線描、衝動的な削り込み、取って付けたような付属品、そして極めて個人的な言葉。これらひとつひとつの要素が脈絡なく展開しつつ、ひとつの世界観を形づくってゆく。優秀賞は鈴木研作の「ある日の太陽(2018.4.14)」。熊本地震の日の太陽の軌跡を記録したものだ。遠隔地の災害も宇宙レベルから見ればひとつの連鎖しただけのこととなる。

奨励賞は渡邊若子と伊藤真理子。視線がこれほど意識に突き刺さることを渡邊の作品で知らされた。伊藤のキャンバス上の柔らかな塊は、静かな死とともに濡れた地面からの再生を予感させる。部門賞は浅倉伸、くどうせつこ、遠藤昭子、村上絃一の4人。浅倉の作品に描かれる臓器と頭部は、意識と進化の相互作用を暗示する。くどうは、荒削りの木枠によって赤糸の微妙なテクスチャを引き立てる。ペーパークイリングの異なるパーツの集積により、遠藤は手芸の技法を造形表現に高めた。木の葉の白い縁取り等、村上の表現の実験が新たな視覚体験をもたらす。

ところで賞は逃したが気になる1点があった。DJ Rmの「無暴論DJ」である。芸術祭の美術展の8つの部門名を壁に貼り、それぞれ作品を飾るように枠をしつらえた

全体の作品については、

年々新人の方々も含めて、技術的には上達して来て、平均的で、今一步との感じられる作品も多くありました。其の中でも良い点を見出して審査にあたり、緊張して厳選致しました。

絵を描くにあたり、見て観察して、感動した事から自分の心情も含めて紙上にどう表現するかで観る側の心をひきます。上位入賞者は、其の点が優れた所の有る作品が、賞に繋がったと思います。これからの課題としては、長年展示会をしておりますと、同じ様な題材が出版されるのは仕方ない事です。構図を考える時に、視野、視点を広げて、たとえば同じ構図でも、引いて見る、近づける、斜めに見る、季節を考える等の工夫をして、作品作りをすれば良いと思います。

○芸術祭賞（晩秋の廃屋）

写生をもとに良く観察して丁寧に描き、全体を前景の二



◀水墨画審査

のだ。まさにこの会場でしか成り立ち得ない表現である。場の意味をいかに取り込めるか、これもまた現代美術の醍醐味のひとつである。

（松永康）

審査員 松永康（アートコーディネーター）

水墨画

芸術祭賞 晩秋の廃屋（葛巻）渡邊 力（盛岡市）
優秀賞 「夫婦岩」小野寺不二子（一関市）
奨励賞 「北山崎の風景」清水恒男（盛岡市）／「坂道の白壁」千葉勝歳（盛岡市）
部門賞 「早池峰山」谷村キヌ子（盛岡市）／「家路」佐々木君江（八幡平市）／「雪景」平塚祐子（盛岡市）／「早春の景」小笠原妙子（盛岡市）／「厳冬水郷」佐藤 哲（盛岡市）／「雨の鴨棧橋」久慈悦子（盛岡市）／「王樹幽明」近江 力（盛岡市）／「深山の滝」奈良妙子（秋田県）／「郷愁暮色」鈴木友子（一関市）／「緑陰瀑布」永澤英子（一関市）

《講評》 本年度の水墨画部門の応募総数は1000点に止まり、年々減少して来ましたが、今回は四人の方の会員外の出品がありました。今後もこの様な方々の多くの応募も期待したいものです。

本の木立で引きしめ、墨色の差の弱さにも郷愁が感じられ題名に繋がりました。

○優秀賞（夫婦岩）

岩の迫力、それを覆う木々をすぐれた墨色と大胆な筆使いで描き上げて迫力が有り、見なれた作品でも新鮮さを感じられます。

○奨励賞（北山崎の風景）

海辺の風景を、視点を引いて広く捕え、岩と、後景の山々も厳しさが表現されました。

○奨励賞（坂道の白壁）

よく見られる町々の風景を、墨の濃淡を生かして力まずに仕上げた点が良い作品になりました。

（岸本力三子）

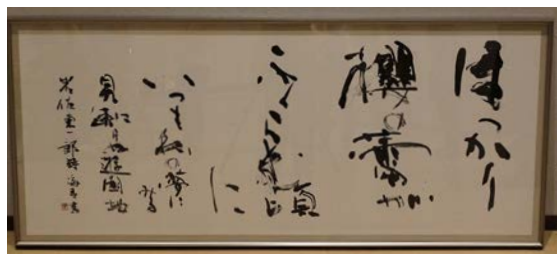
審査員 鈴木孝男（岩手県水墨画協会会長）

岸本力三子（副会長）

菊池一政（副会長）

工藤晴男（副会長）

美術展三賞受賞作品



▲書道「(抄)木馬館」
／下田 海夷



▲写真「浄美」
／菊地 珠生



◀デザイン
「サケ・ハラスメント」
「イッキ飲み撲滅月間。」
／佐々木 海太郎



▲水墨画「晩秋の廃屋（葛巻）」
／渡邊 力



▲現代美術
「かわかないあいならほしい
つかいすて」／松田 航平



▶日本画
「ある日の記憶」
／花立 ゆかり



▲彫刻「spring-2018」
／八重樫 篤



▲洋画「明るい未来」／大森 隆義



▲版画「はじめに西岩手山アリキ」
／日山 登啓



◀工芸
「黄昏に、彼は何を想うのか」
／齊藤 未来



▲写真「snow drop」／中屋鋪 肇巳

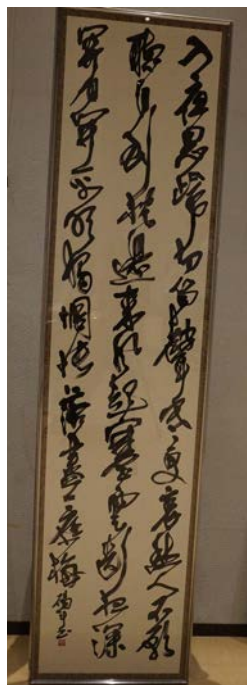


▲デザイン「ようこそ釜石」
／大野 晃平



▲水墨画「夫婦岩」
／小野寺 不二子

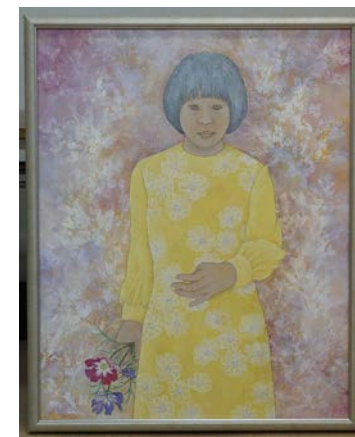
▶書道「戒豆詩」／熊谷 碓斗



▲現代美術
「ある日の太陽（2018.4.14）」
／鈴木 研作



▲洋画「時間の交差点」
／高橋 邦法



▲日本画「コスモス」
／松田 津多子



▲彫刻「象徴としての男性
象徴としての女性」
／山岸 稜



▲版画「田起こし代かき5月5日」
／中村 文子

▶工芸「儚幻」
／青柳 ひで子





▲工芸「そよぎ」
／那須川 重廣



▲工芸「緑陰に遊ぶ」
／昆野 明栄



▲版画「悠久」／源新 和子



▲彫刻
「遠野コラージュ物語」
／佐藤 芳宏



▲彫刻
「mnemosyne」
／半田 颯音



▲日本画「秋宵」／関 尚子



▲日本画「ジロちゃんの散歩道」
／藤原 妙子



▲洋画「光射す」／安部 隆



▲洋画「語らい」
／佐藤 栄一



◀版画「キミガキニナル」
／渡辺 万里



▲現代美術「SAYONARA」
／伊藤 真理子



◀現代美術「ゲルンゲルン」
／渡邊 若子



▲水墨画「坂道の白壁」
／千葉 勝歳



▲デザイン「インゴダケ（毒）」
／DJ RIP



▲水墨画「北山崎の風景」
／清水 恒男



▲写真「平成最後の夏休み」／菊池 賢一

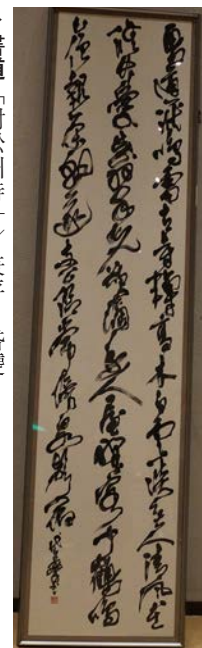


▲写真「雪の朝」／高橋 一男

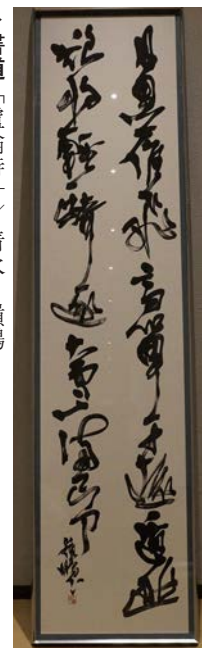


▲デザイン「HAPPY BIRTHDAY(L)(R)」
／小山田 拓司

▶書道「謝湊洲詩」／兼平 岱夔



▶書道「盧綸詩」／清水 嶺鵬



巡回美術展

巡回美術展は、美術展の優秀作品を県内市町村において巡回展示し、県民に芸術鑑賞の機会を提供するために実施しているものである。

今年度は県内7会場において美術展における芸術祭賞、優秀賞、奨励賞及び部門賞のうち部門推薦作品(最大4点)、計77点を巡回展示した。うち、巡回展示することが困難な彫刻部門1点及び現代美術部門8点については、当該作品の写真パネルを展示した。

鑑賞者数は1277名であった。

▽巡回日程・会場(計19日間・7会場)

11月13日(火)～15日(木) 一戸町コミュニティセンター
11月21日(水)～25日(日) 奥州市文化会館
11月27日(火)～29日(木) 山田町中央公民館
12月1日(土)～2日(日) 久慈市文化会館
12月4日(火)～6日(木) 釜石市民ホール
12月8日(土)～9日(日) 岩泉町民会館
平成31年1月18日(金)～20日(日) 宮古市文化会館

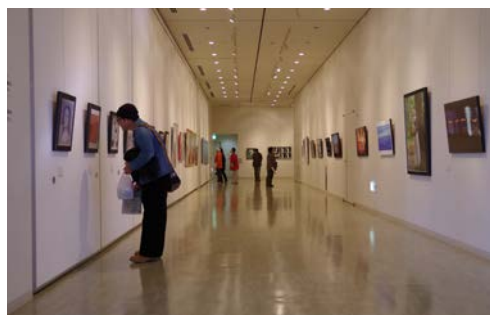
小・中学校美術展

◆小学校絵画部門

芸術祭賞 山崎唯史(大浦小2)・小原 紬(江釣子小3)・三谷朋加(桜城小6)
優秀賞 高橋龍矢(高松小1)・板橋明莉(向中野小1)・高橋悠月(種市小1)・山下愛翔(山岸小2)・菊池日和(山岸小2)・北田怜音(手代森小2)・佐藤颯真(山岸小3)・吉田萌々花(山岸小3)・白桃優香(城北小3)・高橋侑梨乃(滝沢東小4)・三田大雅(岩大附属小4)・谷村日向子(新堀小4)・柴内泰成(山岸小5)・國丹悠斗(江釣子小5)・上野世藍(滝沢第二小5)・佐藤歩佳(厨川小6)・佐藤美香(山岸小6)・高橋 輝(大新小6)
奨励賞 野村勘太(厨川小1)・高橋蓮乃(厨川小1)・河内颯介(太田東小1)・森下航雅(大新小1)・篠村美紗(米内小2)・工藤優真(高松小2)・寺田陽花(向中野小2)・柳谷來美(厨川小3)・神樂悠月(杜陵小3)・平林蒼生(盛岡・土淵小3)・矢澤一花(大慈寺小4)・高橋七夢(月ヶ丘小4)・三上雛加(羽場小4)・三浦 花(向中野小4)・伊山百華(大浦小5)・澤口心(種市小5)・福田結心(滝沢第二小5)・根本淳平(滝沢第二小5)・及川朋華(厨川小6)・星 直樹(山岸小6)・山本小遥(大新小6)

▽出品作品数

日本画7点、洋画8点、版画8点、彫刻6点、工芸8点、書道8点、写真8点、デザイン8点、現代美術8点、水墨画8点



▶久慈市文化会館



▶釜石市民ホール

《審査評》

今年度の審査会は10月9日、盛岡市立中野小学校を会場に、19人の審査員によって行われました。会場には子ども達 생각이込めて描いた3180点の作品(昨年度3864点)が県下46校から寄せられました。図工の授業から生まれた子ども達の個性的で生き生きとした作品が会場いっぱい並べられ、審査員一同、感動したり驚いたりしながら、審査を進めました。

出品された作品を見ると、低学年は生活科の学習と関連づけ、「あさがお」「ひまわり」「動物」などを題材に、クレヨンや絵の具をのびのびと描いた作品が多く見られました。

中学年は花や木など題材にしながらも自分の感覚でとらえて想像を加えるなど、発想・構想する力の高まりが感じられました。絵の具をつかって混色や色を重ねるなど表現技法も広がり、動きのあるタッチによる力強い作品も見られました。

高学年は学校内外の気に入った風景や自分の心象を描いた想像画などバラエティに富んだ題材が見られました。描写力の高まりとともに、水彩画で立体感をリアルに追求したり、紙の色や線の色を自分で選んだりするなど、自分の思いを主体的に追求している表現も目立ちました。そのよ

うな子ども達の個々の思いに寄り添い、実現するために、指導者が様々な材料や技法などを研究すると共に、画用紙の色や種類を多く揃えたり、ローラーやペンなどを準備したりするなど、子どもが自分の思いにぴったりの色や材料、技法などを選択できるように環境設定に気を配っていることも感じられました。

低・中・高学年の部それぞれの芸術祭賞の作品等について述べたいと思います。

低学年の部芸術祭賞の大浦小2年生山崎唯史さん「ひょうにのってジャングルたんけん」は、紙版画で豹を白黒で描き、人物やバックは絵の具やクレヨンで仕上げて夢の中のよう不思議な雰囲気があります。豹に躍動感があり、豹にまたがる人物やまわりの豊かな色彩との対比が美しく見事な作品です。芸術祭賞の候補になった優秀賞の向中野小1年生板橋明莉さんの作品「いっぱいさいたよ」は、画面いっぱい咲いたアサガオに囲まれた笑顔の人物がかわいらしく、見る人の心を温かくします。クレヨンで迷うことなくぐいぐいと描かれておりエネルギー感溢れる作品です。

中学年の部の芸術祭賞の江釣子小3年生小原紬さん「はつけよい、のこった!」は、相撲大会の一場面を動きのある大胆な構図でとらえています。りんかく線を墨で描き、

人物の表情も豊かに描いています。この作品と最後まで芸術祭賞を争ったのが、新堀小4年生谷村日向子さん「銀河鉄道の夜」です。黒い画面に点描やスパッタリングで描かれた星空がまるで宝石を散りばめたように美しく、物語の世界を幻想的に表現しています。

高学年の部芸術祭賞の桜城小6年生三谷朋加さん「花咲く母校」は、レンガ造りの校舎と柔らかな花が見事な対比で描かれています。極めて描写力に優れており、水彩絵の具の透明感を生かして堂々とした建物の存在感やレンガの美しい色合いを追究した素晴らしい作品です。芸術祭賞の候補となった優秀賞の滝沢第二小5年生上野世藍「実り」も見事な描写力で、墨と筆を使って描かれた大きなヘチマの実には存在感があり、周りのハチは生き生きとしてまるで羽音が聞こえてくるようです。

最後になりましたが、県内のたくさんの学校から多様な豊かな表現の素晴らしい作品をいただき、心から感謝いたします。また、その子ども達の表現のよさを認め、引き出し、よりよい表現へと導いてくださった指導者の皆様、そして子ども達に寄り添い、応援してくださった保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。また来年も個性溢れる作品と出逢えることを心待ちにしております。

(松園小学校長 高橋眞司)

◆小学校書写部門

芸術祭賞Ⅱ柳谷祐希(鵜飼小2)・玉井瞭平(滝沢東小4)・西川さくら(青山小6)

優秀賞Ⅱ松田愛梨(向中野小1)・菊地心唯(向中野小1)・落合崇大(向中野小1)・中田陽葉(山王小2)・伊藤心結(向中野小2)・神崎結衣(向中野小2)・田澤佳歩(向中野小3)・小笠原想(向中野小3)・高宮創汰(岩大附属小3)・瀬川ちひろ(城北小4)・菅生紅恋葉(岩大附属小4)・柳谷咲希(鵜飼小4)・横沢希和(津志田小5)・安ヶ平多絵(北松園小5)・岡田夢羽(津軽石小5)・若松美姫(上田小6)・岩田明衣(北松園小6)・柿崎千歳(鵜飼小6)

奨励賞Ⅱ畑山莉子(向中野小1)・高橋のぞみ(矢沢小1)・中村岳人(小袖小1)・山口瑞穂(青山小2)・仲里美南(向中野小2)・菅生聖那(岩大附属小2)・畠山莉央(城北小3)・笹谷旬(北松園小3)・村山魁(滝沢・滝沢小3)・堀越ももか(山岸小4)・斎藤彩香(滝沢東小4)・中山愛結斗(滝沢東小4)・柴垣琴乃(仙北小5)・津嘉山みづ葉(杜陵小5)・渡辺果歩(岩大附属小5)・小松立空(城南小6)・及川朋華(厨川小6)・高橋茉緒(二子小6)

《審査評》

今年度の応募作品数は、硬筆作品731点(1、2年生)、

毛筆作品979点(3～6年生)でした。

今年度は、学校現場でより一層忙しさが増したためか、応募数が減少しました。しかし、精鋭ぞろいの力作が多数みられたのはうれしかぎりです。

【1年生】

1年生の課題は、ひらがなの基本点画を正しく書くことがポイントでした。入賞・入選作品は、最後まで丁寧に書かれたものが多く見られました。今後の課題は、次の3点です。

- ・運筆に習熟することで、線の震えや二度書き・汚れをなくすること。
 - ・促音「っ」の位置や大きさに気を付けて書くこと。
 - ・「止め・はね・はらい・むすび」を正しく書くこと。
- さらに文字感覚を養いましょう。

【2年生】

練習量の多さを感じられる、力強さのある完成度の高い作品を見ることができました。

- 課題としては、次のようなことを感じました。
- ・句読点「、」「よ」の大きさと位置に気をつけること。
- ・「な」「る」「ば」「ま」のむすびの形に気をつけて書くこと。

・漢字より少し小さめにひらがなを書くこと。

これからも、めあてをもって練習を重ねていつてほしいと思います。

【3年生】

どの作品にも、初めての毛筆の学習で一生懸命取り組んだ成果が現れていました。

「日」は、「縦画」「横画」「折れ」の要素を含む課題でした。入賞、入選した作品は、最後の画まで始筆や終筆に気をつけ伸び伸びと書かれていました。名前も上手な筆使いで丁寧に書かれ、感心しました。

「日」の三画目の位置に気をつけることで字形が整いまし、半紙の中心と文字の中心を合わせることで、さらにバランスが整います。

【4年生】

課題は文字数の多少で文字の大きさ・太さを考えて書く「山地」でした。

「山」左右対称の字形のため、縦画の始筆の角度を考えて書く。

「地」へん・つくりの幅、高さの違いに気をつける。折れ・曲がり・はねの筆使いを正しく書く。

入賞・入選した作品は、何枚も練習を重ね、力強い線で勢いよく堂々とした作品が多く見られました。1回目よりは2回目、2回目よりは10回目と練習すれば、それだけ上達

し、自信へとつながります。

【5年生】

5年生の課題は、「そり」と「はらい」の筆使いがポイントになります。お互いの画がゆずり合い、画と画の（空間）の取り方にまで意識が向けられている作品は、全体としてまとまりがよくなります。

へんとつくりのない今回のような課題では、文字の中心を意識して書く力も求められます。各種行事で忙しい中にも、しっかりと書き込まれた作品が多かったのは喜ばしいことでした。高学年ではあっても、基本点画を大切にしていくなことが向上の鍵となります。

【6年生】

課題は「感謝」です。応募された作品を審査してよかったことは筆順が正しく、接筆を意識して書いていたことで

上下の文字の組み立て方や文字の字配りに気を付けるために、中心と上下の空間の取り方がポイントになります。

「はね」が4箇所と基本点画の筆使いにも慣れが必要です。

（盛岡市立高松小学校副校長 橋本由香利）

◆中学校美術部門

芸術祭賞Ⅱ米澤亮太（岩大附属中2）・分須晴香（城西中3）

優秀賞Ⅱ濱田義仁（岩大附属中1）・林柊帆（岩大附属中2）・

瀬川まお（零石中3）

奨励賞Ⅱ岡田萌菜子（岩大附属中1）・高澤寛良（下橋中2）・藤島航志（岩大附属中3）

《審査評》

今年度の第71回展には、県内の中学校15校から357点の応募がありました。文化祭シーズンということで、70点ほど応募数が減少しましたが、厳正なる審査の結果、入賞8点、入選104点選ばれ、その中から入賞作品を含む23点が県内各所を巡る巡回展に選ばれました。

審査全体を通して、生徒の皆さんが美術の授業や行事等に熱心に取り組み、構想や思いを深め、自分の作品に真剣に向き合っている姿勢が伝わり、嬉しく思いました。また、どの作品も技法や用具の使いなどを工夫して試行錯誤を重ね、感性あふれる素晴らしい作品をつくり出しています。

第1学年の作品は、美術の時間や写生会で一生懸命に取り組んだ熱気や真剣さが伝わる作品ばかりで感心しました。授業で学んだ基礎基本を丁寧に活用し、完成度の高い作品に仕上げたものが多く、今後の成長がとても楽しみです。

第2学年は風景画や静物画、デザイン、ポスター作品な

ど、1学年で学んだ美術の学習をもとに、鋭い観察力や描写力を発揮し、多彩な工夫とアイデアを駆使した作品が多く、感心しました。

今後は、さらに自分の思いや効果を意図した表現を期待します。

第3学年の作品は、3年間の成長の証を感じさせる個性あふれる秀作ぞろいで、大変感動しました。主題が明確な自画像や風景画、構想画。生活や行事に生かすデザイン作品など、生徒の皆さんの自己の世界をつくりだす達成感や喜びが強く伝わってきました。

生徒の皆さんには、今後も真摯に対象と向き合い、自分らしさや独創性を大切にし、楽しんで表現に取り組んでほしいと思います。次年度、さらに多くの中学校の応募があり、県内中学生の感性の素晴らしさを発信できるよう期待します。

【芸術祭賞】

「自画像（十五歳の叫び）」（城西中3 分須晴香）

15歳、どんな困難があっても何事にも前向きに挑戦する作者の信念が刻み込まれた自画像の秀作です。印象深い基調色、光と影の巧みな表現の中に見開かれた強い眼差しが記憶に焼き付きます。

「新緑の道の向こうへ」(岩大附属中2 米澤亮太)

新緑に差し込む柔らかな陽光、道の奥行きなど、作者の心をとらえた風景が抜群の描写力で表現されています。思いを込めて細部も丁寧に描き、生命の息吹や希望を感じさせる美しい作品です。

【優秀賞】

「鳥居の向こう側」(雫石中3 瀬川まお)

記憶に残したい場所をテーマとして、作者が選んだのは通学路にある神社です。絵の具と色鉛筆を巧みに使い合わせ、抜群の実写力で悠久の歴史と静寂さの中に夏の木漏れ日が輝く秀逸の作品です。

「その陰、その光」(岩大附属中2 林 校帆)

石階段を見下ろす迫力ある構図で、初夏の強い日差しによる光と影のコントラストを見事に表現しています。石やコンクリート、樹木の新緑などの描写も素晴らしく、材質感がよく伝わってきます。

「力のかざり」(岩大附属中1 濱田義仁)

樹齢数百年の歴史を感じさせる重厚な幹の生命力に出逢った感動が伝わる作品です。鋭い観察眼で多様な筆のタッチと色を重ね、芽吹いた柔らかな新緑や周りの風景も丁寧に表現しています。

【奨励賞】

「夏のはじまり」(岩大附属中3 藤島航志)

新緑の季節、明るい陽光や空気感、心地よい風のそよぎを感じる作品です。画面いっぱいの多彩な色使いで、樹木や石垣が独特の輝きを放ち、作者の豊かな感性と世界観が表現されています。

「居心地のよいあずまや」(下橋中2 高澤寛良)

初夏、作者がいる目の前のフェンスから大きな石垣、遠くの石垣の木立に囲まれた東屋へと視界が広がり、複雑な構図へと遠近感を見事に表現しています。作者の純粋な見方や思いが伝わる作品です。

「木陰」(岩大附属中1 岡田萌葉子)

力強く伸びる幹とドライブラシ風の筆の使い方方で表現された葉の緑が画面で融合し、まるで時間が止まったかのような個性的な作品です。新緑の香りが漂い、木陰の涼しげな空気が伝わってきます。

(盛岡市立黒石野中学校 齊藤眞理子)

◆中学校書写部門

毛筆条幅入賞

芸術祭賞Ⅱ佐々木遥叶(石鳥谷中3)

優秀賞Ⅱ小林優香(厨川中2)・大津枝里子(下小路中3)

奨励賞Ⅱ大津里佳子(下小路中1)

毛筆半紙入賞

芸術祭賞Ⅱ中野碧衣(北松園中3)

優秀賞Ⅱ藤原 蘭(乙部中1)・平塚雅子(城西中2)

奨励賞Ⅱ菊池 彩(黒石野中2)・玉井しの(滝沢第二中2)・

大石彩樺(北松園中3)

《審査評》

平成30年度の中学校部門の応募総数は、昨年より100点程少ない913点でした。また、出品校数が28校に減ってしまいましたが、条幅の出品数が増えたことは喜ばしいことです。学校行事等が重なる忙しい時期に熱心に取り組んでいただいた生徒の皆さん、指導者の方々に感謝申し上げます。

審査会は10月9日に盛岡市立城西中学校で行われました。審査員一人一人が、作品の良さをみとり、取り組みの様子を想像しながら慎重に審査しました。

その中で、入賞・入選された皆さん、本当におめでとうございます。展示会では自分の作品だけでなく、他の作品の名前の書き方、使っている半紙なども含めた表現の仕方、実際に見て学んでいただければ幸いです。

さて、各学年の審査で気づいた点をまとめました。今後の参考にしていただければ幸いです。

〈1年・半紙〉

素直な筆遣いで、伸び伸びと書かれています。また縦画と横画の太さの違いも本文と調和していました。文字の中の部首とつくりのバランスをとるのが難しかったようです。行書に挑戦している作品も見られ、これからも意欲的に取り組まれることを期待しています。

〈1年・条幅〉

中学校に入り初めて条幅に挑戦した生徒も多いと思いますが、どの作品も大きく堂々と書かれていました。筆脈を意識し、名前の大きさに気を配ることで、さらに作品の完成度が上がると思われます。

〈2年・半紙〉

「創」のへんとつくり、「造」の「告」としんのようなバランスが難しかったようで、二文字のバランスがよくとれたものが入選しています。楷書の作品は筆遣いが丁寧なものが多く、力強い書きぶりでした。行書の作品は、筆脈を意識し、二字のバランスにも気を配りながら書かれています。

〈2年・条幅〉

学年が進み、行書に挑戦し、線質によどみがない作品が多く見られました。漢字と仮名のバランスや、中心を通した配置に気をつけることで、来年に大きな期待が持てると

思います。

〈3年・半紙〉

ほとんどの作品が行書に挑戦し、漢字にはその特徴が良く表れていました。また、漢字と仮名の大きさの違いもよく捉え、配置よく書けていました。課題に仮名が三字含まれており、その連度が作品の完成度に大きく影響しました。

〈3年・条幅〉

全体的にレベルが高く、十分に書き込まれた力強い作品が多くありました。作品としてのまとまりがあり、見応えのある作品ばかりでした。

半紙の部で芸術祭賞を受賞した北松園中学校の中野碧衣さんの作品は、隅々まで気持ちが行き届き、堂々とした作品です。滑らかな線質がとても美しいです。

同じく、条幅の部の芸術祭賞、石鳥谷中学校の佐々木遥叶さんの作品は、名前も含め作品としての統一感が素晴らしいです。書に向き合う強い姿勢が感じられました。

心のこもった素晴らしい作品に出逢うことができました。次回も、県内多くの地区、学校から、多数の応募をお待ちしております。

（城西中学校教諭 小野寺弥生）

第71回岩手芸術祭小・中学校美術展 応募状況

項目 \ 部門	小学校絵画	小学校書写	中学校美術	中学校書写	合 計
応 募 点 数	3,180	1,710	357	913	6,160
応 募 学 校 数	46	61	15	28	150
入 賞 者 数	42	39	8	10	99
入 選 者 数	445	508	104	205	1,262
入 選 の う ち 巡回展出品数	36	96	15	104	251

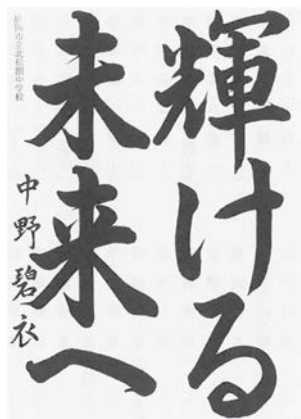
中学校美術部門・書写部門芸術祭賞



▲「自画像（十五歳の叫び）」
盛岡市立城西中学校
3年 分須 晴香



▲「新緑の道の向こうへ」
岩手大学教育学部附属中学校
2年 米澤 亮太



盛岡市立北松園中学校
3年 中野 碧衣



花巻市立石鳥谷中学校
3年 佐々木 遥叶

小学校絵画部門・書写部門芸術祭賞



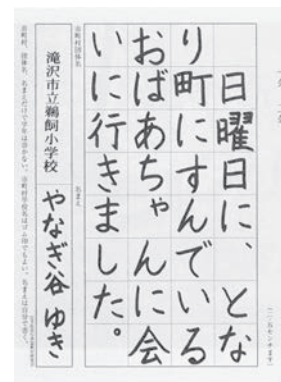
▲「ひょうにのってジャングルたんけん」
山田町立大浦小学校
2年 山崎 唯史



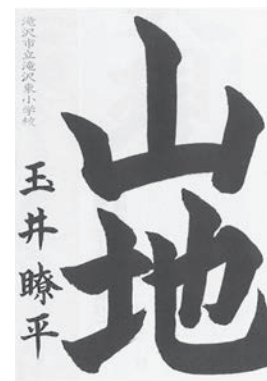
▲「はっけよい、のこった!」
北上市立江釣子小学校
3年 小原 紬



▲「花咲く母校」
盛岡市立桜城小学校
6年 三谷 朋加



滝沢市立鵜飼小学校
2年 柳谷 祐希



滝沢市立滝沢東小学校
4年 玉井 瞭平



盛岡市立青山小学校
6年 西川 さくら

巡回小・中学校美術展

小・中学校美術展におけるすべての入賞作品と入選作品の中から巡回用に選定した作品を、県内各地で巡回展示した。県内の児童、生徒をはじめ、広く県民に鑑賞の機会を提供するとともに、児童・生徒の創作活動の向上に資するために実施しているもので、今回が42回目になる。

小学校絵画78点、小学校書写135点、中学校美術23点、中学校書写114点、合計350点を巡回展示した。期間は平成31年1月9日(水)～2月25日(月)までのうち9日間、4市村で開催し、入場者は503名であった。

▽巡回日程・会場

平成31年1月9日(水)・10日(木) 宮古市民文化会館
1月25日(金)～27日(日) 釜石市民ホールギャラリー
2月16日(土)・17日(日) 久慈市民文化会館
2月24日(日)・25日(月) 九戸村公民館



▶釜石市民ホール



▶宮古市民文化会館

演劇

演劇部門の公演は、県内6か所で行われた。

〔盛岡地区〕

H 31年2月9日(土)・10日(日)

盛岡劇場・タウンホール

劇団しばいぬ第10回公演

「人生ゲーム」

〔県南地区〕

11月25日(日)

奥州市文化会館／中ホール

劇団我夢第49回公演

「パニック★バンク」

〔沿岸地区〕

H 31年2月24日(日)

釜石市民ホール／ホールB

劇団もしよこむ釜石公演

「厄も積もれば福となる」

〔県北地区〕

12月23日(日)

二戸市民文化会館／大ホール

二戸市演劇協会雲人・アイキッズ第37回公演

「あらしのよるに〜ひみつのともだち〜」

〔市民劇場〕

10月20日(土)

二戸市民文化会館／大ホール

二戸市民文士劇

「九戸城と女たち」

〔映像フェスティバル〕

11月11日(日)

もりおか町家物語館／浜藤ホール

「映像フェスティバル」

《講評》

〈劇団しばいぬ〉

今回、県芸術祭の演劇部門で公演させていただきました「人生ゲーム」ですが、当団体では助成を頂いての初めての公演となりました。そのため、はじめての挑戦ということで色々と学ばせて頂きながら、充実した活動を展開することが出来ました。

公演運営にあたって、事前の宣伝活動などが遅れてしまったため、客足の伸びに不安がありました。芸術祭全体の告知と同時期から、少しずつ情報公開をし、余裕をもった宣伝活動を展開することでもっと、多くの方に演劇部門の

当公演を知っていただけたと思います。宣伝活動に反省点はあるものの、演劇に馴染みの無い方に足を運んでいただくという点では、初割という演劇を初めてご覧いただく方への安価な料金設定を組み入れたことで、敷居の高さを感じていた方や料金面で二の足を踏まれていた方を呼び込めたのではないかと思っております。芝居のクオリティに応じた料金設定はもちろん大切ですが、それ以前に芝居を身近にすることが大切だと考えております。そのため、芝居を全く知らない人でも気軽に来れる、気軽に誘える形として一つの有効な方法だったのではないかと思います。

公演内容に関しては、現在の自分達にかなり寄った内容の芝居でしたが、同年代以外にも幅広い年齢層の方にみていただくことが出来ました。それは、脚本家の牛崎のネームバリューもあり、人生ゲームという身近な題材が受けた



◀劇団しばいぬ

のではないかと思います。盛岡の最近の演劇シーンでは、突飛なものや前衛的、現代的な芝居よりも、身近で温かな優しいお芝居が多いように感じております。また、そのような内容のお芝居が人気を博している状況もあります。それは、現代を生きる盛岡の人々の思いや願いを反映しているのだとも感じます。そういった点も、芝居を打つ側は演劇の裾野を広げるため、今後は考えていかななくてはならないのかもしれない。

多くのことを考えさせていただき、また多くの貴重な学びを得られました。素晴らしい公演機会を与えて頂き本当にありがとうございました。

(劇団しばいぬ 代表 夏坂俊也)

〈劇団我夢〉

劇団我夢は、第71回岩手芸術祭参加作品として「パニッ★パンク」を11月25日(日)、奥州市文化会館中ホールにおいて上演しました。午後2時開演、上演時間1時間40分。キャスト14人、スタッフ17人、観客数は325人でした。当劇団は、1976年から活動を始めて今年で49回目の公演となります。コミカルに社会風刺するオリジナル脚本で年1回の定期公演を開催しています。

今作は、政治、行政、企業など社会のあちらこちらで「あ

ってはならないこと」や「してはならないこと」が発覚し、一時は大騒ぎするものの時間の経過とともにやがて「当事者も国民もまるでなかったかのように忘れてはいませんか?」といった自戒の念をモチーフにしています。

ある銀行支店での強盗訓練の最中に本物の強盗が現れ店内はパニックに陥ります。やがて、この強盗犯人、家庭の事情からどうしてもお金が必要で、優秀なベテラン行員の計画に利用されたというところでもないことが明らかにされます。行員たちは、利用さ

れた強盗に同情する一方で強盗を計画した行員を非難しますが、当の行員は自分のしたことは銀行の不祥事として大スキャンダルになるし、事件が明るみになって得する人間は誰もいないと論理的?に脅す始末。ついにはここでおこったことはあくまでも訓練だったという事で強盗事件はなかったことにしてしまう。全員で口裏を合わせるという



▶劇団我夢

悪の結束が生まれます…

「あつた不正をなかつたことに」してしまうということは、「正直さ、ひたむきさ」の心意気が薄れてきていることにあるのかもしれない。ほんの少しでもご来場のお客様に伝えることができたならと願いつつ幕を降ろしました。

(劇団我夢 代表 古玉庸二)

〈劇団もしよこむ〉

第71回岩手芸術祭演劇部門として上演された「厄も積もれば福となる」は、午前と午後の全2回公演。どちらも用意した70席がほぼ満席の大盛況となった。「福は巡るもの」、「僕の不幸は献血と同じ」といった作者独自の世界観が多くの人の共感を得た。

お客様の年代は0歳から80歳代とかなり幅広い。最前列に準備した栈敷席では赤ん坊がハイハイし、子供達がまるでテレビを観るように寝ころびながら観劇し、大声で役者に話しかける。そしてそのやり取りに大人たちの顔もほころんだ。(もちろん子供と分けた方がいいという声もあったのだが)

観客と舞台の境が無く、子供と一緒に楽しめるということが、劇団が釜石の人々に世代を越えて受け入れられてい

る要因の一つなのだと実感した。確実にファンは増えている。

しかしながら劇団は、今大きな転機を迎えている。復興関係で県外から来ているメンバーが多いのだが、震災から8年。その任期を終え、次々と釜石を離れてしまうのだ、旗揚げ当初からそれは理解していたつもりだったのだが、4年を共に過ごした仲間と離れるのはこんなにも不安でツラく寂しいのかと愕然とする。

だからこそこの劇団には可能性がある。「その時のメンバーでできる最高のもの」を作り「釜石に演劇が当たり前に存在する」ことを目標に掲げるからには、様々なジャンルに挑戦していくべきだ。もしかしたらそれで離れてしまうファンもいるかもしれない。それでも劇団を存続させるためには「色」のない劇団を目指していかなくてはとあらためて思う。そう思えたのも今回の成功があったから。



◀劇団もしよこむ

支えてくださった関係各位に感謝申し上げます。
(小笠原景子)

◀二戸市演劇協会「The・雲人」

今回私は、脚本、演出を担当しました。この作品は数年前朗読劇として、雲人で公演した絵本でした。「この作品を舞台化したい」という思いから今年度の定期公演で上演することにしました。脚本、演出をする上で絵本という原作を大切にしながらも、オリジナリティをだせるよう心がけました。

芝居について役者とは、役の関係性を話し合い、相談しながら作っていききました。「面白かった」、「ラストシーンに泣きそうになった」等の感想がありました。一方「会話全体の流れが一定になっていた」との感想も聞かれました。会話の多い芝居であった為、演出での工夫が必要であっ



▶二戸市演劇協会「The・雲人」

たと感じました。舞台美術、照明、映像は絵本の世界が舞台として作られ衣装メイクに関しても各動物の区別、キャラクターの個性が生かされたものになったと思います。音楽も役者と芝居に合っているように感じましたが、「音楽でセリフが聞こえない」という声が寄せられていたので、この点について今後気を付けていきたいと思いました。

今回の公演で、様々な課題がみえてきました。今後、そのひとつずつをクリアしながら、皆さんに楽しんでもらえる舞台を作っていけるよう努力していきたいと思っています。

(山井真帆)

◀二戸市民文士劇

二戸市民文士劇には、前回の相馬大作物語、そして今回の九戸城と女たちと2回出演させて頂きました。前回は相馬大作に付き従う一番弟子の関良助、今回は南部信直の家臣北信愛の息子、北秀愛でした。

去年に引き続き参加した訳ですが、1番最初に驚いたことが、各地から参加している人がいるということでした。二戸はもちろん、久慈、盛岡、東京、果ては海外まで(笑)皆さん二戸市に深い愛着を持っている方ばかりで、この街の魅力があるからこそ、この場に多くの人が集っているのだと感じた次第です。

実際に稽古を重ねていく中で、上手く行かないことはどうしても沢山ありました。仕事終わりに、ヘトヘトになった体を引きずるようにして稽古場に向かったこともありま。それでも続けてくるのができたのは、稽古がとんでもなく楽しかったこともそうですが、一緒に関わった皆さんが、温かい空間を作り出してくれたことが大きいかもしれません。

体力は稽古なのでもちろん減っていくのですが、氣力が回復していくような感じでした。

そしていざ本番。正直言って、最高でした。1000人以上入る大きい会場で演技をすると、お客様の表情、雰囲気とかが分かれます。息をのむ瞬間、笑いが起きる瞬間、泣く瞬間。役者、スタッフだけでなくその沢山のお客様と一体感を味わえる。二戸市民文士劇の大きな魅力なのではないかと思っています。本番



▶二戸市民文士劇

セリフを忘れても不思議と焦らず楽しくいることのできる自分がそこにいました。本当はセリフは忘れない方がいいのですが。

まだ高校卒業して数年しか経っていない未熟者の私を温かく見守ってくださった二戸市民文士劇事務局の皆様、一緒にIGRで二戸まで通った演出の坂田様、キャスト・スタッフの皆様、またご来場下さった皆様に心からの感謝を申し上げます。

次回の二戸市民文士劇はどうなるのでしょうか。1番楽しみにしているのは実は私かもしれません。

（坂戸公輝）

〈映像フェスティバル〉

今年度、映像フェスティバルでは「市民による映画づくりの可能性を探ろう」と題して、市民が中心となって制作された映像作品の上映と、それらの映像作りにかかわった監督やカメラマン、出演者によるトーク&ディスカッションを行った。

上映された映像作品は4作品。うち2作品は若手県文化振興基金助成事業「アーツいわて塾」映像制作講座にて習作として撮影された5分程度の短編映像で、既成の舞台脚本の一部を抜粋し短編ドラマに仕上げた作品「風のスタジ

オ殺人事件」と、盛岡出身のダンサー・安達香澄さんが盛岡市大ケ生の風景の中でコンテンポラリーダンスを踊る姿をプロモーションビデオに仕立てた作品「安達香澄PV」。

続いて、昨年度、市民公募のスタッフによって制作され、演劇とのコラボレーションとして生の語りと生演奏にて上映された「蛾と笹舟」を映画作品として完成させた「映画 蛾と笹舟」

を初めて上映し、最後に会津若松市の「あいづっこ人材育成プロジェクト」事業で、中学生50名によって制作された作品「Message（僕らの夏休み）」を上映した。

後半は会津若松市「Message（僕らの夏休み）」の映像制作を指導した板屋宏幸監督によるトークと、板屋氏に加えて、「アーツいわて塾」映像制作講座の講師をつとめた千葉真一氏、「蛾と笹舟」出演者の東海林千秋氏をパネリストに、「蛾と笹舟」監督の坂田裕一氏が進行し、「市民

による映画づくりについて」をテーマにディスカッションを行った。

上映作品は、いずれも質が高く、参加者の満足度も高かった。

映画における市民参加についての議論は、市民参加の形式は俳優としての参加から、映像スタッフとしての参加まで幅広く、主催者側の参加の狙いの明確化の必要性和、映像スタッフ養成についての持続的な学習の大切さが語られた。岩手の映像制作振興における市民参加の必要性が認識できた。

（菊池摩美）

◀映像フェスティバル



伝統芸能

能楽 謡と仕舞の会

11月4日(日)

午前11時開演

岩手県民会館中ホール

番組

素謡 (宝生流・盛岡)

シテ 岡田絃子

西王母 ワキ 廣田 豊

ワキシテ 佐々木正明 千田 實

仕舞 (観世流・盛岡)

菊慈童 き 菊池昭二

江 口 き 金子琢磨

仕舞 (宝生流・宮古)

簾 牧原 登

素謡 (喜多流・大船渡)
シテ 佐藤正雄
半蔀 ワキ 廣澤英男

仕舞 (宝生流・宮古)

経政 き 佐香美穂子

天鼓 山口睦美

仕舞 (喜多流・大船渡)

草紙洗小町 新沼京子

素謡 (宝生流・盛岡)

シテ 鈴木 勲

東北 マネ 三上敬夫

武田 勤

村山健一
三上敬夫
西条 誠
及川 直
平山正昭
千葉省三
和野多喜夫
地)千葉 太

武田 勤
地)佐香秀彦
村山健一
牧原 登

及川 直
廣澤英男
地)千葉 太
佐藤正雄
平山正昭

佐々木正明
地)佐藤順一
千田 實
館下 壽
吉田清三
佐野剛章
遠藤秀夫

素謡 (観世流・盛岡)

シテ 小田島幸雄

松風 シテ 高橋雄賢

地)海老澤君夫
山坂昭二 高橋孝市 中村儀郎
岡田 仁

仕舞 (宝生流・盛岡)

経政 き 浦田妙子

連調 (喜多流・盛岡)

大鼓 下川原令子

八島 小鼓 武内公子

小鼓 工藤暉子

小鼓 高橋千賀子

仕舞 (宝生流・南部)

山姥 き 藤澤美和子

工藤典子
蜂谷哲子
地)高橋美恵子
栃内不二
佐々木かおる

《特集》『一曲を各流が連吟で謡継ぐ』
連吟 (観世流・盛岡)
シテ『げにや数ならぬ…』 地『…苦しかるべき。』

高橋八郎

小原生子

紅葉狩 シテ 菊池昭二

ワキ 小田島幸雄

伊東碩子

連吟 (宝生流・盛岡)

シテ『林間に鯉をあたためて…』 地クセの終わり『…色気かな。』

千田 實

紅葉狩 シテ 菊池新司

ワキ 遠藤秀夫

佐藤順一

館下 壽

連吟 (喜多流・盛岡)

中入く終り

工藤長彦

紅葉狩 ワキ 中道俊之

柏葉光利

善財 清

素謡（喜多流・盛岡）

枕慈童 シテ 米沢 立

(地) 藤原洋子
伊藤直子

栃内繁子
下川原令子

仕舞（宝生流・南部）

工藤典子
蜂谷哲子

殺生石 佐々木加奈子

(地) 高橋美恵子
栃内不二

素謡（観世流・盛岡）

青木紀子

シテ 土川律子

谷藤政子

葵上 シテ 伊東碩子

ワキ 佐藤千鶴子

(地) 千葉マシミ

古枝良子

ワキシレ 木村悦子 小原生子

荒川冴子

素謡（宝生流・盛岡）

シテ 相澤 努

大場兵馬

井筒 ワキ 菊地新司

(地) 佐藤哲夫

鈴木 基

佐藤宏明

仕舞（喜多流・盛岡）

大光 昭

松虫 名 中道俊之

連吟（宝生流・宮古）

シテ 牧原 登
熊坂 マ 武田 勤

仕舞（観世流・盛岡）

野宮 き 荒川冴子

素謡（宝生流・南部）

シテ 工藤典子

葛城 マ 松本敏之

高橋知子 上野喜代子
佐々木加奈子 蜂谷哲子
(地) 藤澤美和子 高橋美恵子
佐々木かほる 栃内不二
牧野トモ

素謡（喜多流・盛岡）

師長 小守林尚之

シテ連 柏葉光利

シテ 大光 昭

絃上 ワキ 野田宗義

(地) 神田健幸
工藤長彦

善財 清
菅原岩夫
中道俊之

仕舞（宝生流・宮古）

通小町 村山健一

(地) 武田 勤
佐香秀彦

素謡（観世流・盛岡）

仕舞（喜多流・盛岡）

阿漕 シテ 小西幹夫

マキ 高橋八郎

井筒 高橋千賀子

本堂信子
武内公子
(地) 山口寧子

附祝言

工藤睦子
鈴木明美
金澤禮子

仕舞（観世流・盛岡）

谷藤政子

邯鄲 楽アト 土川律子

(地) 荒川冴子

古枝良子

素謡（喜多流・石鳥谷）

シテ 大沼道男

(地) 菊池軍司

(地) 善財 清

菅原岩夫
柏葉光利

佐香美穂子

(地) 佐香秀彦

村山健一

山口睦美

谷藤政子

(地) 千葉マシミ

古枝良子

土川律子

木村綱夫

(地) 工藤長彦

大光 昭

菅原岩夫

柏葉光利

菊池昭二
海老澤君夫

(地) 高橋幸市

新藤 威

山坂昭二

高橋 弘

金子琢磨

《講評》 能楽部門「謡と仕舞の会」は11月4日（日）、午前11時から岩手県民会館中ホールにおいて開催された。

番組は、前掲のとおり素謡11番（前年11番）、仕舞15番（前年19番）、連吟4番（前年3番）及び連調1番（前年1番）となり、参加者数は、地謡を含めて延べ202名（前年220名）、前年に比べて出演曲目数、参加者数ともに漸減し、いささか退潮の感があった。

特に平成15年から連続し

て参加してきたキンダーホームひまわり組（毎年30名程が参加）が幼稚園の事情から取り止めとなったのが悔やまれた。園児が古典芸能の所作を通じて得る礼儀、知識ははかりしれないものがあり、また高い舞台で家族や一般のお客さんの前で舞を舞い大声を張り上げるということとは、園児らの記憶とともに一生の宝となるものであった。



◀能楽

園児の出演時には家族（両親、祖父母）の参観があり一時的ではあるが入場者がぐっと増え、一般の入場者が少ない能楽の関係者としては嬉しい歓迎すべきことであった。これからこれがなくなってしまうと本当に寂しい気持ちであった。

「謡と仕舞の会」は、毎回テーマを設けて実施している。昨年は、第70回記念を祝して祝言小謡を3流で謡った。過去には東日本大震災時の犠牲者を追悼してそれぞれで追善

謡曲を謡った。

今年は、季節の一曲を各流が連吟で謡い継ぐこととした。「紅葉狩」は、数人の侍女をうち連れた上臈が山陰に幕を打ち廻して紅葉狩の宴を催していた。折しも鹿狩りに来た平幾茂一行が通りかかったが、幾茂は上臈の酒宴に馬のままでは非礼と思って、馬より降りて通り過ぎようとすると、主人らしい貴女が「一樹の陰一河の流れ」という縁もあると云って引き止めるのであった。詮方なく誘われるままに酒宴に連なつて盃を重ねるが、時は秋、所は山路、盃中の酒は長寿の薬、幾茂の心はとみに乱れて宙に浮くが如くであった。

美女は酒間の慰みにとて優雅な舞を舞ってくれたが、酒の酔いにうたた寝をする幾茂の顔をじっと見込んでいたかの美女は、夢を覚まし給うなとあやしい言葉を残して消え失せるのであった。

幾茂は夢の中で岩清水八幡のご神託を蒙り、今の女がこの山に住む鬼女であることを知り枕辺においてあった霊剣を握って待ち受けるのであった。

やがて大風が起こつて物凄いい気色のなかに鬼女が現れて襲いかかってきたが、幾茂は心中に南無八幡大菩薩を祈念して鬼女に飛び掛かりむんずと組んで霊剣をふるい鬼女を退治するのである。

演奏番組 ○…タテ

寿二会

嘉声会

糸音会

長唄

小鍛冶

舞台面 三味線

菊池歌奈

松本祐貴子

鈴木結葵

○杵屋松紀三

井上知子

橘 麻子

平田光子

唄

杉下佳奈子

白築真夏

杵屋寿々福

杵屋勝由紀寿

岸浪昭子

○杵屋寿二

杵屋勝はる寿

杵屋勝友可

邦 楽

邦楽のつどい

11月18日(日) 午後1時開演
岩手県民会館中ホール

▽実行委員 菊池昭二・佐野剛章

(佐野剛章)

糸音会
長唄 五郎時致

杵屋寿慧
藤村知子
中村純子
唄
稀音家六貞華
渡邊祐子
鎌田聡子
玉澤ヒナ
福士幸雄

嘉声会
長唄 神田祭

○松本祐貴子
杵屋松紀三
姉齒和子
柴田珠実
林 寛

○稀音家六貞寿
稀音家六田嘉
稀音家六貞鳳
高橋真栄
廣澤俊子
佐藤万里栄
稀音家六貞帆

唄
○稀音家六貞鳳
玉澤ヒナ
稀音家六田嘉
鎌田聡子
佐藤万里栄
廣澤俊子
稀音家六貞華

唄

○杵屋喜太郎
杵屋正則
三味線

○稀音家六貞鳳
玉澤ヒナ
稀音家六田嘉
鎌田聡子
佐藤万里栄
廣澤俊子

稀音家六貞華

常磐津文字会

三味線

常磐津 三保松富士晨明

○稀音家六貞帆

○岸浪昭子

福士幸雄

浄瑠璃

渡邊祐子

佐藤礼奈

高橋真栄

藤村知子

稀音家六貞寿

三味線

笛

○常磐津紫緒

藤舎理生

中村純子

寿二会

長唄 風流陣

糸音会

長唄 京鹿子娘道成寺

唄

唄

○杵屋寿々福

杵屋喜太郎

杵屋勝由紀寿

杵屋正則

杵屋寿二

三味線

岸浪昭子

○鈴木結葵

杵屋勝友可

菊池歌奈

三味線

杵屋松紀三

○藤村知子

井上知子

白築真夏

橘 麻子

杉下佳奈子

平田光子

杵屋勝はる寿

寿二会

長唄 外記節 石橋

唄

○杵屋勝友可

杵屋寿二

杵屋勝由紀寿

杵屋寿慧

白築真夏

杉下佳奈子

三味線

○杵屋寿々福

岸浪昭子

中村純子

藤村知子

上杵屋勝菊可

常磐津文字会

常磐津 お夏狂乱

稀音家六貞華
稀音家六貞鳳
笛
藤舎理生

浄瑠璃

○常磐津洋志衛

常磐津てる衛

室岡提子

三味線

○常磐津治衛

常磐津紫緒

嘉声会

長唄 寒山拾得

唄

○福士幸雄

高橋真栄

稀音家六貞鳳

三味線

○稀音家六田嘉

《講評》 第71回岩手芸術祭参加「邦楽のつどい」は、『この手から 広がる世界 繋がる文化』をテーマにして、11月18日（日）午後1時より岩手県民会館中ホールで開催されました。当日は、午前中は良い天候と温かな陽気に恵まれました。昨年度から新たに加入した糸音会（会主は杵屋松紀三師）の出演もいただきまして、番組数が多くなり、また若いお弟子さんが見事な演奏を披露してくださいまして、会に花を添えていただきました。当日はお忙しいなか

多くの皆さまが会場に足を運んでくださいました。たくさんの方々にご来場いただき演奏を聞いていただきました。当日は華やかな中にも厳かで緊張感と活気のある演奏会となりました。

舞台は、まず寿二会・嘉声会・糸音会による30名の合同ステージ長唄「小鍛冶」で荘重な中にも優美かつ華やかな雰囲気が始まりました。有名な番組でもあり会場の皆様も聴き入り、素晴らしい演奏が披露されました。日頃の練習の成果がよく出ており、私たち自身が大変勉強になりました。演奏会は、その他に寿二会による長唄「風流陣」「石橋」、嘉声会による長唄「神田祭」「寒山拾得」、糸音会による長唄「五郎時致」「京鹿子娘道成寺」、そして常磐津文字会による常磐津「三保松富士晨明」「お夏狂乱」をそれぞれ演奏し、いずれの社中もその物語や情景・心情などに迫り、そして内容に引き込まれる



▶邦楽

茶道 茶会

10月7日(日)

盛岡市河南公民館 3階和室
もりおか町家物語館 浜藤ホール
徳清町屋 和室

1席 河南公民館 和室

江戸千家岩手不白会

席主 乳井 宗 啓

寄付

掛物 日々是好日

蓮鶴筆

本席

床	心月輪	名心庵宗雪筆
花	季のもの	
花入	信楽焼 銘 からたち	瑞峯作
香合	鹿紅葉蒔絵	
風炉先	一元斎好	
大板	松拭漆	
釜	南部雲竜釜	昌行造
風炉	砂張銅筆筒瓢風炉	旺光造
水指	高麗柿天目細	季殷九作
茶器	棗黒柿大菊蒔絵	宗悦作
茶碗	赤楽銘しのめ	宗康作
替	蔦の絵	舟山作
茶杓	銘 松の峯	不白作
	老松のあとをうけてむ	
	若木かな	
蓋置	萩焼	名心庵
建水	樺皮輪島	善蔵作
お茶	池の白	中津昭央作
菓子	銘 かさね菊	星野園詰
器	高取	山善製
		楽山作

2席 もりおか町家物語館 浜藤ホール

表千家同門会岩手県支部

掛物	福富雪底筆	朗月
寄付		
本席		
掛物	而妙斎筆 松菊萬年歡	共箱
花入	掛け置き	塩月寿監作
花	季のもの	
香合	菊籬 即中斎箱	高村表恵作
釜	南部釜 小阿弥陀堂	金沢鶴斎作
水指	薩摩ベルシャ風繫文	陶正山作
即中斎好立札卓		
茶器	雲錦流水雪吹 即中斎在判箱	表朔作
茶碗	出雲ハケメ 銘 白妙 不仙斎箱	空味作
替	真葛 蔦の絵 而妙斎箱	香斎作
茶杓	即中斎自作 銘 千代の友	同筒箱
建水	ツボ形銀溜結紐蒔絵	雅峯作
蓋置	乾山写 菊	即全造
菓子器	萩 菊形食籠	十四代坂倉新兵衛作
菓子	軽羹饅頭	大丸屋製

蓑盆	惺斎好手付スリ漆	漆園作
火入	絵唐津	中里重利作
蓑入	唐物写 独楽蓑入	泉斎作
煙管	如心斎好写筋	清五郎作

3席 徳清町屋 和室

裏千家淡交会岩手南支部

寄付		席主 中田宗倫
床	玄々斎自画賛 月二雁	又妙斎箱
本席		
床	中尊寺貫主 山田俊和大僧正筆	道心菩提之翼
花	季のもの	
花入	唐物手付籠	竹良斎極
香合	村上堆朱 菊彫	
釜	小尾垂 霰	
風炉	鉄 欠 敷瓦 織部つぼつぼ	
結界	桑 南宗寺古材ヲ以テ	光春造
水指	古 高取 細	
薄器	坐忘斎家元好在判	飛雲棗 玉榮造
茶杓	坐忘斎家元作 銘 洗心	
茶碗	赤 銘 里神楽	坐忘斎家元箱 了入造

替	御本 銘 響 鵬雲斎大宗匠箱	
替	大八洲絵 坐忘斎家元箱	即全造
蓋置	竹 坐忘斎家元在判箱	正玄造
建水	モール 菊彫	浄益造
御茶	坐忘斎家元好 長久の白	祇園辻利詰
菓子	山づと	かぎや菓子舗製
器	金欄手 雲鶴鉢	得全造
蓑盆	坐忘斎家元好在判	折撓 瓢 玉榮造
火入	織部	善五郎造

《講評》 今年の岩手芸術祭茶会は、大型台風の影響が心配

される中開催されました。前日6日も何とか天気もち、席回りも無事終えることができました。当日は、早朝は風雨強かったものの、次第に回復し昼過ぎには日差しも出てきました。

本年の岩手芸術祭茶会は、中央公民館が使用できないことから、河南公民館、もりおか町家物語館、徳清町屋の3か所で3席行われました。概況として、入場者数は、台風の影響もあり、例年より少ない人数となりました。

3会場のお客様の移動は、バスを巡回する形を取りました。

課題といたしまして、第1席河南公民館は、総受付が1

階、会場が3階と縦の動線

となることあげられま
す。第2席のりもおか町家
物語館の会場は、ホールで
すので、茶席の配置に苦労
したようです。第3席の徳
清町屋は、近隣に駐車場が
なく、遠方から来られたお
客様にご不便をおかけする
ことになることあげられ
ます。

こうした3会場で行う茶
会は、春の盛岡芸術祭に続
き2回目となりますが、席
主の方はいろいろとご苦労な
さったようです。岩手茶道協
会といたしましても、3会場
の移動、運営には、時間を
かけ準備してまいりました。
おかげさまで、前日、当日
とも大きなトラブル、事故な
く終えることができました。

実行委員 鈴木宗基・平野宗憲

（齋藤妙佳）



◀茶道

華道

華道展

（前期）10月5日（金）・6日（土）
（後期）10月7日（日）・8日（月）

岩手県民会館 第1展示室・第2展示室

▽前期

《青山流》 大志田良雅 宮本絹雅 村上千逢

《池坊》 内田誓玉 小原紫芳 田口芳秀 谷藤桂芳 高橋

翠風 藤井恵華 本間愛香 森田朋月 山崎政華 小原信

峰 水野和翠 大日向香玉 相田恵草 佐藤風爾 大川紫

陽 小野圭華 佐藤好華 佐藤竹幸 吉田誠華 千葉松月

《櫻花遠州流》 高橋尚美 澤田里律 高橋尚好

《小原流》 菅原恵香 伊藤峰穂 雪石悦子 ステイヴン・

コーラー 山谷彩風 後藤英花 望月和華 大崎緑華 柏

原豊洋 松田萌花 加藤祥苑 鈴木豊貞 吉田華千 金野

豊雅 安保一萌 觸澤竜峰 竹林弘苑 杉本光初 佐々木

峯知

《花芸安達流》 高橋紀瞳 須藤 静 高橋沙耶香

《梶井宮御流》 佐藤瑠太 佐藤瑠喜 辻山素容

《松風花道会》 紺野芳水 菅野信水 鈴木由水 鈴木智水

梅村康水 渡辺美水（久美子）

《青山御流》 小原光衛 伊山光雅 桂 静雅 本川公雅

小林友雅 齋藤真美雅 金子千鶴

《草月流》 高橋光純 関 草遠 菊池美虹 澤野瞳揚 及

川紅陽 戸草内陽春 熊谷晴陽 三田村紫陽 新井野如風

新井野晴風 菊池瑞秀 高橋幸澄 鎧 久華 田山宗淳

大友月庭 千葉緑風 箱崎幸花 畠山芳花 村上秋仙

《龍生派》 瀬戸寿光 三浦翠光 野沢素光 関口翠華 大

村真鏡 伊藤良洋 及川春樹 岩渕英水 千葉泰秀 瀬川

香寿

▽後期

《青山流》 久保恵穂 國分彩雅 高橋敏雅

《池坊》 小松陽光 佐藤春陽 高橋佳光 千葉幸園 千田

桂花 野中泰華 八戸春水 山下恵風 中村直峰 日沢栄

香 駒米桐華 山影喜香 及川清光 六本木風香 細田芳

節 藤島玉風 川村紅苑 佐藤弘竹 福地実峰 大澤加祥

《櫻花遠州流》 田中尚登 山口尚輝 熊谷尚玉

《小原流》 小山田光容 志田華峰 宮崎尚子 大越映青

北田祐子 下田真由美 小泉英花 工藤一香 一井綾華

藤原枝光 阿部豊翠 藤澤豊榮 小野寺清香 阿部一彩

山崎綾華 村山繚華 吉田秋月 菅原豊文 中村鴻洋

《花芸安達流》 吉田由紀子 菊池香瞳 永野優瞳

《梶井宮御流》 鍋倉瑠美 戸田瑠志 伊五澤京弓

《松風花道会》 渡辺美水（ミサ子） 松田悦水 赤迫美水

古館喜水 瀬川敏水 佐々木貴水

《青山御流》 桂 生陽 晴山伶雅 滝田晃雅 守屋和雅

田添菊雅 佐々木季雅 袖林啓雅

《草月流》 吉田奇昭 平野雅昌 藤井縫籠 千葉渚苑 金

野由季 下村美陽 西川礼峯 佐藤正華 蛇口光蓉 石川

翠桐 細田紅博 早坂典琴 千田芳琴 長澤千徳 掘間恭

華 高橋輝水 杉浦柚泉 村田法麗 古館紫映

《龍生派》 出町蕉宝 熊谷紀光 佐藤賀仙 高橋華杏 宮

鳳秀 佐藤蘭慧 畠山景華 佐藤光葉 伊東華水 大崎蕉

英

○学生コーナー

▽前期

和田思惟（仁王小1） 昆

栞里（岩大附属小2） 丹

波日代里（向中野小

2） 三浦花琳（向中野小

2） 渡辺ちはや（城南小

2） 藤原琉南（岩大附属

小3） 和田法爾（仁王小

3） 高橋 由（白百合小

5） 藤原博斗（岩大附属

小6） 上村那奈（盛岡商

高2） 小野紅葉（盛岡二



▶華道

高2) 鹿糠 希(盛岡商高2) 菊池亜美(盛岡二高2)
菅原未里那(盛岡二高2) 鈴木知代(盛岡商高2) 土川
菜寛(盛岡四高2) 西村綾香(盛岡二高2) 西村紀香
(盛岡二高2) 畠山乃愛(盛岡二高2) 平野来夢(盛岡
三高2) 古川加英(盛岡商高2) 横屋美蘭(盛岡商高2)
吉田香乃(盛岡二高2) 石田 櫻(盛岡商高3) 亀谷春
花(江南義塾3) 八重島圭織(江南義塾3) 山高朋子(盛
岡四高3)

▽後期

熊谷 萌(鵜飼小2) 石川桃子(緑が丘小3) 橋本珠江
(白百合小4) 藤井珠世(緑が丘小4) 齊藤あかり(上
田小5) 宮崎祐奈子(上田小5) 佐々木一颯(好摩小6)
鈴木そよか(仙北小6) 鈴木芭奈(上田小6) 古川心優
(上田小6) 松森美月(玉山小6) 松森優月(玉山小6)
山口未夢(津志田小6) 吉谷地愛叶(津志田小6) 四日
市遙花(好摩小6) 小野寺七海(上田中1) 川村 徹(松
園中3) 駒木妃奈(黒石野中3) 野崎愛菜(河南中3)
吉田彩来(仙北中3) 岩崎佑菜(盛岡中央1) 山本綾乃
(盛岡北高1) 川村華恋(白百合高2) 佐藤安理紗(白
百合高2) 嶋 美咲(盛岡一高2) 井上紗華(白百合高
3) 多田彩花(盛岡二高3) 長沼詩音(白百合高3)

《講評》 岩手県民会館第1・第2展示室にて、「この手か
ら 広がる世界 繋がる文化」をテーマに第71回岩手芸術
祭華道展が開催されました。前期は10月5日(金)・6日
(土)、後期は10月7日(日)・8日(月)の日程で、会員
186名による伝統的で格調高い作品から現代的な造形作
品と若々しく可愛らしい作品まで秋の季節を謳いあげまし
た。

会期中に芸術体験イベントが開催されましたので、華道
部門も会場内で開催をいたしました。6日20名、7日20名
の参加者があり、体験した作品を夕方まで会場内に展示
したことが来場者に変好評でした。4日間の来場者は
2127名でした。

これからも会員一同技術研鑽に励み、より良い作品を発
表して、日本の伝統文化のいけばなを次世代に伝えていき
たいと思っています。

(小原宏華)

吟詠剣詩舞道

吟詠剣詩舞道祭

10月14日(日) 午前10時開演

岩手県民会館大ホール

第1部(幼少年・青年)

1 雨ニモマケズ 宮沢賢治 陸中岳風会
2 絶句 杜甫 一関市立油島小学校
3 おおきなかぶ はたのりか 陸中岳風会
4 向日葵は 前田夕暮 赤荻学童クラブ
5 峨眉山月の歌 李白 岩手吟詠会
6 江南の春 杜牧 岩手吟詠会
7 第2部(一般合吟・剣詩舞)
8 名鎗日本號 松口月城 日本國風流吟吟舞会岩手県地区本部

9 富士山 柴野栗山 (舞) 邦桜会
10 山中の月 真 山民 (舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
11 九月十日 菅原道真 (舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
12 水仙花 宮原南効 陸中岳風会
13 日本國風流吟吟舞会岩手県地区本部
14 源 義経 綱谷一才 (舞) 邦桜会
15 岩手吟詠会

10 名鎗日本號

松口月城

(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
岩手吟詠会

11 事に感ず

于漬

(舞) 吟舞道翠紫流盛岡支部
朝翠流岩手朝翠会

12 一声の仁

西郷南洲

(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
岩手吟詠会

13 青葉の笛

松口月城

(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
岩手吟詠会

14 峨眉山月の歌

李白

(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
岩手岳風会

15 室根山に登る

芦 東山

陸中岳風会

16 名鎗日本號

松口月城

(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
岩手吟詠会

17 平泉懷古

大槻磐溪

(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
岩手吟詠会

18 無欲

良寛

(舞) 吟舞道翠紫流盛岡支部
岩手吟詠会

19 涼州詞

王翰

(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
陸中岳風会

20 奥の細道より「平泉」芭蕉

(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
岩手吟詠会

21 「舞」荒城の月(テープ)

(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
吟舞道翠紫流稀翠会

22 「舞」祝い酒(テープ)

かすみ会

第3部(寿の部)

- 23 吟の道 緒方龍勉 陸中岳風会 吉田岳廣
- 24 たはむれに 石川啄木 岩手吟詠会 及川絢岳
- 25 百人一首二題 岩手岳風会 佐藤磐岳
- 陸奥の 河原左大臣
- 忘れじの 儀同三司母
- 26 陸奥の國に平泉に向ひて、束稻と申す山の侍へ、異木は少き様に櫻の限見えて花の咲きたりけるを見て詠める 西行法師 岩手吟詠会 畠山勝岳
- 構成吟** 〓明治一五〇年〓時代を織りなすころの風詩
- 1 坂本竜馬 松口月城 日本國風流詩吟吟舞会岩手県地区本部
- 2 子弟に示す 西郷南洲 岩手岳風会
- 3 亀山宮中の作 大久保利通 岩手朝翠会
- 4 花を惜しむ 福沢諭吉 源鵬吟詠会
- 5 和歌 よもの海 明治天皇御製 陸中岳風会
- 6 金州城下の作 乃木希典 吟剣道翠紫流稀翠会
- 7 岸壁の母 平池南桑 日本國風流詩吟吟舞会岩手県地区本部
- 8 北上夜曲 岩坪秀咆 日本國風流詩吟吟舞会岩手県地区本部
- 9 和歌 大いなる 今上天皇陛下 陸中岳風会

第4部（合吟）

- 27 弘道館にて梅花を賞す 徳川斉昭 岩手吟詠会
- 28 重ねて楓橋に宿す 張繼 朝翠流源鵬吟詠会
- 29 夜墨水を下る 服部南敦 岩手岳風会
- 30 坂本龍馬を思う 河野天籟 岩手朝翠会
- 31 江雪 柳 宗元 岩手吟詠会
- 32 失題 古莊嘉門 陸中岳風会
- 第5部（連吟）**
- 33 奥の細道の一節 松尾芭蕉 朝翠流源鵬吟詠会
- 34 山中の月 真 山民 岩手吟詠会
- 35 近江八景 大江敬香 岩手岳風会
- 36 富士山 柴野栗山 陸中岳風会
- 37 山中月 真 山民 詩吟朗詠錦城会盛岡支部
- 38 奥の細道より平泉の一節 松尾芭蕉 岩手朝翠会
- 39 山中の月 真 山民 岩手岳風会
- 40 桜花の詞 逸名 岩手吟詠会
- 41 山中の月 真 山民 陸中岳風会
- 第6部（推薦吟）**
- 42 農を憫む 李紳 陸中岳風会 佐々木幸風
- 43 見わたせば 藤原定家 岩手吟詠会 小野妙岳
- 44 九月十三夜陣中の作 上杉謙信 岩手吟詠会 畠山正岳
- 45 農を憫む 李紳 岩手吟詠会 佐藤健山

- 46 青葉の笛 松口月城 岩手朝翠会 及川誠鵬
- 47 胡隠君を尋ぬ 高啓 岩手吟詠会 千葉紅岳
- 48 守覚法親王家に五十主歌よませ侍りけるに旅歌 藤原俊成 岩手岳風会 星川晃岳
- 49 見わたせば 藤原定家 陸中岳風会 熊谷慶岳
- 50 胡隠君を尋ぬ 高啓 岩手吟詠会 曾我久風
- 51 夜墨水を下る 服部南郭 岩手岳風会 田中隆風
- 52 新正口号 武田信玄 朝翠流源鵬吟詠会 谷村紀鵬
- 53 桂林莊雜詠諸生に示す 廣瀬淡窓 岩手吟詠会 佐々木貴風
- 54 俳諧歌二題 吹風の 一茶 岩手吟詠会 千葉江岳
- 散る花の 一茶
- 55 ききもせず 西行法師 陸中岳風会副会長 小野寺岳蓉
- 56 降りながら 一茶 岩手吟詠会副会長 芳川岳弘
- 57 秋日 秦觀 日本國風流詩吟吟舞会岩手地区本部長 高橋國叢
- 58 心の若さで頑張ろう 津田岳養 津田岳養

第7部（実行委員独吟）

- 59 両英雄 徳富蘇峰 源鵬吟詠会会長 安保榮鵬
- 60 娑婆歌 日柳燕石 県総連副理事長 高橋岳遥
- 61 偶感 西郷南洲 岩手朝翠会会長 伊藤語鵬
- 62 平泉懷古 其の一 大槻磐溪 剣総連副理事長 小山岳耕
- 63 座右之銘 崔 子玉 県総連理事長 立身岳元
- (俳句) 芭蕉
- 《講評》 第25回岩手県吟詠剣詩舞道祭は、平成30年10月14日（日曜日）、岩手県民会館大ホールにて入場者数 860人（会員708人・幼少年62人・一般90人）で新岩手県総連創立記念大会として盛大に行われた。
- 午前10時の開会式は、舞台正面への修礼で始まり、会場全員の国家斉唱と開会の辞（小山岳耕副実行委員長）、実行委員長挨拶（立身岳元実行委員長）、岩手県芸術文化協会柴田和子会長の祝辞に引き続き、立身岳元実行委員長が御製謹詠し、吟詠発表に入った。
- 第1部の幼少年・青年の部では、陸中岳風会一関市立油

島小学校児童の宮沢賢治の「雨ニモマケズ」「絶句―杜甫作―」赤荻学童クラブの「おおきなかぶ―はたのりか作―」「向日葵は―前田夕暮作―」「峨眉山月の歌―李白作―」の合吟が発表され、将来吟詠を担うであろう子供たちの純真無垢な声が会場に響きわたり拍手喝采を浴びた。

第2部の一般吟詠・詩舞では、吟詠5団体と詩舞3団体による共演12題、吟詠3団体による合吟5題、テープによる剣詩舞2題で会場を魅了した。

第3部の寿の部では、陸中岳風会・岩手岳風会・岩手吟詠会より90歳を超えた会員4名がかくしゃくとした声で吟じ、聴衆に感銘を与えた。

昼食休憩を挟んでの特別企画では、構成吟「明治150年―時代（とき）を織りなすころの風詩」と題して企画・構成、高橋國叢（國風流）、ナレーター甲谷國順（國風流）、7団体総勢54名により明治改元から平成の今に至る激動の歴史を吟詠に織り交ぜて演ぜられ、聴衆の拍手喝采を浴びた。

第4部では、吟詠5団体からそれぞれ代表しての合吟が披露された。

第5部では、連吟（一つの詩文を複数人に分けて吟ずる形式）が6吟詠団体により披露された。

第6部では、それぞれの団体から推薦された13名の方々

に吟を披露して頂いた。

第7部では、今回の実行委員の方々の吟が披露され、中でも高橋岳遥副理事長の「娑婆歌―日柳燕石作―」「立身岳元理事長の「座右之銘―崔子玉作―」の心に染み入る朗々とした吟が聴衆を魅了し、引き締まったフィナーレであった。

閉会式では、高橋岳遥副実行委員長の開会の辞に続き、伊藤語鵬実行委員の万歳三唱で今年発生した北海道地震災害や西日本豪雨災害など被災地の復旧・復興と岩手沿岸被災地の更なる復興を願い来年の再会を誓い合った。

今回は、岩手県吟剣詩舞道総連盟の設立を記念して新たな組織体制のもとに実施され、加盟団体総参加しての構成吟を企画したが、会員はもとより一般入場者からもたくさんのお好評を得た。

（運営役員 外村信山 記）



音楽

合唱

合唱祭

12月2日(日) 12時半開演

岩手県民会館大ホール

プログラム

オープニングの合唱（出演者全員）

岩手県民の歌

指揮 西野 真史
ピアノ 佐々木有香
詞 田原 耕二
曲 中田 喜直
啄木歌集から「やはらかに」
「ふるさとの」
曲 石川 啄木
詞 加藤 學

1 岩手大学グリーンコーラス室内合唱団（盛岡市・混声15名）

指揮 武内 晃
ピアノ 天坂 真悠
O magnum mysterium 曲 Tomas Luis de Victoria
そのひとがうたうとき 詞 谷川俊太郎
曲 木下 牧子

2 pieni peili（盛岡市・女声16名）

指揮 小濱和子
無伴奏女声合唱のための「7つの子ども歌」から

ていんさぐぬ花

一番はじめは
三地方の子守歌

編曲 信長 貴富
詞 わらべうた
大阪地方の子守歌
青森地方の子守歌
熊本地方の子守歌
詞 沖縄わらべうた

3 混声合唱団北声会（盛岡市・混声20名）

指揮 西野 真史
ピアノ 佐々木有香
混声四部合唱のための「歌謡デラックス2」から
編曲 石若 雅弥
詞 岩谷 時子
恋の季節 曲 いずみたく
北の宿から 詞 阿久 悠
曲 小林 亜星
長崎は今日も雨だった 詞 永田 貴子
曲 彩木 雅夫

4 岩手県立大学混声合唱団（滝沢市・混声25名）

指揮 齋藤久実子
混声合唱のための組曲「子猫物語」から
「走る」 詞 谷川俊太郎
曲 松本 耕

「はじめに：」

- 5 花巻桜台コーラス（花巻市・混声22名）
- | | |
|--------------------|-------|
| 指揮 | 千葉 慶子 |
| ピアノ | 吉田真紀子 |
| 混声合唱組曲「心の四季」から「風が」 | 吉野 弘 |
| 詞 | 高田 三郎 |
| 曲 | 桑田 佳祐 |
| 編曲 | 松本 涼 |

- 6 男声合唱団松園シルバーダックス（盛岡市・男声16名）
- | | |
|-------|-------|
| 指揮 | 滝沢 三郎 |
| 詞 | 岩手県民謡 |
| 編曲 | 滝沢 三郎 |
| 盛岡三大麺 | 滝沢 三郎 |
| ふるさとの | 滝沢 三郎 |
| 詞 | 石川 啄木 |
| 曲 | 庄司 光郎 |
| 補作 | 篠田 守弘 |

- 7 矢巾町立不動小学校4年生（矢巾町・35名）
- | | |
|-----|-------|
| 指揮 | 芳賀 郁夫 |
| ピアノ | 齋藤真希恵 |

- 文部省唱歌 春がきた
- | | |
|--------|-------|
| 詞 | 高野 辰之 |
| 曲 | 岡野 貞一 |
| うみ | 林 柳波 |
| 詞 | 井上 武士 |
| 曲 | 中村 雨紅 |
| 夕焼け小焼け | 草川 信 |
| 詞 | 高野 辰之 |
| 曲 | 岡野 貞一 |
| ふるさと | 松井 孝夫 |
| 詞 | 松井 孝夫 |

- 8 不動小学校・矢巾北中学校合同
マイバラード

- 9 Amphis Chor（盛岡市・男声10名）

- KAKSIKUPHENDUS
- | | | |
|----------------------------|---|--------------|
| 1 Uhte Iaulu tahaks Iaulda | 詞 | Gustav Suits |
| 2 Tahed | 詞 | Veijo Tormis |
| YOUVE GOT A FRIEND IN ME | 曲 | Marie Under |
| | 曲 | Veijo Tormis |

- 10 混声合唱団アミューズ（奥州市・混声24名）
- | | |
|-----|--------------|
| 詞・曲 | RANDY NEWMAN |
| 編曲 | DAN WESSLER |
| 指揮 | 高野 司 |

- 11 Coro felice（矢巾町・女声14名）
- | | |
|-------------------|--------------|
| 指揮 | 村松 玲子 |
| 曲 | William Byrd |
| 「Missa ㊦ vocum」から | |
| Kyrie | |
| Gloria | |
| 夢みたものは | |
| 詞 | 立原 道造 |
| 曲 | 木下 牧子 |

- 女性合唱曲集「笑いのコーラス」から
春風
- | | |
|----|--------|
| 詞 | マザーグース |
| 訳詞 | 吉田 映子 |
| 曲 | 横山 潤子 |

- 12 男声合唱団コールM（盛岡市・男声20名）

- 指揮 太田代政男
- | | |
|-----|-------|
| ピアノ | 高野 結愛 |
| 詞 | 大木 惇夫 |
| 曲 | 佐藤 真 |

- 13 盛岡市立仙北中学校合唱部（盛岡市・女声11名）
- | | |
|----|------|
| 指揮 | 岡本 礼 |
|----|------|

- 14 盛岡市立仙北中学校・厨川中学校合同合唱
（盛岡市・女声19名）
- | | |
|-----------|---------------------------|
| 指揮 | 岡本 礼・北川加奈子 |
| 詞 | English traditional carol |
| 曲 | John Rutter |
| Ave Maria | 曲 Zoltan Kodaly |

- 15 盛岡市立厨川中学校（盛岡市・女声8名）
- | | |
|----|---------------|
| 指揮 | 北川加奈子 |
| 曲 | Eleanor Daley |

- 16 盛岡コメット混声合唱団（盛岡市・混声24名）
- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| ピアノ | 雫石 環 |
| ブラームス「四重唱曲」から | |
| Der Gang zum Liebchen「恋人のまじく」 | 詞 Bohmisch |
| Nachdens「夜に」 | 曲 Johannes Brahms |
| | 詞 Kugler |
| 曲 | Johannes Brahms |

Warum 「なぜ」

詞 Goethe

17 男声合唱団響流はなまき (花巻市・男声15名)

曲 Johannes Brahms
指揮 斉藤 明

歌劇「魔笛」から

Das Klinget so herrlich

詞 伊藤 武雄

ふるさと

曲 モーツァルト

この街で

詞 不明

この街で

曲 オナーテイン

18 岩手女声高等学校音楽部 (盛岡市・女声13名)

指揮・ピアノ 田村久美子

浜辺の歌

詞 林 古溪

龍月夜

曲 成田 為三

龍月夜

編曲 信長 貴富

龍月夜

詞 高野 辰之

龍月夜

編曲 岡野 貞一

龍月夜

編曲 信長 貴富

Far Away (彼方の光)

詞 Robert Prizeman

龍月夜

曲 村松 崇継

19 Ayanass (盛岡市・混声12名)

心の瞳

詞 荒木とよひさ

心の瞳

編曲 三木たかし

22 うたには、(盛岡市・混声12名)

指揮 赤穂 雄健

子守唄—立原道造の詩によるレクイエム—

詞 立原 道造

混声合唱組曲「雨」から雨

曲 三宅 悠太

混声合唱組曲「雨」から雨

詞 八木 重吉

23 矢巾町立矢巾北中学校 (矢巾町・混声46名)

映画「グレイテスト・ショーマン」から

Never Enough 詞・曲 Benj Pasek and Justin Paul

This is me

24 都南混声合唱団 (盛岡市・混声58名)

指揮 大橋文四郎

武蔵野の雨

ピアノ 藤原 博子

武蔵野の雨

詞 大木 惇夫

チャコの海岸物語

編曲 桑田 佳祐

チャコの海岸物語

モルダウ

編曲 信長 貴富

モルダウ

詞 岩河 三郎

指揮 佐藤ふみ子
無伴奏混声合唱のための「ノスタルジアⅡから
ドナドナ

線路は続くよどこまでも

詞 安井かずみ

線路は続くよどこまでも

編曲 信長 貴富

線路は続くよどこまでも

訳詞 佐木 敏

線路は続くよどこまでも

アメリカ民謡

20 女声合唱団コールパレッタ (盛岡市・女声24名)

指揮 伊藤 哲也

ヒッコリーのおくさん

ピアノ 高橋 尚子

ヒッコリーのおくさん

詞 デ・ラ・メア

ヒッコリーのおくさん

訳詞 吉田 映子

ヒッコリーのおくさん

曲 横山 潤子

ヒッコリーのおくさん

詞 工藤 直子

ヒッコリーのおくさん

曲 横山 潤子

21 合唱団 Believe (花巻市・混声19名)

指揮 太田代政男

パッヘルベルの「カノン」による

ピアノ 池田 好典

パッヘルベルの「カノン」による

詞 岩沢 千早

遠い日の歌

曲 橋本 祥路

ファイナーレの合唱

曲 スマタナ

大地讃頌

指揮 大橋文四郎

大地讃頌

ピアノ 藤原 博子

大地讃頌

詞 大木 敦夫

大地讃頌

曲 佐藤 眞

大地讃頌

詞 田原 耕二

大地讃頌

曲 中田 喜直

《講評》 第71回岩手芸術祭合唱祭は岩手県民会館大ホールで行なわれた。参加団体数は例年並みであったが、参加団体の傾向は変化している。学生を中心に、若い世代の団体が増えているのだ。今回の参加24団体中、実に半数の13団体が学生あるいは20代を中心とした合唱団であった。2年前、昨年は9団体だったことから、この変化は顕著であるといえる。学生のレベルは年々向上しているし、岩手県の合唱文化の未来は明るいと思わせてくれるには十分な結果である。

演奏においても、若いフレッシュな合唱からベテラン勢の上質な合唱と、隔々まで楽しめる時間となった。オーブニングとファイナーレの合同合唱は、指揮者の的確なアプローチのもと、ただ集まって歌うだけに留まらない想いのあ

るすばらしい合唱だった。演奏会後には各団体の代表者と

果である。

演奏においても、若いフレッシュな合唱からベテラン勢

の上質な合唱と、隔々まで楽しめる時間となった。オーブ

ニングとファイナーレの合同合唱は、指揮者の的確なアプロ

ーチのもと、ただ集まって歌うだけに留まらない想いのあ

るすばらしい合唱だった。演奏会後には各団体の代表者と

果である。

演奏においても、若いフレッシュな合唱からベテラン勢

の上質な合唱と、隔々まで楽しめる時間となった。オーブ

ニングとファイナーレの合同合唱は、指揮者の的確なアプロ

ーチのもと、ただ集まって歌うだけに留まらない想いのあ

るすばらしい合唱だった。演奏会後には各団体の代表者と

講師の先生にお集まりいただき、合評会を行なっている。意欲的な団が多く、講師は常に質問攻めとなる。たくさんさんの「みやげ話」を各団に持ち帰っていただき明日への糧としていただく。今回も大変有意義な時間であったと思う。

今回各団体の演奏を聴いて、岩手県の合唱の特徴は音楽観の多様ではないだろうか。声の方向性、音楽に対するアプローチが各合唱団でしっかりアイデンティティを有している。違うからこそ面白い。画一的でないのが岩手の合唱である。そんな風に思えてならないと同時に、今後ともそうであって欲しいと願わずにはいられない。

1つ残念であることは、来場者の少なさである。高水準の合唱が多いにもかかわらず、客席にはまだまだ空席が多く見られる。お客様により楽しんでいただく「何か」が必要であると感じる。例えば来場者参加型のような仕掛けが



◀合唱

あってもいいのかもしれない。他県の様子などを伺いながら、さらに魅力的なイベントとなるよう検討していかなければならないと強く感じている。

ちなみに、来年は12月1日日曜日に二戸市で開催予定である。是非とも多くの方々に足を運んでいただきたい。

(合唱部門 担当 及川尚樹)

声 楽

岩手芸術祭声楽部門演奏会

11月3日(土) 午後1時半開演

岩手県民会館中ホール

第1部 ドイツ歌曲 詩人ゲーテ

Goethe(1749-1832)をめぐる作曲家の作品

Pf.斎藤久実子

・ Werner Heidenrostein 野ばら

駒木美和子

・ Beethoven Aus Goethes Faust. Op.75-3

ゲーテのファウストより 蚤の歌

昆野 聡朗

・ Schubert Heidenrostein Op.33 野ばら

穂積佳穂子

Ganymed. Op.19-3 ガニュメート

新田 順子

Pf.井上 彩花

・ Schumann Lied der Suleika スライカの歌

駒木 恵

・ Mendelssohn Suleika Op.34-4 スライカ 奥崎由樹子
・ List Freudvoll und Leidvoll

喜びで一杯、そして悲しみで一杯 山崎 尚子

・ Wolf Anacreons Grab アナクレオンの墓 萩原美智子

Mignon ミニオン 内堀 朋子

第2部 公募出演者による演奏

◇奥 大樹 バリトン Pf.及川 真咲

Quella fiamma che m'accende 私を燃え立たせるあの炎 マルチエッロ作曲

O del mio amato ben おお 愛する人の ドナウディ作曲

Danza, fanciulla gentile 踊れ、優しい娘よ デュランテ作曲

◇菊池葉子 ソプラノ Pf.千葉 浩子

宵待草 竹久夢二詩 多 忠亮作曲

Ave Maria アヴェ・マリア マスカニーニ作曲

Exsultate, jubilate KV165 ヌル アレリヤ モーツァルト作曲

◇菊池葉子 メゾソプラノ Pf.虫壁めぐみ

An den Mond Op.57-3 月よせて ヘルティ詩 シューベルト作曲

オペラ 「La Gioconda: ラ・ジヨコンダ」より

Stella del marina! 船乗りの星よ! ポンキエッリ作曲

◇鈴木たたえ ソプラノ Pf.鈴木 恵

D'une Prison 牢獄で ヴェルレーヌ詩 アーン作曲

オペラ 「Les Malheurs d'Orphée: オルフェの不幸」より

Air d'Eurydice ユリディスのアリア ミヨール作曲

Apparition 出現 マラルメ詩 ドビュッシー作曲

フランス歌曲

・ Gounod Chanson de printemps 春の歌 トゥルノー詩

Pf.桜野 杏里

Serenade セレナード コゴート詩

花下 美起

・ Chausson Le Colibri 蜂どり リール詩

三上 詩織

・ Bizet Chanson d'avril 4月の歌 ブイエ詩

平野 紅子

日本歌曲をたどって〜その10〜

丸岡千奈美

・ 中田喜直作品

Pf.橋本明日香

「六つの子供の歌」より

ねむの木 野口雨情詩

小坂 博

おやすみ 三木露風詩

小坂 博

金子みすゞ詩による童謡歌曲集「ほしとたんぽぽ」より

ほしとたんぽぽ

駒木 恵

わたしとことりとずすと

丸岡千奈美

わらい

穂積佳穂子

霧と話した 鎌田忠良詩

飛澤のり子

木兎 三好達治詩

山口 剛

門脇 次郎

《講評》 2018年度声楽部門演奏会は第1部ドイツ歌曲、第2部公募出演者による演奏、第3部フランス歌曲及

び日本歌曲の3部構成で行われた。

会員による第1部ドイツ歌曲ではヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテの詩（ゲーテの恋人の詩を含む）をとりあげた。多くの作曲家の創作意欲をかきたてたゲーテ作品の深さと広がりに触れる中でドイツ古典派文学とベートーヴェンからロマン派の作曲家達との出会いに思いをめぐらせながらの演奏となった。

公募出演者による第2部は温かいバリトンの奥、コラトゥーラソプラノの阿部、深い音色のアルトの菊地、そして海外コンクール入賞歴を持ち円熟味を増しているソプラノの鈴木、と多彩な面々がそれぞれの持ち味を活かすべく、素朴なイタリア歌曲から始まって日本歌曲、フランス歌曲、宗教曲、オペラまでと多種多様な作品を聞かせ大いに場内を楽しませた。



◀ 声楽

第3部は再び会員の演奏に戻り、ここ数年継続的に取り組んでいるフランス歌曲と日本各局を聞かせた。まず3部前半のフランス歌曲ではシャルル・グノー、エルネスト・シヨーソン、ジュールジュ・ビゼーの作品の中から恋の歌、愛の歌を取り上げ、ロマンチックな雰囲気会場に漂わせた。

3部後半のステージは今年10回目となった「日本歌曲をたどって」で、今回は中田喜直を取り上げた。観客は童謡から文学作品までその親しみやすいメロディーの中に日本語を活かし、芸術性を内包させた中田音楽の魅力味わった。

▽実行委員 山口 剛、丸岡千奈美

（昆野聡朗）

弦楽

ソロと室内楽の調べ

10月14日(日) 午後2時開演

岩手県民会館中ホール

第1部 独奏

ヴァイオリン協奏曲 第3番第1楽章……モーツァルト

ピアノ 阿部 美伶
三神 樹美

ツイゴインエルワイゼン Op.20 ……………サラサート

川目 奨平
ピアノ 伊藤 玲子

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.35 第1楽章

……………チャイコフスキー

加藤 紗英
ピアノ 伊藤 玲子

第2部 新人独奏

ヴァイオリン ソナタ 第2番ニ長調 Op.94

……………プロコフィエフ

工藤 崇
ピアノ 山本まゆ子

第3部 弦楽合奏

ダイヴェルティメント へ長調 K.138 第1～3楽章

……………モーツァルト

弦楽セレナーデ 変ホ長調 Op.6 第1～4楽章……スーク

Cond : 畠山 渉

Vn : 阿部大司 大森響生 (大4) 亀谷由美子

菊池昭子 工藤 崇 芹澤侑也 (大3)

畠山亜希子 馬場雅美 星 睦 (大3)

松見雅子 米倉久美 渡辺めぐみ

Va : 伊藤千鶴子 片桐 薫 平野 忍

《講評》 今年の「ソロと室内楽

の調べ」第1部は中学生、高校生3名によるヴァイオリン独奏、第2部は桐朋学園大学卒業、研究科修了した岩手県出身者によるヴァイオリンの独奏、第3部は会員、学生、県内音楽愛好者による弦楽合奏だった。

第1部は、岩手大学教育学部附属中学校1年の阿部美伶がモーツァルト作曲、ヴァイオリン協奏曲第3番第1楽章を演奏した。続いて盛岡市立本宮中学校2年の川目奨平がサラサート作曲、ツイゴインエルワイゼンを演奏した。続いて盛岡白百合学園



▶ 弦楽

高等学校1年の加藤紗英がチャイコフスキー作曲、ヴァイオリン協奏曲第1楽章を演奏した。一生懸命演奏した生徒に会場からは温かい拍手が送られた。

第2部はフリーの演奏家として、ジーリオシヨウワオーケストラ団員としても活躍している工藤崇によるプロコフィエフ作曲、ヴァイオリンソナタ第2番を演奏した。この若き演奏家が将来世界で活躍する日が来ることを期待したい。

第3部は、今回新しく指揮者に仙台在住の畠山渉氏を迎えモーツァルト作曲。ディヴェルティメント へ長調全楽章とスーク作曲、弦楽セレナーデ 変ホ長調全楽章を会員、学生、県内音楽愛好者で演奏した。調和のとれた美しい音色は多くの聴衆を魅了した。

(田口博子)

三曲

三曲演奏会

10月21日(日) 午後2時開演
岩手県民会館大ホール

プログラム第1部

開幕演奏 六段の調 八橋検校作曲 宮田耕八朗編曲
箏本手 佐藤美穂子 佐藤叡子 船越喜実乃

箏替手

清水健治 山口莉乃 佐藤璃桜 加藤雅道
斉藤都美寿 永田宏恵 熊谷雅志華
栗津佐紀枝 合田美代子 小山眞智子
高橋妙子 和田郷子 柴田トク子 四役つぎえ
七十苺京子 川口豊子 小野ケイ子 松川静子
高橋セツ子 畠山茂子 日影節子 木村斐子
及川晃穂 岩崎陽子
佐々木正子 熊谷由恵 阿部菊子 阿部了子
千葉貴和子 一ノ渡律子 吉田雪枝 加納鈴子
木村雅楽織 夏井明美 泉澤敦子 佐々木雅正
小笠原美和子 木下フサ 田村雅蕉
及川実沙子 長澤雅寿恵 大山幸子
渡引美久子

三絃

坂本知子 細田雅邦 高橋珠久 佐藤テル子
黒澤雅千賀 小原京子 高橋秋美 小瀬川雅恵
佐藤雅陵 高橋宣子 岩渕律子 坂本シゲ子
佐藤江里子 渡辺つる代 吉田久仁子
横山彩子 川内容子 山本雅菜穂 佐藤雅韻
山口雅鮮 奥津雅楽夢 高橋雅楽蒼良
築後雅仁 吉田コウ 帷子淳子 鈴木正志
内村 朋 外館敬子 南館峰子 川村佳子
立野呈山 中島胡山 菊池捷山 國分憬山

十七絃

尺八

2

八千代獅子 園原勾当作詞 藤永検校作曲
沼川螢山 稲葉一山

箏高音

船越喜実乃 栗津佐紀枝 鈴木佐代博
熊谷佐代規 福士史恵

箏低音

佐藤叡子 佐々木正子 熊谷由恵 清水健治
横山彩子 小野ケイ子 阿部了子 片岡明美
畠山知恵子 渡邊美子 千葉まり子 大山幸子
高橋セツ子 畠山茂子 松川静子
坂本知子 斎藤仁恵井 高橋秋美 高橋珠久
高橋宣子 岩渕律子 小原京子 藤沼佐代邦

三絃

内村 朋 川内容子 及川実沙子 南館峰子
小笠原美知子 坂本シゲ子 佐藤江里子
吉田久仁子 渡辺つる代

尺八

地紙鷲山 立野呈山 中島胡山 菊池捷山
遠山天山 鈴木星童 吉田斗童 安達嘉男
佐藤政孝 高橋竹朋 佐藤竹園 国久朋縹
佐藤竹玲 中野朋叡 古川幸二 兼田光治
菊池 譲 古館裕治 中村俊明 安嶋香織
佐々木俊一 田村 聡 照井孝一 毎床丸行
菅野和子 菊池清澄 高橋 剛 伊藤和江
小原義和 細川剣文山 千田聡山 高橋院鵬
伊藤大楽 勝部原山 武田磐真 小野寺扇輔

1 輝く陽 久本玄智作曲

I 箏

細田雅邦 山口莉乃 阿部了子 武田紀子
土田えり子 加藤雅道 片岡明美 畠山知恵子
合田美代子 一ノ渡律子 小瀬川雅恵
小山眞智子 高橋妙子 加納鈴子 築後雅仁
田村雅蕉 佐々木雅正

II 箏

藤原玉悦美 木村玉悦枝 佐藤雅陵
木村雅楽織 佐藤テル子 吉田コウ
吉田雪枝 佐藤美穂子

尺八

高橋法聖 石川 戡 中村嘉国 白石文子
熊谷みき子 及川政山 中島胡山 國分憬山
高橋賀山 佐藤檜山 長谷川恭山 畠山深山

鈴木秀一 高橋賀山
プログラム第2部

特別演奏 1 古ざらし 深草検校作曲

三絃 芦垣美穂

三絃 岡村慎太郎

2 松巖軒鈴慕 尺八古典本曲

尺八 善養寺恵介

3 尾上の松 作曲者不詳 宮城道雄箏手付

三絃 芦垣美穂

尺八 善養寺恵介

箏 岡村慎太郎

祝賀合同演奏 不思議見聞録 in MORIOKA 吉崎克彦作曲

I 箏 芦垣美穂

松坂尚子 船越喜実乃 佐々木正子 関川和子

高橋珠久 夏井明美 泉澤敦子 阿部菊子

畑中央子 横山彩子 小笠原美知子 植村千恵

木村雅楽織 川内容子 及川実沙子

高橋セツ子 畠山茂子 阿部了子

戸塚玉悦淑茂 高橋宣子 佐藤美穂子

千葉貴和子

II 箏

坂本知子 熊谷由恵 栗津佐紀枝 藤原玉悦美

小原京子 高橋秋美 清水健治 佐藤テル子

戦争が激しくなり中断された期間もあったが、昭和22年から毎年春、秋2回の定期演奏会を開催し今日に至っており、今回は141回目の演奏会である。

創立15周年を迎えた昭和33年から、5年に1度の周年記念演奏会に中央で活躍されている著名な演奏家を招聘して開催しており、今回も箏・三絃演奏家の芦垣美穂師、岡村慎太郎そして尺八演奏家の善養寺恵介師をお招きして演奏会を行った。

演奏会は、1部は地元会員による合同演奏3曲、2部は特別出演者による演奏3曲、そして3部は特別出演者と地元会員による祝賀演奏の3部構成でプログラムを編成した。

通常の演奏会では、流派、社中そして支部毎に演奏を行っているが、記念演奏会はいつも流派等を超えて合同で演奏を行っている。

1部は「六段の調べ」出演者



▶三曲

佐藤叡子 小野ケイ子 築後雅仁 岩渕律子
 大山幸子
 十七絃 岡村慎太郎

吉田コウ 帷子淳子 加藤雅道 細田雅邦

内村 朋 鈴木正志 南館峰子 外館敬子

尺八I部 善養寺恵介

伊藤衡山 菊池捷山 鈴木星童 吉田斗童

安達嘉男 石川 戡 白石文子 熊谷みき子

佐藤竹園 千田聡山 小崎翔山 佐藤杏山

齊藤萩山 澤内逸陽 澤内大樹

尺八II部 高橋法聖 高橋竹朋 中島胡山 國分憬山

遠山天山 佐藤秋山 村井堆山 工藤盛山

鈴木萬平 佐藤政孝 中村嘉国 佐藤檜山

ツリーチャイム 立野呈山

《講評》 第71回岩手芸術祭公演は、岩手三曲協会創立75周年記念演奏会として、10月21日に岩手県民会館大ホールで開催された。

当協会は、太平洋戦争が激しくなり社会全体が戦争一色に染められ、歌舞音曲が社会の片隅に追いやられたこの時代に三曲の音を守ろうと昭和18年9月に結成された団体である。

119名、「輝く陽」39名、「八千代獅子」75名と流派の異なる大人数での演奏で、曲をまとめる責任者には大変苦労を掛けたが、1年半前からの合同練習に回を重ね、演奏者の息も合い、邦楽特有の「阿吽の呼吸」で一糸乱れぬ素晴らしい演奏を行うことが出来た。

2部は芦垣美穂師と岡村慎太郎師の2丁の三絃による「古ざらし」、善養寺恵介師による尺八独奏で「松巖軒鈴慕」そして3人の先生による「尾上の松」の三曲合奏といずれも楽器の特徴をすべて出し切ったような技巧と、余韻を含め一音一音を大切にしている演奏に酔いしれた。楽器の持つ無限の可能性を感じさせられた演奏でもあった。

3部での演奏曲「不思議見聞録 in MORIOKA」は、平成5年に盛岡で開催された国民文化祭邦楽祭の際に委嘱して作曲された曲で久々の演奏となったが、一般の邦楽と異なり洋楽の手法を取り入れられた曲で、なじみまで時間がかかったが、苦労してまとめ上げた曲なので、演奏が終わったとき演奏者の感動は大きかったものと思うし、会場の皆様にもこの思いが届いたのではないかと思う。

今回の演奏会を顧みて、従来の記念演奏会の倍の合同練習の場を持ち、寒い中、暑い中、会員にはご苦労も掛けたが、その成果が十分に発揮された演奏会であった。演奏会が終わった後の会員の充実感、そして満足感、またアンケート

ートの結果からも多くの観客に感動を与えた演奏会ではなかったかと思う。

▽実行委員＝伊藤衡山 立野呈山

(伊藤衡山)

吹奏楽 吹奏楽演奏会

11月23日(金・祝) 午後2時開演
盛岡市民文化ホール大ホール

【第50回定期演奏会 もりすう「コンサート」】

I
“JUBILEE OVERTURE” Philip Sparke 作曲
“SYMPHONIC OVERTURE” James Barnes 作曲
“Fragments for Wind Orchestra” Tomohiro Tanabe 作曲

吹奏楽のための断章「空と海の間で」

I 記憶、慟哭の春 II 北へ
III 沈黙、そして祈り IV 明日へ

“Concerto for Soprano Sax and Wind Ensemble”

John Mackey 作曲

III

「杜色に染まった大地からの音像スパイラル」
「ふりそそぐ木漏れ日を背にうけて」
「スカイ・ハイ」
「酒とバラの日々」
「グラナダ」
「追憶のテーマ」
「アメリカン・グラフィティ」Ⅱ

《講評》 岩手芸術祭・盛岡吹奏楽団の創立50周年、第50回定期演奏会は、ゲストにサクソフォンプレーヤーの須川展也さんを迎えて盛岡市民文化ホール大ホールに満席のお客様にご来場いただき盛大に開催致しました。

第1部のプログラムでは音楽監督であります建部知弘さんの創立50周年記念委嘱作品吹奏楽のための断章「空と海の間(はざま)」を含めて3曲を演奏いたしました。

第2部はゲストのサクソフォンプレーヤーの須川展也さんをフューチャーした曲「ソプラノサクソフォンとウインドアンサンブルのための協奏曲」を団員全員で、この大曲を春先より取り組んでいた曲を全力で奏でました。

第3部は「盛吹・ポップス・オン・ステージ」と称してサブタイトルに「杜色に染まった大地からの音像スパイラ

ル」、ふりそそぐ木漏れ日を背にうけてと題して、盛り沢山のメニューを組み、創立50周年の演奏会を3時間以上続けて演奏いたしました。盛岡吹奏楽団の半世紀を凝縮しつくせない程、多くの想いを込めながら無事に演奏会を終えることができました。

岩手県内で一番歴史のある吹奏楽団として、そして東北管内でも息の長い吹奏楽団として、今後も60回、70回と続けていくよう、団員一同精進いたします。

演奏会だけでなく、広く地域での幅広い音楽活動ができますように、今後とも盛岡吹奏楽団を応援、ご支援いただきますようによりしくお願いいたします。

(盛岡吹奏楽団団長 安倍一洋)

▽実行委員＝安倍一洋

小山智弘



▶吹奏楽

ピアノ ピアノ演奏会

10月20日(土) 午後3時開演
岩手県民会館中ホール

ジュニアの部

- 1 エリーゼのために イ短調 WoO.59 ベートーヴェン 佐藤 希美
- 2 子供のアルバムより 変ロ長調 Op.39 No.9 チャイコフスキー 須賀 陽也
- 3 新しいお人形 変ロ長調 Op.39 No.9 チャイコフスキー 須賀 陽也
- 4 春 イ長調 W.F. バッハ ショパン 須賀 陽也
- 5 ワルツ 第19番 イ短調(遺作) ショパン 須賀 陽也
- 6 ロンド ニ長調 K.485 モーツァルト 千田 柚羽
- 7 ピアノソナタ 第8番 ハ短調 Op.13 「悲愴」 第3楽章 ベートーヴェン 小野寺千潤
- 8 ブルグミュラー18の練習曲集より 「セレナード」イ短調 Op.109 No.11 ブルグミュラー 小野寺千潤
- 9 ピアノソナタ ニ長調 Hob.XVI.37 ハイドン 小野寺千潤

- 8 ポロネーズ 嬰ハ短調 Op.26No.1 シェパン 熊本 怜央
服部 亮輔
- 9 ピアノソナタ 第4番 Op.30 スクリャービン 菅野 愛

一般の部（審査制）

- 1 ピアノソナタ第24番 嬰ヘ長調 Op.78「テレゼ」 佐藤 南美
ベートーヴェン
- 2 インヴェンション第2番 ハ短調 BWV773 バッハ
バラード 第4番 ヘ短調 Op.52 シェパン 平 大樹
- 3 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番より
「シャコンヌ」ニ短調 BWV1004 バッハ／ブゾーニ 滝沢 善子
- 4 ピアノソナタ第14番嬰ハ短調 Op.27 No.2 桂 史子
ベートーヴェン
- 5 32の変奏曲 ハ短調 WoO.80 ベートーヴェン
超絶技巧練習曲 第7番 変ホ長調「エロイカ」 佐藤 陽十
S.189 リスト
- 6 ピアノソナタ ヘ長調 K.332 モーツァルト 鈴木 香純
モーツァルト
- 7 ピアノソナタ Op.1 ロ短調 ベルク 小松 桃

招待演奏

- 第70回岩手芸術祭ピアノ演奏会芸術祭賞受賞 上田 菜緒
- ピアノソナタ ハ長調 K.279 モーツァルト
- アベック変奏曲 ヘ長調 Op.1 シューマン

《講評》 第71回岩手芸術祭ピアノ部門ピアノ演奏会（審査制）が10月20日（土）に岩手県民会館中ホールで行われました。

出演者はジュニア部門9名、一般部門7名、最後に第70回ピアノ演奏会に於いて、芸術祭賞及び第70回記念賞を受賞された上田菜緒さんの招待演奏を行いました。審査員には東京よりピアノリストの林苑子先生、佐々木素先生、赤松林太郎先生をお招きしました。

ジュニア部門は、県内の小中高生が出演し、一般部門の審査員の先生よりコメントを頂けるというメリットがあります。

今年のジュニア部門は、土曜日の休日でしたが、学校行事が有り、出演したくても出来なかった生徒さんが多く有り、今後日程を遅らせる案も出されましたが、実現には至っていません。そのような悪条件の中でも出演された生徒さんは、学校のクラブ活動等で時間を取られ、中々ピアノ

を練習する時間が無いと思われそうですが、忙しい時間をなんとかやりくりして練習に励み、日頃の成果を発揮してくれたと思います。一般部門の審査員の先生によるコメントを参考にして益々精進して欲しいと思います。

一般部門は18歳以上で県内在住、もしくは、県内に戸籍のある方を対象に公募しております。今年度は、現役の学生のみならず、現在教職にある方や、家庭でピアノを教えている方など結構バラエティに富んだ方々が出演され、入賞に関係なく内容の濃い演奏を披露されて、とても爽やかな演奏会になりました。

厳正なる審査の結果、芸術祭賞・佐藤陽十（あきと）さん、審査員特別賞・滝沢善子さんに決まりました。

現役を終わられた方々がステージで演奏する事は、非常に勇気のいる事ですが、それ乗り越えて、多くの方々に出演して欲しいと願っております。また今まで出演された



▶ピアノ

方々も再度出演して欲しいと思っております。

この度、第67回岩手芸術祭ピアノ部門ピアノコンクールで、第1位芸術祭賞を授賞した小井土文哉さんが、今年度日本音楽コンクールピアノ部門で、第1位の栄冠に輝きました。また今年度の芸術祭賞を授賞した佐藤陽十さんは、来年1月に行われる「第4回いわてヤングフェスティバル」に出演することになりました。

ピアノ部門は、今迄審査制を取り入れたり、審査なしの演奏会にしたり、と思考錯誤を繰り返して来ましたが、現在は審査制に落ち着いております。年々関心が高まり、現役の音楽関係の学生以外の方々が出演するようになって来た事とても嬉しく思います。

このピアノ部門が益々発展して行く事を心から望んでおります。

（滝沢昭子）

ギター

ギター音楽の夕べ

11月17日（土）午後5時半開演
岩手県民会館中ホール

第1部

独奏

- * アベマリア……………G. カッチーニ 菊池 徹
- * カナリオス……………G. サンス 晴山翔太郎
- * 二人の幼い姉妹……………J. タレガ 阿部和佳奈
- * メランコリーガイヤルド……………J. ダウランド 青山 貴子
- * コンババ1楽章・2楽章……………C. ドオメニコニー
- * ブエノスアイレスの夏……………A. ピアソラ 佐藤 典子
- * 枯葉……………J. コスマ 坂井 俊哉
- * エナジーフロー……………坂本龍一 山口 晃輔
- 鈴木 大

二重奏

- * ロンド……………F. カルリ 樋口 卓子
- 1st 樋口 知志
- 2nd 飛鳥ソニア
- * いつも何度でも……………木村 弓 橋本 博行
- 1st 菅原 美紀
- 2nd 勝又さつき
- * 遠い谷への旅……………佐藤弘和 齊藤 忠孝
- 1st 勝又さつき
- 2nd 齊藤 忠孝
- * 秋の夜半……………F. ウェーバー 三浦 晃可
- 1st 三浦 晃可
- 2nd 三浦 晃可
- あなたがそばにいれば……………高見沢俊彦

第2部 合奏

- * 最後のトレモロ……………A. バリオス 大森 圭一
- * カリオカ幻想曲……………S. アサド 中嶋 亮三
- * 「内なる想い」I 心静かに V あこがれ……………V. アセンシオ 田村 一真
- * オートウイユの夜会……………Z. コスト 望月 麻千

《講評》 第71回岩手芸術祭参加「第42回ギター音楽の夕べ」

は独奏者19名、二重奏計4組、合奏5団体の参加の下、平成30年11月17日県民会館中ホールにて行われた。鑑賞者数は216名、延べ出演者数は93名であった。

第1部は菊池徹の「アベマリア」の独奏で幕を開け、二重奏及び第2部のギター合奏をはさみ、第3部の望月麻千の「吟遊詩人の調べより、かわい変奏曲」の演奏で幕を閉じた。

今年のプログラム構成の中で、第1部坂井俊哉の「ブエ



▶ギター

* My Favorite Things…R. ロジャース

- * ニ長調コンチエルト1楽章・3楽章……………A. ビバルディ ルナ・デイ・フェゴ
- * グリーンズリープス幻想曲……………佐野正隆編 フォーラギターアンサンブル
- * 情熱大陸……………葉加瀬太郎 GEEPS
- * 文明開化の鐘……………高橋宏樹 岩手大学ギターアンサンブル

第3部 独奏

- * 悲しき調べ……………作者不詳 菊池 静男
- * シャコンヌ ホ短調……………G.F. ヘンデル 勝又さつき
- * 古い菩提樹……………S. ルドネフ 小野寺正高
- * 朱色の塔……………J. アルベニス 吉田多加司
- * グラナダ……………J. アルベニス 橋本 博行
- * 聖母の御子……………カタロニア民謡 樋口知志
- * パラグアイ舞曲第1番……………A. バリオス 三浦 晃可
- * コンポステラ組曲からプレリユード……………F. モンポー
- * プレリユードとバレット……………M. ポンセ

ノスアイレスの夏」、山口晃輔の「枯葉」、菅原美紀と勝又さつきの「遠い谷への旅」や齋藤忠孝と三浦晃可の「あなたがそばにいれば」、第2部ジュープスの「情熱大陸」の合奏、そして第3部の中では中嶋亮三の「カリオカ幻想曲」、田村一真の「内なる想い、V あこがれ」、および望月麻千の演奏（先述）が印象に残った。

今回も老若男女の方々の独奏・合奏を楽しむことが出来たが、昨年より大萩康司氏の教えを受けている田村一真君の演奏には感銘を受けた。一種のお祭りともいえるギター音楽の夕べに、日頃から研鑽を積んで出演して下さった各位にこの場をお借りして衷心より謝意を表します。

▽実行委員 佐藤勝政・橋本博行

(文責 佐藤 匡)

管弦楽

管弦楽フェスティバル2018

12月2日(日) 午後2時開演
宮古市民文化会館大ホール

プログラム

第1部 弦楽合奏・指揮者体験
パッヘルベル カノン

モーツァルト アイネクライネナハトムジーク
第2部 弦楽器体験

第3部 公開クリニック・フルオーケストラ演奏

ルロイ・アンダーソン クリスマスフェスティバル

(メドレー)

富田 勲 新日本紀行のテーマ

出演団体

いわてフィルハーモニー・オーケストラ

もりおかジュニアオーケストラ

ジュニアアンサンブルみやこ

アーリエ

セガール

奥州ジュニアオーケストラスクール

シンフォニエッタ盛岡

田園室内合奏団

北上フィルハーモニー管弦楽団

一関市民オーケストラ

指揮と解説 寺崎 巖

《講評》 岩手県管弦楽連盟は、岩手県における管弦楽活動の普及振興を目指し、活動しています。単独では難しい大規模イベントの展開や、一流演奏家との共演、特別講習会

などを提供し、岩手県の音楽芸術振興に寄与することを目的としているほか、若手演奏会の活動の場として演奏会を提供するなどの育成事業も行っております。

本年度の「管弦楽フェスティバル2018」は宮古市民文化会館を会場に、県内のオーケストラ、室内合奏団、ジュニアオーケストラなどに在籍する70名が一堂に会して交流を深めました。

また、前日の12月1日には、いわてフィルハーモニーオーケストラメンバーによる事前指導が行われ、初級、中級、上級のグレードに合わせた選曲、編曲により指導を受けました。良い音を奏でるためには、良い音を聞いて耳を養うことが最良の方法です。講師の生の音を間近に聞くこの機会は、子どもたちを大いに刺激しました。

さらに、普段少人数でアンサンブルをしている個々の団

体が一堂に会することで、大編成のオーケストラの魅力に触れ、具体的な技術指導もさることながら、表現力も養う貴重な経験となりました。

今後、講習会など交流の場を継続的に設けることで、全体的な技術の底上げを図るとともに、管弦楽のジャンルへの理解を深めていただけるよう一般の方に鑑賞の機会を提供していきたいと考えております。

(岩手県管弦楽連盟)

▽実行委員 寺崎 巖・田口博子



◀管弦楽

舞踊

洋舞 現代舞踊公演

平成30年10月28日(日) 午後4時開演
岩手県民会館大ホール

8 limited space

八重樫璃子 脇坂凜子 戸塚陽壁
長田レイ 三浦くるみ

第1部 振付・構成＝藤井淳子

- 1 The Wind 室岡春香 藤澤果央 藤館夏奈
伊山 琳 鈴木由奈 金井麻耶
高橋瑞葉 山下奈々実 樋下明嶺
小原真優 佐藤希美 藤田若葉
- 2 草原の輝き 菅原円花
- 3 願いごと 石井知花
- 4 レクイエム 高橋瑞葉
- 5 柔和・辛辣な波・鈴木由奈
- 6 暗闇に泳ぐ 室岡春香
- 7 空を見上げて 飯島 福 石井知花 遠藤冬萌
菅原円花 山崎ひな 柏葉 怜
小林沙穂 土井 萌 中村花瑠
高橋杏奈 日高千桜 工藤佳子
安達咲来 菊池心月 武内ひより
渡辺陽登 村上小春 藤原実生

第2部 ふしぎの国のアリス 振付・構成・演出＝藤井淳子

- アリス 石井知里
白うさぎ 菅原円花
チェシヤ猫 石井知花
イモムシ 飯島 福
お花 遠藤冬萌 山崎ひな
マッドハッター 渡辺陽登
ティーカップ 安達咲来 菊池心月 武内ひより
村上小春
キノコ 柏葉 怜 小林沙穂 土井 萌
中村花瑠 脇坂凜子 高橋杏奈
戸塚陽壁 長田レイ 三浦くるみ
バラ 藤原実生 八重樫璃子 日高千桜
工藤佳子
リトルフラワーズ 太田 春 大道優花 黒沼心音

第3部

1 凍れる月光(初演2009年)振付・構成＝柴内啓子

- 小林香穂 中村花梨 日高実穂
黒沼 花 川原寿星
お菓子 佐々木優衣 脇坂寧々 川村奈純
トランプ 中等科全員
ハートの女王 室岡春香
ハートの王様 小原真優
双子 鈴木由奈 高橋瑞葉

- ゲスト＝加藤明志 水島晃太郎 藤村港平
伊藤有美 伊藤麻菜実 南帆乃佳
遠藤万由美 中嶋純子 亀井志津香 室岡春香
竹内万紀子 藤澤果央 藤館夏奈 鈴木由奈
金井麻耶 高橋瑞葉 山下奈々実 樋下明嶺
小原真優 菊池芽唯 熊谷そら 高橋明里
高橋野愛 石井知里 田鎖楓子 野田陽香
笹木雪那 佐々木朱里 米澤七海 於本萌花
北向翠花 佐藤希美 野田優芽乃 藤田若葉
松本凜香 三浦なのは 秋元律子 加藤雅子
狩野悦子 久保田雅子 古前田精子 齋藤きよ子
高橋佳奈 野田 綾 福田百合子 藤田敬子
藤井淳子

《講評》 第71回岩手芸術祭洋舞部門「藤井淳子ダンススタ

- ジオ現代舞踊公演」が、平成30年10月28日、盛岡市の県民
会館において開催された。単独公演2回目の開催が県民会
館大ホールという広いステージで行われることから内容を
吟味し、4歳から70歳代までの約90名の出演者が、どのよ
うに表現することで観客の皆様へ想いを伝えられるのかを
考え構成に工夫を凝らした。

- 2 Secret Garden 振付・出演＝高田真琴
- 3 Zigzag 振付＝安達香澄
MEGUMI 安達香澄
- 4 One day-思い返してみれば忘れられない日のこと-
振付・構成＝藤井淳子

第1部の小作品は、全8曲のうち6曲はソロのコンクー

ル作品とした。第1部最後の作品は全国コンクールにおいて最優秀群舞賞をいただくなど、多くの公演に出演させていただき研鑽を重ねた結果、初期の頃の作品とは異なり、各自の成長の跡がみられる作品となった。

第2部のふしぎの国アリスでは、導入部分に映像を使用し、現実から夢の中へと移っていくアリスを表現するとともに、映像を見ている観客が夢の中にあるような感覚を味わってもらうように努めた。

第3部は亡き師である柴内啓子先生の作品「凍れる月光」で幕を開けた。出演者の中には初めてこの作品を踊る者もあり、亡き師の作品への思いをどのように伝えていくかを考えた。また、特別講師2名の作品もそれぞれの個性がひかり公演を盛り上げてくれた。

公演最後の作品は、亡き師を想い作った作品である。本



◀洋舞

来はゲスト6名とスタジオ主宰本人の7名での作品であったが、公演用にアレンジし、シニア、高等、MDCとのコラボ作品とした。プロのダンサーや指導者として、国内外で活躍しているゲストと同じ舞台に立ち、作品をつくりあげていくという経験は、出演者である当スタジオの生徒たちにとって、良い刺激となり、踊り手としての自覚につながったと思う。

▽実行委員〓小柳玲子 久慈幸恵

(藤井淳子)

日舞

日本舞踊公演

11月11日(日) 午前10時開演
岩手県民会館大ホール

1部

長唄	梅の栄	水木 歌優
清元	お祭り	菅原タエ子
大和楽	鐘	高橋若裕子
長唄	藤娘	若柳香利恵
長唄	俄獅子	若柳 香幸
萩江	鐘の岬	若柳 孝綯

長唄	老松	若柳その香
		若柳 藤恵
		若柳 祥恵
		若柳 巴恵
大和楽	団十郎娘	若柳紅寿美
		若柳虹吉郎
義太夫・清元	吉野山	若柳 力衛
		若柳力十代
長唄	若衆槍踊り	若柳 力豊
長唄	傾城	若柳 清寿
常磐津	飴売り	若柳 衣妙
長唄	正札附根元草摺引	若柳ゆり恵
常磐津		若柳 瑞恵
	松の名所	若柳吉初恵
		若柳吉津矢
		若柳 力代
		若柳 朱宏
		若柳 衣江
		若柳 吉聖
2部		
長唄	舌出し三番叟	若柳 香也
		若柳衣緋沙

長唄	菖蒲浴衣	若柳美希乃
常磐津	神楽娘	若柳住由美
		若柳 住琴
長唄	高尾懺悔	若柳朱千代
常磐津	京人形	若柳幸志郎
		若柳 力純
長唄	雪獅子	若柳衣富美
		若柳衣志津
長唄	雛鶴三番叟	若柳千栄裕
		若柳 光洙
清元	鞍馬獅子	若柳衣栄里
		若柳 聖鈴
常磐津	角兵衛	若柳 優
		若柳 吉詠
長唄	鷺娘	若柳 華裕
常磐津	お化け提灯	若柳 弥央
		若柳 江美
長唄	賤の苧環	若柳かつみ
大和楽	江戸風流	若柳 寿慧
		若柳比呂恵
		若柳 吉令

長唄 吉原雀……………若柳 壽延

若柳佑輝子

《講評》 今回の日本舞踊公演は、若柳流の先代宗家及び岩手県にて功勞功績のあつた先人を偲び、第71回若手芸術祭参加「二代若柳寿童没後三十年、若手県中興の祖を偲ぶ会」として、若手県民会館大ホールにて開催されました。

出演者は盛岡をはじめ花巻・北上・水沢・大船渡・久慈・北海道など各地より集まり、総勢52名による1部14番、2部14番、合計28番が上演されました。

公演日は晴天に恵まれ、開場前から多くのお客様が列をなして並び、午前10時の開演から夜9時の終演まで豪華な演目に観客の皆様は十分に楽しまれた様子でした。

まず1部は、若手県邦舞協会理事水木歌優による長唄「梅の栄」で華やかに幕を開けました。その後、芸者姿の「お祭り」、大きな藤の枝を担いだ二人立の「藤娘」、師範による「傾城」、「飴売り」、協会役員の若柳ゆり恵、瑞恵の若々しい若武者と舞鶴の「正札附根元草摺引」など、1部の最後はこの偲ぶ会の実行委員の若柳吉初恵、吉津矢、朱宏、吉聖の6名による常磐津「松の名所」で締めました。

1部終了後は四世家元若柳壽延から岩手の舞踊会をささえてこられた若柳流の先人の方々を偲んでのお話があり、

心和むひと時となりました。

2部は「舌出し三番叟」から始まり、賛助出演の若柳幸志郎の胸をかりての「京人形」、「鞍馬獅子」、「角兵衛」、二代寿童振付「お化け提灯」など変化に富んだ大曲が上演されました。他に偲ぶ会の実行委員の1人である、かつみの「賤の苧環」、同じく実行委員の寿慧、実行委員並びに協会役員の比呂恵、吉令による「江戸風流」などで、最後は家元若柳壽延と長女佑輝子の長唄「吉原雀」で幕を閉じました。先人を偲びつつ次世代の活躍が期待される会でした。

(若柳衣江)

▽実行委員〓花柳美寿晴 水木

楓



◀日舞

演 芸

民謡 若手民謡まつり

平成30年11月4日(日) 11時開演

岩手県民会館大ホール

第1部	1 踊	南部俵積唄	民舞畠山会社中
	2 唄	外山節	唄／鳴海 みよ
	3 唄	長者の山	鈴木 孝夫
	4 唄	津軽タント節	槻館 恭治
	5 唄	真室川音頭	工藤加洋子
	6 踊	展勝地小唄	泉田 禮子
	7 唄	おこさ節	北上やよい会
	8 唄	ひでこ節	鎌田千恵子
	9 唄	道中馬方節	菅原作之助
	10 唄	南部馬方節	大石 義男
	11 唄	江差馬子唄	浅沼 紀
	12 踊	沢内甚句	民舞畠山会社中
		唄／泉田 禮子	
	13 唄	南部木挽唄	米澤 吉次

14 唄	秋田おはら節	細越 晴雄
15 唄	からめ節	武田 幸子
16 唄	宮城長持唄	三上 悟
17 踊	相川音頭	南部千代連
18 唄	秋田米とき唄	田中 令子
19 唄	新相馬節	高橋 秋男
20 唄	日向木挽唄	藤野 君子
21 踊	真室川音頭	北上やよい会
22 唄	大量唄い込み	鳴海 みよ
23 唄	船こぎ流し唄	畠山 勝彦
24 踊	本荘追分	南部よしやれ舞踊団
第71回若手芸術祭民謡民舞大賞決定戦		
民謡部門		
1 唄	南部木挽唄	玉川 光雄
2 唄	南部木挽唄	佐々木深里
3 唄	南部駒引唄	佐藤 信
4 唄	南部牛追唄	佐々木美香
5 唄	南部牛追唄	中田 桂敏
6 唄	秋田酒屋唄	大滝 一秋
7 唄	酒屋流し唄	藤原 善美
8 唄	外山節	佐藤 一子
9 唄	南部牛追唄	吉田由紀江

10	唄	道中馬方節	作山 幸三	9	唄	南部牛追唄	藤原 優人
11	唄	沢内甚句	及川久美子	10	踊	八戸小唄	岩月福田会
12	唄	南部よしやれ節	清水啓子	11	唄	秋田草刈唄	唄／菊池きよ子 佐々木佳菜絵
13	唄	南部馬方節	前堂るり子	1	唄	南部牛追唄	川村 治穂
14	唄	南部酒屋流し唄	井上 正明	2	荷方組曲		岩手睦実会
15	唄	沢内甚句	小田島シゲ子	第2部			
16	唄	沢内甚句	阿部 伊祥	1	踊	長崎のんのこ節	北上やよい会
民舞部門				2	唄	関の五本松	新山ナツ子
1	踊	さんさ時雨	南部よしやれ舞踊団	3	唄	日光和楽踊り	佐藤美智子
2	踊	津軽あいや節	星川 鈴	4	唄	南部山唄	川村 治穂
次世代コーナー&器楽演奏				5	踊	南部荷方節	藤岡 理子
子供たちの唄と踊り				6	唄	津軽山唄	唄／藤岡 祐衣
1	太鼓	大漁唄い込み	竹水会	7	唄	生保内節	中屋敷 晃
2	唄	南部俵積唄	唄／越田 仁蔵	8	唄	苗代こさえ唄	照井 陽子
3	踊	りんご節	村松 涼花	9	踊	南部俵積み唄	田村 孝
4	唄	秋田節	唄／藤岡 祐衣・山本 樹	10	唄	津軽じょんがら節（中節）	成美会
5	唄	南部酒屋もとすり唄	宮野 萌愛	11	唄	津軽よされ節	高橋 竹秀
6	唄	出船音頭	下机 紅愛	12	唄	秋田船方節	小松 正宏
7	唄	古調外山節	上野 蓮花	13	唄	鰯ヶ沢甚句	山本サツ子
8	唄	南部酒屋もとすり唄	芳賀 晴奈				松内とり子

14	踊	津軽甚句	民舞畠山会
15	唄	夏の山唄	唄／松内とり子
16	唄	南部磯節	橋場昭喜治
17	踊	秋田人形甚句	佐藤 信子
18	唄	古調あいや節	唄／漆原栄美子
19	唄	秋田おぼこ節	漆原栄美子
20	唄	南部木挽舞唄	舘澤 基菊
21	唄	喜代節	米澤 廣次
22	踊	南部よしやれ節	中岩持勝子
23	踊	秋田音頭	南部よしやれ舞踊団
24	唄	津軽じょんがら節（新旧節）	唄／山崎 勝代
25	唄	お立ち酒	南部千代連
26	唄	五所川原甚句	千葉 栄人
民謡民舞大賞結果発表 エンディング			
			中里福次郎
			山崎 勝代

《講評》 第71回岩手芸術祭舞台部門公演「岩手民謡まつり」は晩秋11月4日（日）岩手県民会館大ホールを会場に開催された。今年も10時開場、11時開演だったが開場前からたくさんの方々が扉の前に列をつくり開場をまちわび

ていた。本当に嬉しいことである。本公演では平成14年より岩手芸術祭・民謡民舞大賞決定戦と称し毎年優れた演技者に芸術大賞を贈り、過去13名が大賞に選ばれている。

第1部【紅葉織りなす民の唄】：オープニングは実りの秋にふさわしく南部俵積唄の唄と踊りで賑やかに開幕。お馴染み外山節など24演目が披露された。

第1部に続いて【民謡民舞大賞決定戦】：本年は民謡部門と民舞部門で16名2団体がエントリーし若手からベテランまで年齢問わず日ごろの練習の成果を発揮した。大会では岩手県合唱連盟名誉会長の太田代政男氏を審査委員長にお願いし本協会の藤沢清美会長・工藤末三郎常任相談役・近藤英一常任相談役・照井真実都常任相談役の以上4名が審査にあたった。今回の審査でもやはり「音程」「言葉（歌詞）」がはっきりと発音されているかなどをポイントに行われた。厳正な審査の結果、第71回民謡民舞大賞は南部牛追唄を伸び伸びとった中田桂敏が受賞し大きなトロフィーを手に喜びをかみしめていた。

緊張感が漂った大賞決定戦のあとは【次世代コーナー&器楽演奏】と題し小学生、中学生たちが唄や踊り太鼓演奏を披露。中には未就学児童も参加し会場からは惜しみない拍手が送られていた。とくに近年は沿岸地域の子供達の成長は著しく指導者の先生方の尽力には感謝である。

第2部【民謡特撰集】…岩

手を代表するベテラン歌手も登場することもあり毎年人気のコーナーである。日本全国の代表的な民謡や踊り26演目を披露し訪れた観客を魅了していた。

例年、出演者・伴奏・進行・演出・また舞台音響関係者に協力をして頂き、本年もほぼ時間通りに終演することができた。改めて感謝申し上げたい。

今後も観客を飽きさせない魅力あるプログラムを構成していくことが課題である。会員の舞台への意識向上も必要であろう。更に民謡人口と観客を増やしていくためにどうしたら良いか、これもまた考えなければならぬもうひとつの課題だ。

(岩手県民謡協会企画部 佐野よりこ)



◀民謡

新舞踊

新舞踊発表会

平成30年10月21日(日) 10時半開演
花巻市文化会館大ホール

オープニング 春宴の舞	藤扇流会主
1 華になれ	花巻支部 とし美会
2 夢追い川	花巻支部 甲扇会
3 男の流儀	花巻支部 有扇会
4 タント節	花巻支部 洋子社中
5 若松様	花巻支部 新友会
6 男の明日に	花巻支部 泉会
7 道ひとすじ	花巻支部 有扇会
8 湯島の白梅	花巻支部 裕康会
9 おどるポンポコリン	花巻支部 邦扇会
10 男の絶唱	花巻支部 勺洗会
11 黒髪しぐれ	花巻支部 春陽会
12 隠岐祝い音頭	北上支部 やよい会
13 鴉の湖	花巻支部 玉栄会
14 雪深深	気仙支部 満月会
15 人生一路	胆江支部 寿葉会
16 十勝川	花巻支部 とし美会
17 男一代	釜石支部 藤舞会

18 おてもやん	花巻支部 裕康会
19 大器晩成	花巻支部 有扇会
20 哀愁の木曽路	花巻支部 崇扇会
21 木曽恋しぐれ	花巻支部 有扇会
22 月冴えて	北上支部 幸の会
23 鵜の岬	花巻支部 藤洗会
24 二代目無法松	花巻支部 裕康会
25 椿道成寺	花巻支部 有扇会
26 めおと桜	花巻支部 とし美会
27 正調生保内節	花巻支部 洋子社中
28 伊豆の渡り鳥	花巻支部 春陽会
29 北の出世船	気仙支部 満月会
30 常磐津江戸の曙	釜石支部 藤舞会
31 新遠野豊年太鼓	北上支部 やよい会
32 桜貝	花巻支部 有扇会
33 人生夢桜	花巻支部 とし美会
34 豪商一代紀伊国屋文左衛門	花巻支部 邦扇会
35 ふれ逢い橋	花巻支部 勺洗会
36 男流転	花巻支部 藤洗会
37 男の償い	胆江支部 寿葉会
38 心	花巻支部 とし美会
39 人生夢将棋	花巻支部 新友会

40 父子の誓い	花巻支部 泉会
41 佐渡の夕笛	花巻支部 崇扇会
42 斎太郎月夜	気仙支部 満月会
43 北斗の星	北上支部 幸の会
44 海賊の舟唄	花巻支部 玉栄会
45 茶屋節	花巻支部 洋子社中
46 無情の波止場	花巻支部 裕康会
47 人生将棋	北上支部 やよい会
48 構成舞踊天命	釜石支部 藤舞会
49 夫婦山	花巻支部 甲扇会
50 幸藤「華組」	北上支部 幸の会
51 天竜流し	花巻支部 有扇会

《講評》 第71回岩手芸術祭舞台等部门(演芸部門)は岩手県新舞踊協会創立25周年記念事業として「この手から広がる世界 繋がる文化」のテーマの下、【賢治の郷に集う祝宴の舞】のタイトルで、第20回岩手県新舞踊協会舞踊発表会を、平成30年10月21日、花巻市文化会館大ホールで盛大に開催した。

当日の天気予報は低気圧の移動で天候が非常に心配されたが杞憂に終わり、まずまずの好天に恵まれ9時30分の開場時間前から大勢の来場者が並ぶ盛況ぶり、予定通り10

時30分に開演し、オープニングは藤扇流会主6名による「春宴の舞」で幕が開き全51曲が発表された。

今発表会は当協会創立25周年の節目でもありプログラムの中間で記念式典を執り行い、会長式辞のあと前会長、須藤功顧問へ感謝状の贈呈、続いて各会員（会主）及び全賛助会員へそれぞれ記念品が贈られた。

25周年を迎えた今年の発表会は各会が演じる演目への意気込みも一段と違い、それが観ている観客に伝わればこそ終始、大きな声援と拍手を頂きながら終演を迎えることができた。

近年、演歌や歌謡曲が衰退の傾向にあると何時も云われることながら、この発表会を通して感じたことは、日本人にはやはり日本の大衆文化である演歌や歌謡曲が最も愛されていることを実感した。

私どもはこのことを良く認識しながら、今後も生活の潤



◀新舞踊

いの一つとも云える日本の大衆文化である演歌、歌謡曲を大切にし、これに振り付けた舞踊の継承と発展に取り組んでいくことが大変、重要課題である。

（文責・事務局 鈴木孝四郎）

▽実行委員 高橋トシ 鈴木孝四郎

県民文芸作品集

県民文芸作品集は、県民の文芸活動の振興を目的として、県民から広く文芸作品を公募し、その中の優秀作品を掲載し刊行しているものであり、今回は49集となる。

会議等の運営

- 5月11日 文芸部門第1回実行委員会
（公募要項の決定等）
- 7月1日～8月31日 公募期間
- 8月28日 文芸部門事務局員会議
（審査・編集スケジュールについてほか）
- 9月1日～30日 作品選考期間（種目毎に審査会開催）
- 10月5日 県民文芸作品集選考結果発表
（入賞・入選者への通知、ホームページ上での公表、マスコミ報道解禁）
- 2月25日 文芸部門第2回実行委員会
（文芸部門の運営状況の報告、次回の公募要項の決定等）

応募状況

平成30年7月1日から8月31日まで、小説、戯曲・シナ

リオ、文芸評論、随筆、児童文学、詩、短歌、俳句、川柳の9種目の作品を公募した。応募作品は487点であった。

作品審査

種目ごとに審査を行い芸術祭賞、優秀賞、奨励賞作品を決定。そのほか入選、佳作、選者賞等を決定。事務局では結果をとりまとめ、10月5日に入賞・入選者へ通知するとともに、岩手県文化振興事業団のホームページ上で公表した。またマスコミ報道の解禁に合わせて、10月12日には岩手日報紙面に記事が掲載された。



表彰

芸術祭賞、優秀賞、奨励賞受賞者33名に対して、表彰式を12月8日に行った。（会場・サンセール盛岡）

刊行

受賞作品等を掲載した県民文芸作品集を12月8日に刊行した。

随筆			児童文学			詩			種目
賞名	受賞作／作者	受賞賞	受賞賞	受賞賞	受賞賞	芸術祭賞	優秀賞	奨励賞	奨励賞
簡易テント／太平春子	五十年目の手紙／菅マサ子	記憶のアツツ島／佐々木道長	燕／工藤幸子	大助の心の小さな芽／川村節子	キャプテンレース／今和立	まさば たまご 鳥／桑原響子	いつかきつと／千葉恵保子	魚信／上斗米隆夫	浮子／久慈こうこ
須藤 宏明	野中 康行					高橋 成昭	藤原 英明	齋藤 成子	伊藤 諒子
									北原 陽子
									花石 邦夫

【受賞作品・作者及び選者】

種目		小説				戯曲・シナリオ				文芸評論			
賞名		芸術祭賞				奨励賞				奨励賞			
受賞作／作者		接見室にて／東根ただし				きみに贈る冠／藍沢篠				彼岸花の咲くころ／稗貫イサ			
選者		立川ゆかり 小原 守夫				おかえり・無人の町 へ／GAKUJIN				秋の公園／中森都志子 愛のメニューをはんぶんこ ーファミレスラブストーリー ー／丹波ともこ			
						遅れてきた初恋『握の砂』『忘れがたき人々二』を巡って／佐藤静子				人は物語を作る・藤村の青春の源流を探して／内藤賢一			
						逃れられない「正しさ」の中で／高橋和巳『墮落』を読む／春日川諭子							

短			俳			川			種目
歌			句			柳			
賞名			受賞作／作者			受賞作／作者			
芸術祭賞	白神岳／松井良治	眠りゐる母／遠藤カオル	優秀賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	芸術祭賞	雑詠／小田島花浪
優秀賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	優秀賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫	奨励賞	九戸城址／下館幸男	女郎蜘蛛／下田榮一	奨励賞	夏休／小林初夏	奨励賞	雑詠／赤頓姥
奨励賞	祭馬／本郷明子	蜘蛛の巣／芳賀越夫							

文芸祭

小説大会

10月28日(日)

岩手県民会館会議室・参加者11名

▽講師Ⅱ立川ゆかり（作家・県民文芸作品集選者）

小原守夫（元岩手日報社学芸部長・

県民文芸作品集選者）

《講評》 今年度の小説大会は、岩手県民会館第1会議室を会場に、県民文芸作品集の応募者や一般の方々の参加を得て開催された。

今年度より県民文芸作品集の選者が一新したが、小説大会は県民文芸作品集の選者に講師をお願いしていることから、新しい講師を迎えての開催となった。

大会の内容は応募作品の講評を主な内容としていることから、応募作品の相対的な傾向についての話のあと、参加者各々の作品についてコメントをいただいた。

総評として立川氏からは、話がおもしろくても、常識的に違和感があったり、文章が上手だと思っても読み終えた後、心に残らなかったり、全体的にバランスの良い作品がなく、芸術祭賞を見送った。次回の第50集に向けて頑張っ

てほしい。

次に創作にあたっての注意点について小原氏から話があった。創作のためには書く素材の引き出しを多く持つことが大切、また目に留めてもらうために題名を吟味してほしい旨、小原氏の新聞記者時代の自身の経験を話された。一見文学と関連がないようなものでも、興味をもって取り組む中でヒントが見つかることがある。経験は創作の幅を広げる助けになる。そして創作作品に取り組む場合は、時系列をはっきりさせるため、まずプロットを組み、そして大まかに起承転結を考えることが基本になる。書き始める時には必ず辞書を手元に置く事が大事であるとの具体的なアドバイスもいただいた。

自分の書いたものを批評してもらう場を設けることも良い文章を書くためには有意義であるので、次回に向けて今から取り組んでほしい。



◀小説大会

個々の講評は、作者とのディスカッションを交えながら進められたが、他の参加者と共有する時間になったか、と考えるとまだ工夫の余地がある。

講師のお二人とも選考経験が豊富であり、初回からの得た指摘で参加者にとっては有意義な会になったであろう。

（実行委員会事務局 久保田幸恵）

戯曲大会

1月14日（月・祝）

盛岡劇場タウンホール・参加者12名

▽運営委員Ⅱ昆 明男 倉持裕幸 高村明彦

《講評》 今回の戯曲大会は、俳優のための戯曲の読み方講座「遠藤チヨイスの戯曲を読もう!」と題して開催した。講師は第7回、劇団モリオカ市民「MORIOKA CHRONICLE 岩手公園ものがたり」第三部脚本担当にして総合演出を務める遠藤雄史氏にお願いした。

俳優のためとタイトルは付いているが、俳優だけではなく、演劇に関わる様々な立場の人々を対象としている。

戯曲を俳優として演じる場合、単に戯曲を立体化するというだけではなく、俳優独自の視点で戯曲を読み込み、俳

優自身の観点で役柄を解釈し、それを演じる際に反映させる心構えと技術が要求される。

それを、遠藤氏自身の短編戯曲「絶望への道は善意で敷き詰められているそうだ」および「ホームラン」を素材として解説した。戯曲の土台となる、場所の設定が、どのように行われているか、どのような人物が登場するのか等は、戯曲のト書きやセリフなどから読み取れる。その読み取った事柄を逸脱しない範囲での演じ方の解釈が求められる。といった、基本的な戯曲の読み方などを解説するところから始まった。

そして、実際に「ホームラン」が演じられた映像を鑑賞し、どのように伝わっているのかなどを解説した。

休憩をはさみ、岸田戯曲賞作家、永井愛氏の「ら抜き殺意」の一部を題材に取り上げ、それをどのように解釈し演じるのかについて、前半の講義をベースに、参加者同士



▶戯曲大会

での話し合いが行われた。続いて実践として戯曲を読み、演じるという手順を踏み、戯曲の解釈の幅広い定義について体感することになった。

今回は地元の講師を招き、戯曲と演技を考える機会となった。これからの演劇と戯曲に関わる様々な要素を取り上げて開催していきたいと考えている。

(倉持裕幸)

文芸評論大会

10月8日(月・祝)

岩手大学農学部1号会議室・参加者11名

▽運営委員 望月善次 牛崎敏哉

【講評】 岩手芸術祭文芸祭「文芸評論の部」は、岩手大学農学部第一会議室を会場に、10月8日(月・祝)午後1時から開催された。参加者は30代から70代まで、昨年より若干増えて11名であった。

はじめに「県民文芸集」文芸評論選者であり、本文芸祭実行委員である望月善次より開会挨拶と、「日本の文化状況寸評」大逆事件から「雨ニモマケズ」の「玄米三合問題、マッカーサー戦略へ」と題してミニ講演があった。

続いて芸術祭賞の佐藤静子氏が「遅れてきた初恋」「握の砂」―「忘れがたき人人 二」を巡って」と題して、橘智恵子をモデルとした作品群を紹介、ほぼ同時期に刊行された若山牧水、前田夕暮、吉井勇、北原白秋、平野萬里ら、短歌史の残る歌集と対比し、啄木短歌は「遅れてきた初恋」であると発表された。

最後は招待講演として、岩手大学人文社会科学部准教授である小島聡子氏よりお話しいただいた。演題は「宮沢賢治の言葉「標準語」と「地域語」の狭間で」で、賢治作品の「標準語」とされてきた表現から、「ぜんたい」と「いたい」にしろ、その「地域語」との関連を具体的に指摘して話された。

各々の発表後のわずかな時間で、活発な質疑応答がなされた。

全体は予定通り午後4時前に終了、そのまま同じ会場にて懇親会が開かれた。

(牛崎敏哉)

随筆大会

10月20日(土)

岩手県民会館会議室・参加者16名

続いて同じく

選者・牛崎敏哉「芥川賞・直木賞の中の宮沢賢治」のミニ講演があり、今年第158回芥川賞を受賞された若竹千佐子

さんが、かつて第35回県芸術祭「文芸評論」に入賞されていたことなどの紹介があった。

次は「県民文芸集」文芸評論部門入賞者による研究発表で、まず奨励賞の発表は、春日川諭子氏が「逃れられない「正しさ」の中で―高橋和巳『墮落』を読む」と題して、第1回文藝賞受賞「非の器」からの作品を通観し、『墮落』を中心に今日的意味を代」の上京について」と題して、賢治の年譜上の疑義について発表された。

優秀賞の発表は、内藤賢一氏による「人は物語を作る―藤村の青春の源流を探して―」と題して、石川啄木との関係から島崎藤村を紹介し、藤村文学の源流となった青春期の記憶や体験について考察された。

▽講師 須藤宏明 (県民文芸作品集選者)

野中康行 (県民文芸作品集選者)

【講評】 随筆大会は県民文芸作品集の選者を講師に迎え、作品の講評と意見交換を主な内容として開催している。今年には46編の応募があり、講評を聞くため、盛岡市、花巻市、宮古市などから参加者が集った。

応募者全体の傾向としては、新しい方が増えた印象があるが、原稿用紙の書き方に慣れていない作品が見られたので、書き慣れていくことは大事だろう。また、今回は応募作品の中で意見を言う論説的内容のものが見られたが、随筆とは少し違う。随筆は自分の情感を表現するものとして捉えていただきたい。

また、前歴などは考慮していないが、応募年数の長い方は筆力も培われて、選考の中で上位に入ってくる



◀ 文芸評論大会



▶ 随筆大会

という。これは喜ばしいことである。

総評を行ったのち、個々の作品について選評を行った。予め参加者には応募作品のコピーを渡し、読んできていることを前提に、選評を聞く事ができるので、自分の作品でなくても、参考になることがある。

選評の中で心に残ったフレーズをいくつか挙げてみた。「目の前の描写と同じ様に、心の動きを描写する」、「固有名詞の使い方は読者目線」、「構成変更によって蘇る文章」、「随筆の主人公は『私』である」、「登場人物が多い時は主語を明確に」、「話の焦点を絞って成功」、「書かないで読ませる余韻」、どれもすぐ実践できそう。

随筆は新聞への投稿などチャレンジの機会が多いし、読む機会も多い。良い作品を読むことで書く力も養われる。入賞した作品の共通点は、描写力が優れていたことであつた。何度も読み返すことで自分の筆力に還元していただきたい。

(実行委員会事務局 久保田幸恵)

児童文学大会

10月28日(日)

岩手県民会館会議室・選評と合評20名／
講演とリレートーク34名

▽運営委員 千葉留里子

加藤典夫

《講評》 児童文学大会は県民文芸作品集の応募者、運営を行う岩手児童文学の会員、他に一般参加者で行われた。

○県民文芸作品集・応募作品の選評

選者の高橋昭が「児童文学は対象となる子どもが感動するような内容が欠かせない」と創作上の注意を、その後、入賞した作品を中心に選評を述べた。

○合評

希望があつた作品三編の合評を行った。

『大助の心の小さな眼』川村節子／『おぼけ南瓜』福島敬次郎／『キャプテンレース』今和立

○講演 演題「岩手が育む児童文学」

講師 千葉留里子 岩手児童文学の会会長
プレゼンテーションを用いて、創作を始めたきっかけ、

文学賞について、岩手の児童文学作家について話した。

今回、小川未明文学賞を受賞できたことは、遠野近郊のお寺に奉納されている「供養絵」をテーマにしたことが、オリジナリティとして認められたのではないかと述べた。

また、宮沢賢治をはじめとする岩手の児童文学作家は、豊かな自然と風土に育まれ、作品を生み出してきたことを紹介した。

○リレートーク 話題提供者 田沢五月、杉村 修、加藤美南子

多方面で活躍している三人の地元作家が話題提供を行った。著者を中心に話しながら、作品の舞台となった岩手の町や作品に込められた思いを語った。

(加藤典夫)

詩の大会

10月20日(土)

花巻市定住交流センター会議室1
参加者22名

▽選 者 伊藤諒子 北原陽子 花石邦夫
▽運営委員 北原陽子 兒玉智江 松崎みき子

《講評》 10月20日に花巻なはんプラザを会場に、「心に言葉を！」をテーマとして詩の大会が27名の参加で開催された。

第1部で今回の受賞者の作品について合評と講評が行われ、表彰式へと続いた。参加者の活発な発言で、充実した大会となった。

第2部では、岩手県詩人クラブ副会長上斗米隆夫氏により「教材としての詩」と題した講演があり、教育の現場でどのような詩が小中高の国語教科書に掲載されているのか、作品名の紹介があった。教員時代の経験から、子どもたちに詩を理解させることや詩を書かせる指導がとて難しいことが語られた。特に、子どもたちに詩の感動を伝える「授業」の大変さが伝わってくる貴重な講演であつた。

さらに、毎年岩手県詩人クラブが刊行している年刊アンソロジー詩集「いわて



▶詩の大会



◀児童文学大会

の詩 2018年版」に収録されている自作品の朗読を、参加者全員で行った。その後、参加者を4グループに分けて、それぞれの作品について合評会を行い、意見を交わし合い充実した詩の一日となった。

文芸祭賞 兒玉智江「カナヘビ」

現代人の忙しい日々で見逃されているテーマであり、カナヘビとの対話の中に、作者の生きてきた「歲月」が見えてくる。作者の率直で優しい詩心とカナヘビの声が聞こえてくるような表現が素晴らしい、心楽しい作品である。

優秀賞 伊藤恵理美「涼しくなった夜に」

季節が移り変わっていくときを巧みにとらえた作品である。すっきりとした短詩で、作者ならではの感性が光った。

奨励賞 金野清人「白鳥」

「ツンドラの下に眠っている父」を想い、戦争の悲惨さを伝える深い作品である。シベリアに飛んでいく白鳥に託す平和への祈りが、読む者の胸に迫ってくる。

岩手県詩人クラブ新人賞は高橋ゆずはさんの「断捨離」に贈られた。

(北原陽子)

短歌大会

10月13日(土)

盛岡市勤労福祉会館(盛岡市)

気づきが、多くの人の心に波を起こしたのである。文芸祭賞として納得のゆく作品である。

優秀賞

雪の夜に逝きたる父の亡骸に手を触れざりき十歳のわれ

山本 豊(盛岡市)

十歳で父の亡骸を見ることになった作者の心情が窺える作品である。少年の気持ちと思えば、「手を触れざりき」に納得させられもする。結句がしっかりと歌を支えて安定しており、他の言葉の入り込む余地のない、抒情豊かな作品である。

奨励賞

ものさしに微かに読める妻の名は旧姓にして孫らは知らず

羽藤 堯(奥州市)

妻の遺品として残っているものさしには、妻の旧姓が書かれている。それは誰の名前なのか孫たちは知らない。妻を想い続ける作者だからこそ、この歌の素材に気がついたのだらう。美しく一首に仕上げてある。短歌が抒情詩であることを、あらためて教えてくれた作品である。

選者賞

伊藤幸子選

雨粒の残る葉の上にとどまりて時の止まりし蟬のぬけがら

斉藤玲子(滝沢市)

出詠者118名・参加者85名

▽選者 伊藤幸子 折居路子 清水亞彦 八重嶋勲

吉田史子

▽運営委員 赤澤篤司 外館克裕 山本 豊

《講評》

文芸祭賞 佐藤怡當(北上市)

優秀賞 山本 豊(盛岡市)

奨励賞 羽藤 堯(奥州市)

選者賞 伊藤幸子選 斉藤玲子(滝沢市)

折居路子選 野坂次郎(盛岡市)

清水亞彦選 中田タカ子(久慈市)

八重嶋勲選 田澤和子(盛岡市)

吉田史子選 青木綱子(奥州市)

文芸祭賞

わが影の常より若く見ゆる朝力をこめて一輪車押す

佐藤怡當(北上市)

作者は一輪車を押している。その影に常より若い自分を見たのである。いつも独自の短歌世界を作る作家であるが、今回の作品は大きな発見の歌と言って良いだろう。小さな

折居路子選

添ふ事の叶はぬ君と同じく生くるを今は尊く思ふ

野坂次郎(盛岡市)

清水亞彦選

忘れぬ歌の頭ちきて歩み止む東一華の花のかたへに

中田タカ子(久慈市)

八重嶋勲選

友の顔によぎる戸惑ひわれは同じ話を聞かせらるらし

田澤和子(盛岡市)

吉田史子選

幸ひと言ふべき九十年ならん手縫ひの袋形見とぞする

青木綱子(奥州市)

出詠者は118名で昨年より18名の増加である。岩手の短歌界の現状が高齢化が進んでいることを考えれば、今年の人数の増加は予想外であった。芸術祭短歌大会は岩手県歌人クラブの非会員も26名ほど出詠して



▶短歌大会

いる。短歌人口の底辺の広さをあらためて思った。来年も期待したい。

〔赤澤篤司〕

俳句大会

10月20日(土)

盛岡市勤労福祉会館(盛岡市)・出席者89名

▽選

者Ⅱ小畑柚流 小菅白藤 川原道程 小林輝子

吉田一路 名久井清流 服部常子

▽運営委員Ⅱ

山火律子 佐々木昌子 長谷川かよ子

兼平玲子 工藤幸子 及川永心

《講評》

これまで文芸祭俳句大会は県公会堂で行われてきたが、会場を盛岡市勤労福祉会館に移した。近年高齢化が進み、エレベータが無くて大変だという人が増えてきたためである。結果は大変好評であった。参加者は76名と選者7名。昨年より6名ほど減少した。若い人の参加が少ないのが残念である。

三句投句で総数は228句。7名の選者により慎重審議の上三賞を決定した。その句を除き、各選者が選者賞を1句ずつ選んだ。

〔文芸祭賞〕

秋天の端に置かれし南部富士 盛岡市 上野方水

岩手山を空の端に置くこ

とにより、秋天の広がりが見える点が評価された。岩

手の秋らしい大きな景を堂々と詠んでいる。

〔優秀賞〕

鶏頭が夜警のやうに立って

ある 盛岡市 津志田武

鶏頭を独特の捉え方をし

ている。「夜警のやうに」という比喩が利いている。

〔奨励賞〕

木の実落つ叱ってつくれる母がいる 盛岡市 小林初夏

取り合わせの距離感がよい。いつまでたっても母は母。

親子の情愛が伝わってくる。

〔白濱一羊賞〕

稲架の列影の長さを競ひ合ふ

〔小畑柚流賞〕

一山を越えて轟く威し銃 鉄本正人

〔小菅白藤賞〕

古傷のふたつが痛む十三夜 野坂次郎

〔小菅白藤賞〕

古傷のふたつが痛む十三夜 古川公子

〔川原道程賞〕

掌で土を均して畑仕舞ふ 円子涼子

〔名久井清流賞〕

先生はいまもマドンナ秋桜 大平春子

〔加藤真治子賞〕

豆打つや嫁姑の弾む音 工藤幸子

〔大澤保子賞〕

水のやうに芒のやうに八十路かな

谷藤隆一

〔山火律子〕

川柳大会

10月21日(日)

いわて県民情報交流センター・アイーナ

803号(盛岡市)

参加者110名

▽選者Ⅱ

塩釜アツシ 中島久光 宇部 功 佐藤 康

吉田成一 柳清水広作 佐藤岳俊

▽運営Ⅱ

岩手県川柳連盟

《講評》

川柳って、いったいなんなのだろう。自分自身のつぶやきか？それならスマホひとつで十分だ。わざわざ時間やお金をかけて集まり、顔を合わせて批評し合う意味。血の通う人間同士、そこにあるのは間違いなく、人の温もりである。

さて例年通り、各選者が推す特選七句を県川柳連盟役員が第二次選考にあたり、三賞を決定した。

文芸祭賞 洋野町 野口一滴

つむぎ縞着ても写楽に敵わない

「縞」の題で写楽が現れる。作者の発想力には頭が下がる思いだ。何を着ても所詮私は私、あなたには到底敵わない。ここに最大の敬意が払われている。二百年後のこの時代を、あなたはどうか描いてくれただろうか。江戸の浮世絵師、東洲斎写楽。

優秀賞

盛岡市 徳田ひろ子

母方の眉で荒れ野を超えんとす

父でなくやはり、母なのだろう。女性の眉はその描き方によって印象が変わる。強さも優しさも寂しさも厳しさもすべて。母の眉それは、私の決意でもある。奨励賞

一関市 田中苑子
沈黙を守れば青い沼になる



▶川柳大会



▶俳句大会

言いたいことを言い合えば、それは争いとなる。生きる
とは思いやりであり、人生とは我慢である。その静けさは、
世界平和に繋がるであろうか。青い沼をイメージしにくい
世の中である。

その他の特選句

なんだなんだと合掌土偶立ち上がる 青森市・守田啓子
除染地を青空に塗る手の未来 宮古市・木村 徹
一強多弱右向け右になる怖さ 洋野町・野口一滴
尊厳と言える生き方して来たか 山形市・伊東マコ

(伊藤豊志)

アートフェスタいわて2018―岩手芸術祭受賞作品・

推薦作家展＋岩手県美術選奨受賞者作品展―

岩手県立美術館と岩手芸術祭実行委員会共催事業岩手県
立美術館企画展「アートフェスタ2018―岩手芸術祭受
賞作品 推薦作家展＋岩手県美術選奨受賞者作品展―」は、
平成31年3月1日（金）～3月24日（日）まで、岩手県立
美術館で開催された。

この展覧会は岩手芸術祭に集う美術家たちの作品を広く
県民に紹介する場として、平成15年度から開催しており、
今回16年目を迎えた。

今年度は、岩手芸術祭美術展の受賞（芸術祭賞、優秀賞、
奨励賞）作品に加え、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、
書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画の10部門それぞ
れから推薦された美術家たちの作品100点を、岩手県芸
術選奨受賞作家の作品と合わせて展示した。

会期中には部門別のギャラリートーク（作品解説会）が
行われ、観覧者が作品への理解を深めた。

鑑賞者数は3251人であった。

▽出品点数

日本画 7点

洋画	17点
版画	7点
彫刻	7点
工芸	9点
書道	17点
写真	12点
デザイン	7点
現代美術	6点
水墨画	11点
合計	100点

▽部門別ギャラリートーク

3月2日(土)	水墨画・書道
3月3日(日)	写真・現代美術・デザイン
3月9日(土)	日本画・工芸・彫刻
3月16日(土)	版画・洋画

▽企画・運営委員

片山道子（日本画）・石川西三（洋画）・鈴木和雄（版画）・
清武英司（彫刻）・阿部裕之（工芸）・吉田晨風（書道）・
菊池克美（写真）・竹村育貴（デザイン）・小笠原卓雄（現
代美術）・鈴木孝男（水墨画）・加藤俊明（美術館）

テーマ募集

第71回岩手芸術祭を開催するに当たり、芸術文化の創造と発展をイメージさせるテーマを懸賞募集した。

- 1 応募期間
平成30年4月～5月31日
- 2 応募総数
331点（119人）
- 3 選定方法
6月22日（金）選定委員会を開催し、選定を行った。
〔委員〕 藤沢 清美（実行委員会副会長・民謡）
鈴木 孝男（美術部門実行委員長・水墨画）
室岡 提子（舞台等部门・邦楽）
小原 宏華（舞台等部门・華道）
立野 呈山（舞台等部门・三曲）
倉持 裕幸（文芸部門・戯曲シナリオ）
- 4 選定結果

◎優秀作【岩手芸術祭テーマ】

「この手から 広がる世界 繋がる文化」
本堂 歩さん（九戸村）

○佳作

「熱き風かがやく心 文化の風に舞え」
佐藤 節子さん（盛岡市）
「岩手だから 生まれる 芸術が有る」
DJ RIPさん（盛岡市）
「強靱な向かい風は背中で受け止め
追い風にしよう！」
井上 達朗さん（矢巾町）
「世界と芸術 広めよう」
イーハトーブのこの地から」
高橋 一帆さん（矢巾町）

※ 優秀作作者は10月6日（土）の開幕式典において表彰した。

実行委員会名簿

【実行委員会】

会長＝柴田 和子
副会長＝藤沢 清美
監事＝北村 義美
小野寺文雄
倉持 裕幸

区分	委員長	所属
主催者	中里 裕美	岩手県文化スポーツ部 文化振興課総括課長
美術	菅野 洋樹	岩手県文化振興事業団理事長
演劇	柴田 和子	岩手県芸術文化協会会長
伝統芸能	鈴木 孝男	岩手県芸術文化協会副会長
音楽	片山 道子	日本画部門
	北村 義美	水墨画
	坂田 裕一	演劇
	猿子 滋苑	華道
	立身 岳元	吟剣詩舞道
	山田 靖了	合唱
	滝沢 昭子	ピアノ
	橋本 博行	ギター
	寺崎 巖	管弦楽

【美術部門実行委員会】

部門	委員長	部門	委員長
日本画	西川 善有	書道	吉田 晨風
洋画	片山 道子	写真	佐々木 飛鴻
版画	石川 西三		藤村 政憲
	岩淵 毅弘		菊池 克美
	日山 登啓		竹村 育貴
	鈴木 和雄		吉田 康則
彫刻	鈴木 和雄	デザイン	竹村 育貴
	清武 英司		吉田 康則
	曾根 達也	現代美術	小笠原 卓雄
	阿部 裕之		浅倉 卓雄
工芸	竹田 康夫	水墨画	鈴木 孝男
			北村 義美

第71回岩手芸術祭実行委員会 収支予算書（最終予算）

1 収入の部

（単位：千円）

科 目	予算額	主 な 内 容
負担金	11,230	主催団体、巡回美術展開催市町
入場料	993	美術展入場料
諸収入	320	広告料、預金利子
繰越金	1,780	第70回会計より
計	14,323	

2 支出の部

（単位：千円）

科 目	予算額	主 な 内 容
実行委員会	1,713	功労者表彰、新聞広告、印刷物製作
美術展	2,733	印刷物製作、会場使用料、部門負担金
巡回美術展	2,210	写真パネル製作、作品輸送、印刷物製作
小・中学校美術展	353	小中学校美術展協会負担金
巡回小・中学校美術展	31	〃
演劇	614	部門負担金
伝統芸能	738	〃
音楽	934	〃
舞踊	720	〃
演芸	362	〃
移動公演	469	〃
県民文芸作品集	1,076	選者謝金、賞金、作品集買上
文芸祭	381	部門負担金
予備費	1,989	
合計	14,323	

音 楽					伝統芸能										演 劇		部門	
弦 楽		声 楽		合 唱		詩吟 舞道		華 道		茶 道		邦 楽		能 楽				
増田真紀子	菊池昭子	丸岡千奈美	山口剛	及川尚樹	山田靖了	金沢光岳	立身宏華	小原滋苑	平野宗蕙	鈴木宗基	室岡提子	福士幸雄	佐野剛章	菊池昭二	鬼沢陽子	坂田裕一	委員長名	
演 芸					舞 踊		音 楽											部門
新舞踊		民謡		日 舞		洋 舞		管弦楽		ギター		ピアノ		吹奏楽		三 曲		
鈴木孝四郎	高橋トシ	三上紀子	藤沢清美	水木楓	花柳美寿晴	久慈幸恵	小柳玲子	田口博子	寺崎巖	佐藤勝政	橋本博行	成瀬ゆかり	滝沢昭弘	小山智弘	安倍一洋	立野呈山	伊藤衡山	委員長名

【舞台等部門実行委員会】

詩				児童文学		随 筆	文 芸 評 論	シナリオ	戯 曲 ・	部 門	委 員 名
北原陽子	兒玉智江	松崎みき子	加藤典夫	荒田正信	千葉留里子	野中康行	牛崎敏哉	望月善次	倉持裕幸		
				川 柳		俳 句		短 歌		部 門	委 員 名
				伊藤豊志	熊谷岳朗	徳田ひろ子	佐々木昌子	長谷川かよ子	山火律子		

【文芸部門実行委員会】

◇実行委員会事務局

事務局長 誠一（県文化振興事業団事務局長）
事務局次長 佐々木仁志（県芸術文化協会事務局長）
事務局員 平井孝典（県文化振興事業団総務部総務課長）
一穂（県文化スポーツ部文化振興課）
佐々木訓・千葉達也・久保田幸恵・
鈴木宣子（県文化振興事業団総務部）
岩崎桂子（県芸術文化協会）

事務局日誌抄

〈4月〉

1日 テーマ作品募集開始（応募締切5月31日）

〈5月〉

10日 美術部門第1回実行委員会

舞台等部門第1回実行委員会

11日 文芸部門第1回実行委員会

25日 第1回実行委員会

【議題】 第70回収支決算、テーマ募集、第71回開

催要綱、実行委員会会則等、実施計画、

収支予算、役員の選出について ほか

31日 美術部門事務局員会議

〈6月〉

22日 テーマ選定委員会（テーマ決定）

〈7月〉

1日 作品等の公募要項配布（美術展、県民文芸作品集、

声楽演奏会、ピアノ演奏会、小・中学校美術展）

〈8月〉

1日 アートフェスタいわて2018第1回企画・運営

委員会

27日 美術部門第2回実行委員会

28日 舞台等部門事務局員会議

文芸部門事務局員会議

〈9月〉

8日 美術展作品受付

9日 美術展作品審査（三賞決定）

10日 第2回実行委員会

【議題】 開幕式典の実施、感謝状贈呈候補者につ

いて

〈10月〉

6日 開幕式典（功労者表彰）・総合フェスティバル

11日 美術展開催（4期に分けて展示。～11月4日）

〈11月〉

13日 巡回美術展開催（7市町。～1月20日）

23日 美術部門表彰式・祝賀会

30日 小・中学校美術展開催（～12月2日）

〈12月〉

8日 県民文芸作品集第49集刊行

文芸部門（県民文芸作品集）表彰式・祝賀会

〈1月〉

9日 巡回小・中学校美術展開催（4市村。～2月25日）

〈2月〉

22日 舞台等部門第2回実行委員会

25日 文芸部門第2回実行委員会

26日 美術部門第3回実行委員会

27日 第3回実行委員会

【議題】 第71回岩手芸術祭の実施結果について、

収支予算の補正について

〈3月〉

1日 アートフェスタいわて2018開幕（～3月24日）

〈4月〉

22日 会計監査

30日 記録集刊行



▲美術展ポスターデザイン

佐々木 海太郎



▲総合ポスターデザイン

小屋畑 勝夫



▲公募ポスターデザイン

小屋畑 勝夫

〈編集後記〉

◆芸術の秋を彩る祭典として県内最大のイベントである「岩手芸術祭」ですが、その準備は4月のテーマ募集から始まります。実行委員会事務局では、その年の芸術祭実施に向けて心をひとつにするアイテムのひとつとして、どんなテーマが選ばれるのか毎年楽しみにしています。

今年度のテーマは「この手から 広がる世界 繋がる文化」でした。個々の創造性の先にある未来、を想いながら芸術祭の運営に携わる1年となりました。

◆岩手芸術祭の開幕を告げる「総合フェスティバル」は、10月6日、岩手県民会館大ホールにて開催されました。また、昨年度に引き続き「第2回芸術体験イベント」も同時開催され、多くの県民に芸術を鑑賞、体験していただくことができました。

特に、次代を担う子供たちが様々な芸術体験をすることは、個人の可能性を広げるばかりでなく、岩手の明るい未来につながるものと期待するばかりです。

◆更に、翌1月20日には、「総合フェスティバル」宮古・下閉伊」を宮古市民文化会館にて開催しました。

こちらは地域の文化催事と連携した内容で、県立宮古水産高等学校太鼓部をはじめ、沿岸地区の多くの芸術団体に出演いただき、充実したイベントとなりました。

◆各方面の方々に支えられながら、今年もこの芸術祭を滞りなく開催できましたことを、事務局としてたいへん嬉しく思います。

◆本記録集は、デジタルブックとして、インターネットを通してどなたでも閲覧いただけるようになっております。

◆内容は今まで通り、第71回岩手芸術祭の実施報告書として作成し、今後の資料としても御活用いただけるよう、各種目のプログラム、公募要項、入賞者名簿、講評・選評等をまとめています。関係機関、関係団体など多くの方々にご覧いただき、今後の県民の芸術文化活動に係る参考資料として御活用ください。

◆第71回岩手芸術祭も記録集の完成をもって一切の事業が終了します。関係各位の御協力に、改めて感謝申し上げます。

「第71回岩手芸術祭」

発行 日 平成31年4月30日

編集・発行 第71回岩手芸術祭実行委員会
(〒020-0023)

盛岡市内丸13-1

第71回岩手芸術祭実行委員会

(岩手県文化振興事業団総務部内)
電話 019(654)2235

印刷・製本 株式会社吉田印刷

盛岡市名須川町23番27号
電話 019(625)2323

第71回岩手芸術祭開催状況

事業名		期 日	会 場	入場料金	入場者数
開幕式・総合フェスティバル		10月6日(土)	岩手県民会館／大ホール	無料	2,000人
総合フェスティバルin宮古・下閉伊		H31年1月20日(日)	宮古市民文化会館	無料	1,000人
美術展	1期 工芸／書道	10月11日(木)～10月14日(日)	岩手県民会館／展示室	300円 高校生以下無料	3,973人
	2期 日本画／版画／水墨画	10月18日(木)～10月21日(日)			
	3期 写真／デザイン／現代美術	10月25日(木)～10月28日(日)			
	4期 洋画／彫刻	11月1日(木)～11月4日(日)			
巡回美術展	美術展入賞作品(77点)	11月13日(火)～11月15日(木)	一戸町コミュニティセンター	無料	1,277人
		11月21日(水)～11月25日(日)	奥州市文化会館		
		11月27日(火)～11月29日(木)	山田町中央公民館		
		12月1日(土)～12月2日(日)	久慈市文化会館		
		12月4日(火)～12月6日(木)	釜石市民ホール		
		12月8日(土)～12月9日(日)	岩泉町民会館		
		H31年1月18日(金)～20日(日)	宮古市民文化会館		
校小美術展 美・中 学展学	小・中学校 書写、絵画	11月30日(金)～12月2日(日)	岩手県民会館／展示室	無料	2,562人
学校巡回 美術展小・中	小・中学校美術展 入賞作品(350点)	H31年 1月9日(水)～2月25日(月)	宮古市民文化会館など 4会場	無料	503人
演劇	「劇団しばいぬ」公演	H31年 2月9日(土)～2月10日(日)	盛岡劇場／タウンホール	1,200円 (1,000円)ほか	146人
	映像フェスティバル	11月11日(日)	もりおか町家物語館／浜藤ホール	1,200円 (1,000円)ほか	52人
	「劇団もしよこむ」公演	H31年2月24日(日)	釜石市民ホール／ホールB	500円(高校生以下無料)	140人
	「劇団我夢」公演	11月25日(日)	奥州市文化会館／中ホール	無料	325人
	「The雲人」公演	12月23日(日)	二戸市民文化会館／大ホール	500円(中学生以下無料)	200人
	二戸市民文士劇	10月20日(土)～21日(日)	二戸市民文化会館	1,900円 (1,500円)ほか	1,192人
伝統芸能	茶会	10月7日(日)	河南公民館ほか	2,300円 (2,000円)	823人
	吟詠剣詩舞道祭	10月14日(日)	岩手県民会館／大ホール	無料	860人
	謡と仕舞の会	11月4日(日)	岩手県民会館／中ホール	無料	250人
	華道展	10月5日(金)～8日(月・祝)	岩手県民会館／展示室	300円	2,127人
邦楽のつどい		11月18日(日)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	305人

事業名		期 日	会 場	入場料金	入場者数
音 楽	ソロと室内楽の調べ	10月14日(日)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	211人
	ピアノ演奏会	10月20日(土)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	300人
	三曲演奏会	10月21日(日)	岩手県民会館／大ホール	2,000円	864人
	声楽演奏会	11月 3 日（土・祝）	岩手県民会館／中ホール	900円中学生以下無料	290人
	ギター音楽の夕べ	11月17日(土)	岩手県民会館／中ホール	700円(500円) 中学生以下300円	216人
	吹奏楽演奏会	11月23日（金・祝）	盛岡市民文化ホール／大ホール	1,000円(700円) 小学生以下無料	1,250人
	合唱祭	12月 2 日(日)	岩手県民会館／大ホール	1,000円(800円) 高校生以下700円(500円)	700人
	管弦楽フェスティバル	12月 2 日(日)	宮古市民文化会館／大ホール	1,000円高校生以下無料	200人
舞 踊	洋舞発表会	10月28日(日)	岩手県民会館／大ホール	3,000円 (2,500円)	1,303人
	日本舞踊公演	11月11日(日)	岩手県民会館／大ホール	3,000円	1,500人
演 芸	新舞踊発表会	10月21日(日)	花巻市文化会館／大ホール	2,000円 (1,500円)	1,120人
	民謡まつり	11月 4 日(日)	岩手県民会館／大ホール	2,000円 (1,500円) 高校生以下無料	800人
文 芸 祭	小説大会	10月28日(日)	岩手県民会館／会議室	無料	11人
	戯曲大会	H31年 1月14日（月・祝）	盛岡劇場／タウンホール	500円	12人
	文芸評論大会	10月 8 日（月・祝）	岩手大学農学部一号会議室	無料 懇親会1,000円	11人
	随筆大会	10月20日(土)	岩手県民会館／会議室	無料	16人
	児童文学大会	10月28日(日)	岩手県民会館／会議室	無料	36人
	詩の大会	10月20日(土)	なはんプラザ（花巻市）	1,000円	22人
	短歌大会	10月13日(土)	盛岡市勤労福祉会館	1,000円	118人
	俳句大会	10月20日(土)	盛岡市勤労福祉会館	1,500円	83人
	川柳大会	10月21日(日)	アイーナ803号室（盛岡市）	2,500円	110人
県民文芸作品集第49集刊行		小説／戯曲・シナリオ／文芸評論／随筆／児童文学／詩／短歌／俳句／川柳		12月 8 日 刊行	478人
移 動 公 演	新舞踊公演	11月25日(日)	サンホテル衣川荘（奥州市）	無料	100人
	民謡公演	12月 9 日(日)	岩泉町民会館	無料	400人
	新舞踊公演	12月 9 日(日)	一戸町コミュニティセンター	無料	98人

※料金の()内は、前売り料金

第71回岩手芸術祭市町村別応募作品数一覧

		美術展応募点数											県民文芸作品集応募点数										
部門 市町村名		日 本	洋 画	版 画	彫 刻	工 芸	書 道	写 真	デ ザ イ ン	現 代 美 術	水 墨 画	計	小 説	戯 曲	文 芸 評 論	随 筆	児 童 文 学	詩	短 歌	俳 句	川 柳	計	
		画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画
盛岡市	盛岡市	11	41	23	9	13	88	81	35	20	48	369	5	2	4	17	2	36	34	62	13	175	
	八幡平市		1		1						1	3								2		2	
	滝沢市	1	8	2			12	5	3	2	8	41	1			2	1	3	4	2	1	14	
	岩手町		1				1	4				6	1	1			1		1		2	6	
	雫石町		7		1		1					9				1			1	1		3	
	葛巻町		1						2			3								3		3	
	紫波町	1	7	2		2	10	4			3	29	1							6	3	10	
	矢巾町	5	5	2	3		4	2	4		1	26								2		2	
小計		18	71	29	14	15	116	98	42	22	61	486	8	3	4	20	4	39	40	78	19	215	
中部	花巻市	2	8		1	9	6	11	1	2	5	45	4	1		13	3	7	6	21	14	69	
	遠野市		4			6	2	2		1		15				1				1	1	3	
	北上市		6	3	2	5	4			4	6	30				1		7	7	25	1	41	
	西和賀町											0								1		1	
	小計		2	18	3	3	20	12	13	1	7	11	90	4	1	0	15	3	14	13	48	16	114
県南	奥州市	2	13	3	2	2	6	2	1	1		32	1			3	1	1	7	20	4	37	
	金ヶ崎町		1									1				3	1			7		11	
	一関市	2	13	1	1	1	3	1			18	40						4	3	8	3	18	
	平泉町	1					1	1			1	4								1		1	
	小計		5	27	4	3	3	10	4	1	1	19	77	1	0	0	6	2	5	10	36	7	67
沿岸南部	大船渡市						2	1	1	1	3	8				1		4				5	
	陸前高田市						2				1	3						1		2	1	4	
	住田町											0						1			1	2	
	釜石市		11	2		2	4	4	5		1	29			1							1	
	大槌町		1					1	2			4								1		1	
	小計		0	12	2	0	2	8	6	8	1	5	44	0	0	1	1	0	6	1	2	2	13

		美術展応募点数											県民文芸作品集応募点数										
部門 市町村名		日 本 画	洋 画	版 画	彫 刻	工 芸	書 道	写 真	デ ザ イ ン	現 代 美 術	水 墨 画	計	小 説	戯 曲	文 芸 評 論	随 筆	児 童 文 学	詩	短 歌	俳 句	川 柳	計	
宮古	宮古市	2	21	1		2	17	6		2	1	52	1			2	2	5	1	4	4	19	
	山田町	12	1					2				15							1	1		2	
	岩泉町		1			3						4							2	1	1	4	
	田野畑村		2				1		4			7											
小計		14	25	1	0	5	18	8	4	2	1	78	1	0	0	2	2	5	4	6	5	25	
県北	久慈市		5					5				10	1	1					2	8	2	14	
	洋野町						1					1								2	4	6	
	野田村											0				1			1			2	
	普代村											0								1	1	2	
	二戸市		11				3	1		1		16							1		1	2	
	一戸町		2				1	1			1	5								1		1	
	軽米町		5				1					6											
	九戸村											0											
小計		0	23	0	0	0	6	7	0	1	1	38	1	1	0	1	0	0	4	12	8	27	
県外			3		4	3	2		1		2	15	2	2		1		12	2	3	4	26	
合計		39	179	39	24	48	172	136	57	34	100	828	17	7	5	46	11	81	74	185	61	487	